北杜市埋蔵文化財調査報告　第 25 集

北杜市文化財年報

－平成 18 年度－

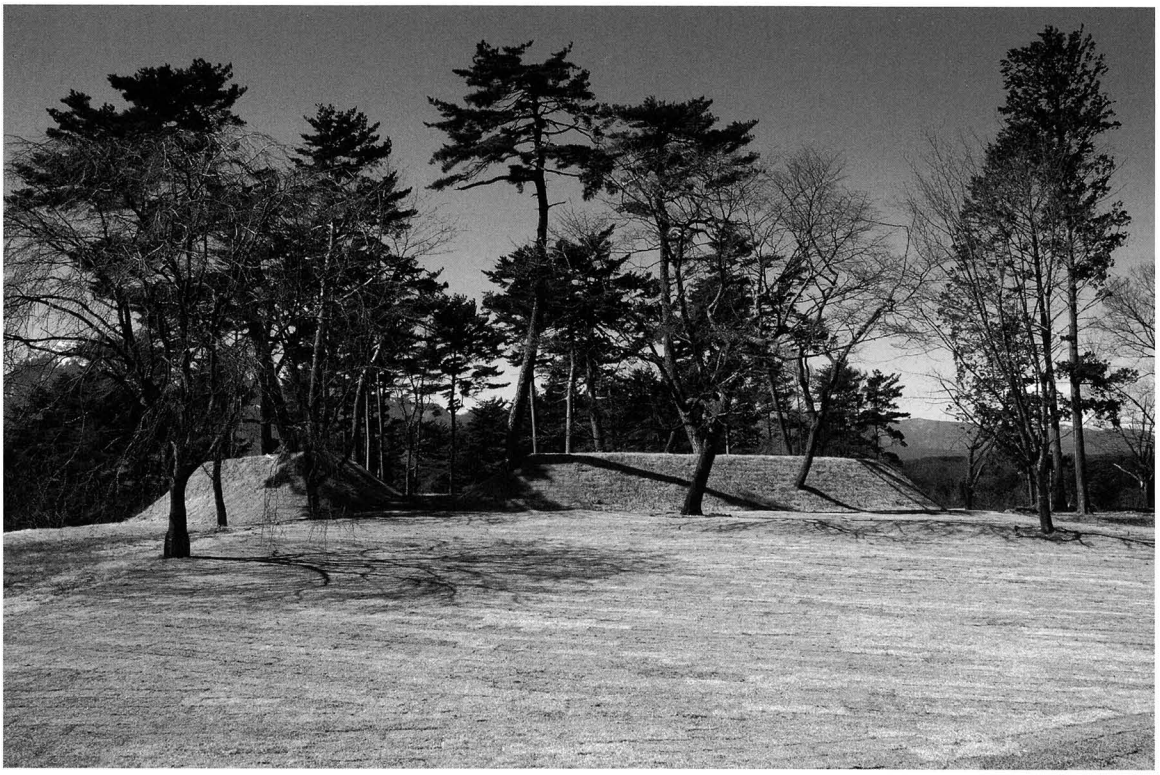
2007
山梨県北杜市教育委員会

北杜市埋蔵文化財調査報告　第25集

北杜市文化財年報

－ 平 成 18 年 度 －

2007
北杜市教育委員会

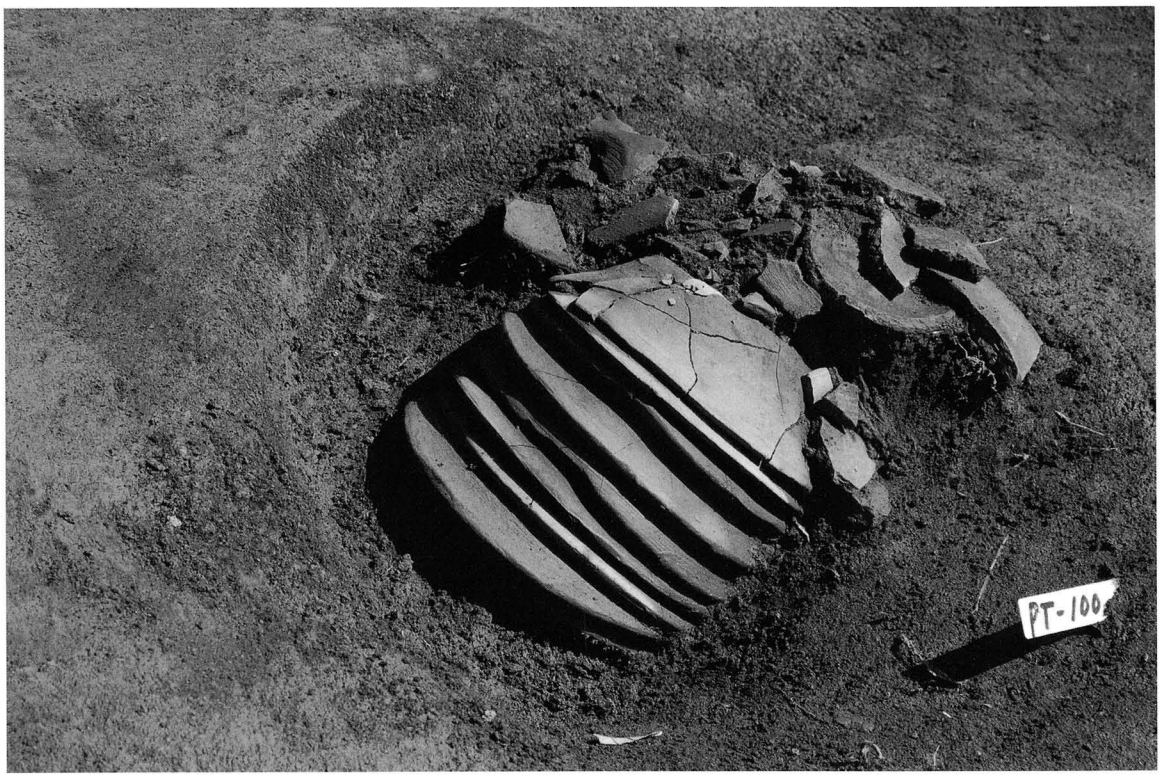


史跡谷戸城跡一の郭土塁

根古屋神社の大ケヤキ

梅之木遺跡の敷石住居跡

縄文時代中期末葉の環状集落跡「梅之木遺跡」の北側を流れる湯沢川沿いで検出された曽利Ⅳ式期の敷石住居跡。山梨県内でも最も初期段階の敷石住居で、石囲炉、埋甕を備えている。写真左側の敷石は失われている。



浅尾原Ⅵ遺跡　平安時代の土師器埋納遺構

平安時代の住居跡内のピットに埋納された土師器坏。削平により破壊されたものを含めて15個体が重ねられていた。全てに「天」の墨書が認められ、呪術的な埋納行為であると考えられる。

日影田遺跡の薬研堀跡

市道建設工事で検出された薬研堀。日影田遺跡周辺に中世居館跡の伝承は認められないが、方一町の地割が残る。

笹尾塁跡の空堀断面

市指定史跡「笹尾塁跡」の３の郭と４の郭を区画する空堀跡。この断面から、まず３の郭側から土塁を突き崩して堀を埋め、その後に４の郭側から同様に埋め戻している様子が分かる。

頭無Ａ遺跡全景（右が北）

頭無Ａ遺跡５号方形周溝墓主体部で出土した鉄釧（左）と鉄剣（右）

例　　言

1　本書は、山梨県北杜市における平成18年度の文化財保護活用事業の概要を記した年報である。

2　本書には、北杜市教育委員会の文化財保護活用事業を所管する機関の組織機構、平成18年度の指定文化財等の保護活用事業、北杜市郷土資料館の事業活動、埋蔵文化財保護業務、埋蔵文化財関連事務一覧を掲載した。

3　本書の編集発行は下記の組織で行った。

北杜市教育委員会　教育長　小清水淳三

北杜市教育委員会　生涯学習課文化財担当

4　本書中各章・項目の文責は、各文末に執筆者名を記して示した。

5　本書の印刷製本費は、国庫補助金、県費補助金、各種土木工事等の事業主体者からの負担金、北杜市費をもって充てた。

6　本書中に掲載した遺跡の出土品及び調査に係わる諸記録は、北杜市教育委員会が保管している。

7　平成18年度の文化財保護業務にあたり、多くの市民、事業者、関係機関、関係者のご理解とご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

目　　次

巻頭口絵

例言

第１章　指定文化財保護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第１節　指定文化財の保護事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第２節　文化財の指定及び解除・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

第３節　文化財活用事業・・９

第４節　文化財普及事業・・９

北杜市指定文化財一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

第２章　北杜市郷土資料館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

第１節　展示活動・・１５

第２節　教育普及活動・・１６

第３節　資料収集・保管活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

第４節　その他の活動・・１９

第５節　資料館利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

第３章　埋蔵文化財の保護と発掘調査速報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

１　梅之木遺跡・・・２２

２　西久保遺跡・・・２４

３　浅尾原Ⅵ遺跡・・２５

４　西久保遺跡・・・２８

５　窪田遺跡・・２９

6　日影田遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
7　竹宇３遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
8　小屋敷遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
9　下村遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
10　頭無Ａ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
11　吉良窪遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３
12　真原Ａ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
13　御崎前遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
14　笹尾墨跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
15　清水遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
16　治郎田遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
平成１８年度刊行報告書一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
文化財保護法による届出・通知一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０

第１章　指定文化財の保護と保存

第１節　指定文化財の保護事業

市域602k ㎡の北杜市内には、国指定文化財７件、山梨県指定文化財36件、北杜市指定文化財150件がある。これらの指定文化財の保護・保存のため、平成18年度は以下の事業を行った。

１）史跡谷戸城跡調査保存整備事業

逸見黒源太清光（1110～1168？）の居城と伝えられ、山梨県内でも最古に位置づけられる山城跡、史跡谷戸城跡の整備事業を実施した。事業名称は史跡谷戸城跡総合整備活用推進事業で、事業期間は平成15年度から平成19年度である。平成18年度は整備事業４年目となる。この整備事業にあわせて整備のための発掘調査を実施した。平成18年度の発掘調査は谷戸城跡の第９次調査となる。本事業のために史跡谷戸城跡調査保存整備委員会および専門委員会を組織して、適宜、指導助言を仰いだ。以下に整備事業と発掘調査の概要を記す。

調査保存整備委員会は平成18年９月20日、専門委員会は平成18年９月20日と平成19年１月22日にそれぞれ開催した。整備工事と発掘調査の内容等についての指導助言を受けた。

平成18年度の史跡谷戸城跡史跡等総合整備活用推進事業では、設計及び監理4,137千円、復元的整備工事47,663千円、遺構等調査1,500千円を実施した。総事業費は、53,788千円で、国庫補助金、県費補助金の交付を受けた。

復元的整備工事は請負とし、一の郭、二の郭、帯郭、四の郭、搦め手、園路の整備工事、西斜面、南斜面の擬木階段の撤去と法面復旧、南側山裾の復旧、城内北東部の除木を施工した。工事面積は約3,000 ㎡である。整備工事の実施設計及び施工監理は委託とした。

今年度事業により一～三の郭、帯郭の整備（土塁・空堀、平場の保護盛土）がほぼ終了し、城の中心部分の遺構整備がほぼ終了した。

具体的な工事内容は、一の郭で虎口部分の土塁保護盛土、張芝、二の郭で郭北半の保護盛土、張芝、帯郭で郭西端の保護盛土と土塁整備、張芝、搦め手で空堀の掘削と張芝、その他、園路整備、擬木階段の撤去と法面復旧、南側山裾の崩落部分復旧、城内北東部の除木である。工事に際して、土塁及び郭は保護盛土し、搦め手は空堀の掘削を行って通路の形状を強調した。仕上げは全て芝張りとした。西及び南斜面の法面復旧は、土留め柵を設置しながら盛土し、芝を張って仕上げとした。南側山裾の復旧は、崩落土を除去後にフトンカゴを階段状に設置し、その上に土を盛って植生シートで覆った。除木は、極力地面に近いところで切り、抜根はしなかった。

設計及び監理は株式会社文化財保存計画協会に委託した。

整備に伴う遺構等調査は教育委員会が直営で実施し、帯郭、北側駐車場、南斜面階段撤去跡で調査を行った。調査期間は平成18年12月から平成19年３月まで、調査面積は約100 ㎡で空堀を検出し、縄文時代の土器と石器コンテナ１箱分が出土した。この発掘調査の詳細を記す。

調査は史跡内を対象に、整備事業のための基礎資料を得ることを目的とした。すでに平成10年から15年度までの発掘調査で面的な調査は終了しているため、今年度は補足的な調査として、工事施工により確認が必要になった箇所と、舗装があったためこれまで調査できなかった箇所の調査を行った。調査後は遺構の保護を図りながら、発生土で埋め戻した。

帯郭の外縁では盛土の状況が確認できたことから、ほとんど土塁の痕跡のない部分でも土塁が築かれていたことが確認された。北側駐車場では、平成15年度に調査した空堀の続きを確認した。これにより、城の中と外を区画する空堀の内側にも空堀が巡らされていることが確認された。この堀の東の端は、城の北側に隣接する田地に通じていることから、山とその外側にある郭とを結ぶ通路であったと考えられる。西の端はアスファルト及びコンクリートの舗装面の下になるため、調査はできなかった。南斜面では、擬木階段設置時の撹乱により、城の遺構らしきものは確認されなかった。

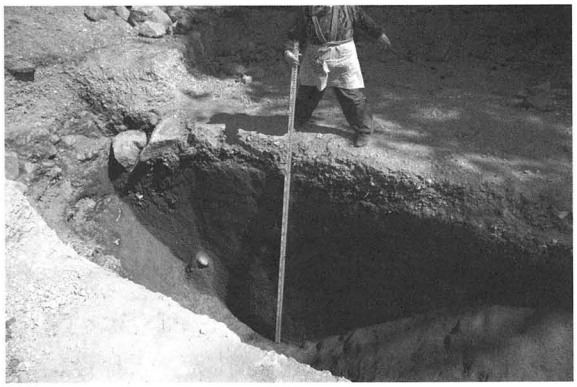
帯郭の西端は、土塁の存在は想定されるものの、現況では痕跡がつかめない状態であるため、土塁基底部に４本のトレンチを設定して調査を行った。その結果、各トレンチでは黒色土の上にローム質土を盛っている状況が確認された。以前の調査で四の郭には黒色土が堆積していることがわかっており、ここで確認された黒色土も同じ自然堆積による層と考えられる。その上のローム質土は明らかな盛土であり、上部に遺構はほとんど残っていないものの、土塁築造のための盛土と判断した。

北側駐車場部分の調査区は、平成15年度に調査した北斜面園路を西側へ延長した部分にあたる。15年度には、谷戸城の北に隣接する田地から城内に通ずる空堀を確認しており、今回の調査は空堀の規模を確認することを目的としている。調査区には２本のトレンチを設定し、いずれからも空堀を確認した。15年度の調査結果と合わせると、地表面からの深さは西側ほど浅くなり、底幅も西側が広い。土層断面の観察からは、人為的に埋め戻された形跡は認められなかった。北側から黒色土の流れ込みが見られることから、空堀の外側に土塁のような施設があった可能性もあるが、現在は撹乱により失われている。この空堀は、城の中と外を区画する空堀のすぐ内側の空堀になるが、この中を移動した場合、城外からは全く見ることができない。

南斜面で擬木階段を撤去した後、調査を行ったが、擬木設置時の掘削が深かったため、城に関係する施設を確認することはできなかった。

平成18年度には、ガイダンス施設「谷戸城ふるさと歴史館」の建設事業も実施した。歴史館の建築工事は平成17年度に完了し、平成18年度は内部の展示設備工事を実施した。平成19年度より一般に公開する予定である。

空堀検出状況



空堀検出状況

２）天然記念物「山高神代ザクラ」環境整備事業

平成14年度に神代ザクラ樹勢回復のため、神代ザクラ前の市道を迂回させる措置を講じたが、旧市道がそのまま放置され景観上、大きな問題となった。そこで、旧道を環境整備し散策路とする工事を起債事業に位置づけて実施した。事業実施に際しては指定物件の樹勢維持に最大限配慮し、神代ザクラの見応えを増すよう計画した。この計画については神代ザクラ樹勢回復検討委員会に内容を説明し、了承を得て実施した。

３）天然記念物「根古屋神社の大ケヤキ」土壌改良事業

田木、畑木の２本のケヤキの巨樹からなる「根古屋神社の大ケヤキ」は、平成18年に畑木の芽吹きが例年より大幅に遅れ、樹勢の衰えが懸念された。そこで、今後の施肥等の措置について指導を求めるため、平成18年10月14日、文化庁記念物課調査官、県教委学術文化財課職員、平成11・12年度樹勢回復工事施工樹木医に立会いを求め、樹勢の確認をした。

その結果、前回の土壌改良後、５年以上が経過し施肥の時期にきていること、境内の構造物の配置が樹勢に与

える影響を考慮すると、前回の施肥と同様の注入法、もしくは坪掘りをしての施肥が望ましいこと、全般的な樹勢については葉も大きくなり、多くなっていることから回復していることが確認できること、田木は主幹が東に傾斜しているにもかかわらず、上部の枝は西側に展開していないことから非常にバランスが悪く、腐朽の進行と併せ、なお危機的状況を脱していないこと、などが指摘された。

これらの指摘を受けて、早期の樹勢回復措置のため今年度中に施肥を実施する現状変更許可を申請することとした。また、年度内に保存事業検討委員会を再度、組織し、樹勢回復の措置について検討するべきこと、検討委員会の結果を受けて、可能ならば平成19年度から再生工事に取り掛かることとした。

平成18年11月10日付で施肥のための現状変更許可申請書を提出し、同11月30日付で許可書を受理した。翌平成19年1月18日に施肥に着手した。

工事はエアースコップで直径45cmほど、深さ50cmほどの穴を100か所掘り、完熟堆肥、テクノペレットを施肥した。この工事に際し、予想以上に多くの人頭大の礫が出土し、今後の樹勢回復事業の困難さを予想させた。

４）重要文化財「八代家住宅」小修理事業

落雷による火災を予防するために敷地内に設置した避雷針の雷導線が、隣接する立木に接触し、断線の恐れがあるため導線をプラスチックパイプに収納したうえで、支柱にステンレスバンドで結束することとし、所有者八代氏を補助事業者として小修理を実施した。全体事業費の50%を県が補助し、25%を北杜市が補助した。

５）北杜市指定有形文化財（建造物）「山口諏訪神社本殿及び拝殿」修理事業

経年劣化した拝殿壁の改修、拝殿正面へのサッシ新設、物入れの改修について所有者より平成18年4月3日付で陳情があった。形状を大きく変更する工事内容であったので、市文化財保護審議会に諮ったところ、本文化財の価値を構成する主たる要素である本堂の改変を伴わないこと、拝殿下部の廻り舞台に影響がないことを確認したうえで、現状変更が許可された。これを受けて改修工事を実施し、その費用について補助金を交付することとなった。平成19年1月30日着工し、2月14日に完了した。

６）山梨県指定天然記念物「横手の駒のマツ」マツクイムシ予防薬剤樹幹注入事業

国指定天然記念物「萬休院の舞鶴マツ」がマツノザイセンチュウ病に罹患したのを受け、文化庁から防除のため樹幹注入と薬剤散布を可能な限り併用するよう要請があったことにより、平成19年3月にグリーンガードエイトを樹幹注入する措置を講じた。

７）北杜市指定天然記念物「八ヶ岳権現社のマツ」保護増殖事業

平成17年12月、当該物件の主幹に大きな穴があき、損傷しているとの通報があり、現地を確認したところ、ミツバチが主幹に巣を掛け、巣をクマが掘り出したことによる損傷と推定された。平成18年8月30日付で文化財管理者からの補助金申請を受理し、9月1日に着工、10月31日に補修工事を完了した。

８）緊急保護対策

①天然記念物萬休院の舞鶴マツ保護事業

国指定の天然記念物「萬休院の舞鶴マツ」がマツノザイセンチュウ病に罹患し、緊急対応を講じた。以下に経

過の概略を示す。

平成18年10月21日、本物件を長年観察してきた樹木医よりマツノザイセンチュウ病罹患の可能性があると報告があり、同22日、県教育委員会学術文化財課指導監と市担当で現地を確認。

同月23日、検体を採取し県緑化センター、森林総研に分析を依頼。同31日、現地調査。県森林総合研究所研究員、樹木医、所有者、県学術文化財課職員、生涯学習課職員で協議し、マツノザイセンチュウ病（マツクイムシ）の検査結果を受けて現地を確認・調査することとする。また、早急に根系の総合的な調査を進め、来年2月末を目処に調査成果を纏め、今後の樹勢回復方針を固め、文化庁との協議を進める。調査は日本樹木医会山梨県支部に依頼するのが適とした。

11月9日、現地調査。日本樹木医会山梨県支部樹木医、所有者、県教委学術文化財課職員、市生涯学習課長、担当参集。

根系調査では全ての試掘坑で生きている根は確認されなかった。また、ヤニの湧出が全く認められず、10月31日の段階で支柱に滴っていたヤニも乾燥していた。

樹体については当面の間は葉水を続ける。養分の葉面散布も検討。また、文化庁調査官の現地確認を早期に実現することとした。

同月11日、東京農工大渡辺助教現地確認。ザイセンチュウ病罹患の可能性が大きいので検査の精度を上げるよう指示有り。検査精度を上げるため主幹に近い部位の太枝にドリルで穴を開けサンプル採取することとし、13日、検体採取。主幹・太枝・根から場所を変えて11点採取。

同15日、マツノザイセンチュウが検出された旨連絡あり。同17日、現地協議。経過確認後ザイセンチュウの分析結果が報告される。今後の措置として樹幹注入しか手段がないことを確認。回復の可能性が僅かしかないことから所有者（檀家総代会）で意志確認後施工することとし、17日、所有者の総意として樹幹注入を実施することを決したと連絡あり。これを受け、平成18年11月20日、樹幹注入施工。グリーンガードエイト220mlを90本注入。うち18本を主幹、9本を根に施用。

11月24日、12月5日、樹木医会の判断として蒸散抑制剤グリーンナー散布。

平成18年12月１９日、文化庁調査官現地確認。今後の措置について指導を受ける。その結果、当面の措置として、このまま樹幹注入を続けながら様子を見守ることとする。ただし、ザイセンチュウの入ったものは急速に枯れが進行するので、枯れ枝は伐採し、軽くした方が樹体の負担が軽くなる。枯れ枝の伐採は県・市・樹木医会で協議すること。3月中にどの枝を切るか決断し、施工は4月中が望ましいとした。また、舞鶴マツからのザイセンチュウ拡散を防ぐため薬剤散布が必要となる。林務のマニュアル等を確認しながら齟齬のないよう防除すること。但し、国指定物件であることから慎重な対応が必要であり、主幹からの伐採処理は認めない。遺存部位へのザイセンチュウの侵入は樹幹注入により予防されていることから不要とした。

萬休院から舞鶴マツの対応で平成18年10月以降に要した金額及び平成18年度中に想定される処置費明細の提出を受け、県教委と協議。その結果、県補助事業の対象とする範囲を土壌調査・樹幹注入までとし、診断に要した経費・散水・マツクイムシ飛散防止のための薬剤散布は市単独補助とすることで庁内協議。市単補助については市補助率を75%とした。

②北杜市指定天然記念物「祖神のバラ」保護増殖事業

平成18年 6月6日、落雷により市指定天然記念物「祖神のバラ」に直径60ｃｍほどの太枝が折れる被害が発生。その毀損部の処理と落下した枝の処理に対して補助金を交付した。6月8日に着工、平成 19年3月1日完了。補助事業者は所有者で、市が事業費の50%を補助した。

③山梨県指定天然記念物「比志神社の大スギ」枝折れに伴う治療及び神社拝殿補修事業

平成19年1月6日の降雪により直径30センチメートルほどの枝が落下。この枝と別に直径30センチメート

ルほどの枯れ枝があり、落下防止のため維持の措置として枯枝を伐採することで県教育委員会に確認。この作業に対し補助金を交付したもの。2月15日に着工、3月20日完了。補助事業者は所有者で、市が事業費の50%を補助した。

９）指定文化財管理等補助事業

以下の国および県指定文化財について、山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受けて保護・保存事業を実施した。

①　国指定天然記念物万休院の舞鶴マツマツクイムシ防除薬剤散布事業

年間4回、所有者である万休院を補助事業者として薬剤散布を実施した。平成18年度は5月25日、6月21日、7月28日、９月10日に実施した。薬剤はスミチオンを使用したが、防除時期が適正ではないとして所有者、防除受託者と防除時期の改善について協議した。しかし、その直後、前述のとおり10月21日に異常発生を確認、マツノザイセンチュウ病罹患が確認された。

②　山梨県指定天然記念物遠照寺のアカマツマツクイムシ防除薬剤散布事業

所有者である遠照寺を補助事業者として年間2回の薬剤散布を実施した。全体事業費の50%を県が補助し、25%を北杜市が補助した。

③　山梨県指定天然記念物横手の駒のマツマツクイムシ防除薬剤散布事業

管理者である北杜市が補助事業者となって年間3回の薬剤散布を実施した。平成17年は6月6日、７月6日、8月6日に実施。薬剤はスミチオン乳剤を使用。全体事業費の50%を県が補助。

④　重要文化財八代家住宅防災施設保守・点検事業

所有者八代氏が補助事業者となって年間2回、点検を実施した。自動火災報知設備５窓、加圧式消火設備3基、避雷設備１針の保守点検。全体事業費の50%を県が補助し、25%を北杜市が補助した。

⑤　山梨県指定有形文化財（建造物）旧津金学校防災施設保守・点検事業

山梨県文化財保存事業費補助金の交付を受け、年間２回実施。自動火災報知設備５窓、避雷設備１針、消火設備上下水道連結式１基の保守点検。補助事業者は所有者である北杜市。全体事業費の50%を県が補助。

北杜市文化財保存事業費補助金を交付して以下の保護・保存事業を実施した。

①　国指定天然記念物万休院の舞鶴マツ管理事業

所有者の万休院を補助事業者として日常管理のハダニ、シンクイムシの消毒作業、下草刈りを実施した。ハダニの消毒にはダニトロンフロアブルを使用し、全体事業費の50%を北杜市が補助した。ハダニ消毒施工時には、山梨県緑化センターの樹木医の診断を受け事業の適正な執行に努めた。

②　国指定天然記念物山高神代ザクラ管理事業

所有者の実相寺を補助事業者として、神代ザクラ周辺の除草管理、神代ザクラに隣接する桜のテングス病に罹患した枝の除去、神代ザクラ周辺の花の植え替え作業を実施した。全体事業費の50%を北杜市が補助した。

③　北杜市指定無形民俗文化財伝承活動補助事業

北杜市指定無形民俗文化財の伝承活動に対する補助で、全体事業費の50%以内を補助した。熱那神社の太々神楽では袴購入、箕輪海道の道祖神祭りは伝承活動をそれぞれ実施した。逸見神社、八嶽神社の大和神楽では、神楽衣装の保存・維持に補助金を交付した。

10）現状変更

農村公園整備事業に伴い、北杜市指定史跡「笹尾塁跡」を現状変更した。事業と調査の詳細については第3章を参照いただきたい。

11）滅失・毀損届

特別天然記念物カモシカの死亡確認および処理状況について（報告）を1件処理している。

平成18年10月4日発見通報、同日確認。発見および確認場所は北杜市須玉町江草岩下地内、岩下集落の東側、小森川途中橋北の道路敷である。死亡を確認した個体は、オスで体長90㎝、体高65㎝、体重推定35㎏程度である。体毛が禿げていたことから、死亡原因は感染症による衰弱死と推定された。

12）文化財等修理事業

経年劣化していた国指定史跡の金生遺跡ふるさと歴史公園内に復元した住居跡の茅屋根を葺き替えた。当初1棟の予定であったが、他の住居の屋根の損傷も深刻であったことから急遽3棟全部を葺き替えることとなった。

13）その他の保護・保存措置

以下の指定文化財の管理業務を実施した。

・国指定天然記念物「美し森の大ヤマツツジ」の管理

県教委の委託を受けて「大ヤマツツジを守る会」が清掃、下草除去等の管理を実施しているほか、北杜市単独予算により峡北シルバー人材センターにテングス病の消毒を委託している。

・「史跡谷戸城跡ふるさと歴史公園」の管理

峡北シルバー人材センターに除草管理を委託。年3回の実施。

・「史跡金生遺跡ふるさと歴史公園」の管理

北杜市大泉町城南地区青年会に除草管理を委託。年3回の実施。また、峡北シルバー人材センターに植木の管理を委託している。

・山梨県指定史跡「深草館跡」の管理

北杜市長坂町大八田の個人に除草管理を委託。

・山梨県指定天然記念物「横手の駒のマツ」の管理

平成19年1月剪定作業を実施。

・北杜市指定天然記念物「石尊神社参道の松並木」の管理

北杜市白州町鳥原地区の三耕地後継者部会に委託してマツクイムシ防除薬剤散布作業を年２回実施。使用薬剤はスミチオン乳剤。平成１８年６月 11 日、７月２日に実施。また、設置してあるスプリンクラーに不具合があり、付け替え工事を実施した。

・北杜市指定史跡「獅子吼城跡」の管理

北杜市須玉町江草地区に委託して年１回の除草管理を実施。

・北杜市指定史跡「長清寺古寺跡」の管理

指定時の条件により通常管理は市が担当することになっている。これにより直営で賃金対応により除草管理を年２回実施。

・北杜市指定史跡「屋代氏館土塁跡」の管理

指定時の条件により通常管理は市が担当することになっている。これにより直営で賃金対応により除草管理を年２回実施。

・北杜市指定史跡「穴塚古墳」の管理

指定時の条件により通常管理は市が担当することになっている。これにより直営で賃金対応により除草管理を年２回実施。

・北杜市指定史跡「山口の口留番所跡」の管理

周辺植栽のイチイに毛虫が大量発生し、隣接する市有地の竹にも発生したことからこれを消毒、防除し、併せて隣接地の竹を伐採、整備した。

第２節文化財の指定及び解除

１）新規指定物件

①山梨県指定有形文化財（考古資料）「深山田遺跡出土銅鋺」

平成 18 年２月 15 日付で北杜市指定文化財として告示された考古資料が、平成 18 年４月 27 日付けで山梨県指定有形文化財（美術工芸品）として告示された。

２）指定解除

①北杜市指定史跡「浅川兄弟生誕の地」他６件の指定解除

平成 17 年度より継続で審議してきた北杜市指定文化財の種別・名称の見直しに伴い、一部に種別・名称の見直しにより難い物件があり、指定解除するのが相当の結論を得た。以下に調査書の抜粋を提示する。

調査書北杜市指定文化財の指定解除について（抜粋）

平成 17 年８月５日の「北杜市指定文化財の種別・名称の見直しについて」の諮問を受け、同日開催された平成１７年度第１回北杜市文化財保護審議会より検討を重ねてきたが、一部に種別・名称の見直しにより難い物件

があり、指定解除するのが相当の結論を得た。指定解除を相当としたのは以下の物件である。

- 史跡浅川兄弟生誕の地
- 史跡大井ヶ森関所跡
- 史跡小荒間古戦場跡
- 史跡清光の墓
- 史跡八幡大神社
- 史跡日蓮上人と高座石
- 史跡観音平

以下に個々に事由を述べる。

史跡浅川兄弟生誕の地

当該物件は旧高根町により史跡として指定されてきた。市指定史跡とは言うまでもなく市内に残された遺跡の中で重要なものであるが、この指定は漠然と地域を定めたもので、遺構等の残された範囲ではない。保護・保全を目的として指定に至るのが通常であるがその保護・保全を図る内容、地域が特定されておらず史跡としては不適当である。よって指定解除を相当とする。

史跡大井ヶ森関所跡

当該物件は旧長坂町により史跡として指定されてきた。指定地は井戸や昭和7年の聞き取りによる敷地の推定範囲のごく一部のみで、中央を県道長沢小淵沢線が横断しており、保護すべき遺構がほとんど残されていない。保護・保全すべき遺構等が残されていないにもかかわらず史跡として指定していることは不適当である。関所（口留番所）が置かれた史実は否定しないものの、指定解除を相当と判断する。

史跡小荒間古戦場跡

当該物件は旧長坂町により史跡として指定されてきた。この指定は江戸時代に編纂された『甲陽軍鑑』を根拠とするが、江戸後期に編纂された『甲斐国志』でも否定的に捉えられている。近年、あらためて文献史の立場から当該地での戦闘が否定され、歴史的位置付けに問題があるものを史跡として保護・保全するのは適当ではなく、指定解除が相当と判断する。

史跡清光の墓

当該物件は旧長坂町により史跡として指定されてきた。逸見清光の埋葬場所については谷戸城西側の丸山の説以外にも諸説あり、この地が埋葬の場所という検証も試みられていない上に文献的な裏付けもなく、史実とは認められない。また、五輪塔は昭和45年に像立されたものである。客観的に史実と認められない物件を史跡として指定しておくことは問題があり、よって指定解除が相当と判断する。

史跡八幡大神社

当該物件は旧長坂町により史跡として指定されてきた。社記によると源義光が勧請したのが起源となっているが義光自体の甲斐国内での活動について文献史の立場から批判があり、それ以外に根拠となるものがなく、史実と認定しがたい。また、本殿についても棟札も残されておらず、その建築時期が不明である。よって史跡としての価値を認めることができず、指定解除が相当と判断する。

史跡日蓮上人と高座石

当該物件は旧長坂町により史跡として指定されてきた。伝承によると日蓮上人が佐渡からの帰り、この石の上で説法をしたということであるが、同種の伝承は各地に残り史実に基づいたものとは確認できない。また、日蓮上人の等身の像が置かれているが像立年代は明確ではなく、文化財としての位置付けは困難である。よって、史跡としての価値を認めることができず、指定解除が相当と判断する。

史跡観音平

当該物件は旧小淵沢町により史跡として指定されてきた。伝承を根拠として指定されてきたが、近年の烽火台の研究によりルートから離れているという疑問が提出されている。また、現地においても痕跡がなく、現状では史実に基づいたものとは認められない。よって、指定解除が相当と判断する。

北杜市指定天然記念物「高龍寺のシダレクロマツ」の指定解除

平成18年9月11日、当該物件のマツノザイセンチュウ病罹患、枯死の確認により指定解除とした。

３）北杜市指定文化財の種別・名称の見直し

平成17年度より継続で審議してきた北杜市指定文化財の種別・名称の見直しについて、別紙一覧のとおり変更することとした。解除物件については上記のとおりだが、これ以外に別種のものを所有者が同一であったりするために同時に指定されていた「建岡神社の法楽百首（書跡）」・「建岡神社の御染筆の額（工芸品）」、「逸見神社の大和神楽」・「八嶽神社の大和神楽」に分離した。

第３節　文化財活用事業

１）棒道ウォーク part.2

平成17年度に引き続き棒道ウォーク part.2を開催した。今年度は谷戸城跡を出発して大泉町谷戸城南から棒道に入り、小淵沢町旧八ヶ岳横断道料金所までを踏破するコースとした。平成18年11月23日の勤労感謝の日に実施した。

第４節　文化財普及事業

文化財普及事業としてパンフレットの作成（史跡谷戸城跡・天然記念物山高神代ザクラ・天然記念物根古谷神社のオオケヤキ）した他、天然記念物山高神代ザクラの樹勢回復事業の記録映像（DVD）を作成した。

北杜市指定文化財一覧表

	名称	ヨミガナ（全角カタカナ）	種別	所在地		指定年月日
1	長閑屋敷跡	チョウカンヤシキアト	史跡	長坂町	長坂上条1032	S45.10.1
2	山口口留番所跡	ヤマグチクチドメバンショアト	史跡	白州町	上教来石1359	S48.12.1
3	馬検所跡	バケンジョアト	史跡	明野町	小笠原5056	S51.1.20
4	中山砦跡	ナカヤマトリデアト	史跡	武川町	三吹3037	S62.3.2
5	小尾兵之進の墓	オビヒョウノシンノハカ	史跡	高根町	五町田636-2	S62.4.14
6	若神子城跡（古城）	ワカミコジョウアト（コジョウ）	史跡	須玉町	若神子2852	S63.3.18
7	獅子吼城跡	シシクジョウアト	史跡	須玉町	江草5340	S63.3.18
8	源太ヶ城跡	ゲンタガジョウアト	史跡	須玉町	上津金2449-1	S63.3.18
9	比志城跡	ヒシジョウアト	史跡	須玉町	比志3732-1	S63.3.18
10	大渡の烽火台跡	オオワタリノノロシダイアト	史跡	須玉町	江草16042	S63.3.18
11	長沢口留番所跡	ナガサワクチドメバンショアト	史跡	高根町	長沢454	H4.2.18
12	屋代氏館跡	ヤシロシヤカタアト	史跡	明野町	上神取1396	H5.10.1
13	穴塚古墳	アナヅカコフン	史跡	明野町	三之蔵266	H6.8.23
14	棒道	ボウミチ	史跡	小淵沢町	大平地内	S41.6.10
15	笹尾塁跡	ササオルイアト	史跡	小淵沢町	下笹尾754-1	S41.6.10
16	長清寺古寺跡	チョウセイジコジアト	史跡	明野町	小笠原1151	H11.10.28
17	浄居寺の庭園	ジョウコジノテイエン	名勝	明野町	浅尾新田132	S51.1.20
18	清泰寺の庭園	セイタイジノテイエン	名勝	白州町	花水1461	S62.4.6
19	三分一湧水	サンブイチユウスイ	名勝	長坂町	小荒間717-1他	H16.1.30
20	相生のマツ	アイオイノマツ	天然記念物	小淵沢町	小淵沢2969-1	S41.6.10
21	高野八幡神社の祖神のバラ	コウヤハチマンジンジャノソシンノバラ	天然記念物	小淵沢町	小淵沢8702	S41.6.10
22	穂見諏訪十五所神社の大ケヤキ	ホミスワジュウゴショジンジャノオオケヤキ	天然記念物	長坂町	長坂上条1461	S45.10.1
23	諏訪大神社のアカマツ	スワダイジンジャノアカマツ	天然記念物	明野町	浅尾新田1230	S47.3.1
24	石尊神社参道の松並木	セキソンジンジャサンドウノマツナミキ	天然記念物	白州町	鳥原3107	S48.12.1
25	前沢正八幡神社のケヤキ	マエザワショウハチマンジンジャノケヤキ	天然記念物	白州町	白須6668	S48.12.1
26	花水カヤの群落と大フジ	ハナミズカヤノグンラクトオオフジ	天然記念物	白州町	花水1462周辺	S48.12.1
28	横手巨麻神社のサワラ	ヨコテコマジンジャノサワラ	天然記念物	白州町	横手1674	S48.12.1
29	白須若宮八幡神社のモミ	シラスワカミヤハチマンジンジャノモミ	天然記念物	白州町	白須1598	S50.1.10
30	逸見神社のトチノキ	ヘミジンジャノトチノキ	天然記念物	大泉町	谷戸1128	S52.4.11
31	八嶽神社のホオノキ	ヤツガタケジンジャノホオノキ	天然記念物	大泉町	西井出1878-1	S52.4.11
32	八嶽神社のコナラ	ヤツガタケジンジャノコナラ	天然記念物	大泉町	西井出1878-1	S52.4.11
33	八嶽神社のシンジュ	ヤツガタケジンジャノシンジュ	天然記念物	大泉町	西井出1878-1	S52.4.11
34	道喜院のスギ	ドウキインノスギ	天然記念物	大泉町	谷戸2093	S52.4.11
35	丸山のモミ	マルヤマノモミ	天然記念物	大泉町	谷戸2440-1	S52.4.11
36	東原のイトザクラ	ヒガシハラノイトザクラ	天然記念物	大泉町	西井出4520-1	S52.4.11
37	城南のツバキ	ジョウナンノツバキ	天然記念物	大泉町	谷戸2572	S52.4.11
38	豊武のカシ	トヨタケノカシ	天然記念物	大泉町	谷戸3694	S52.4.11
39	柳沢のサルスベリ	ヤナギサワノサルスベリ	天然記念物	武川町	柳沢1488	S53.11.1
40	柳沢のヤマグルマ	ヤナギサワノヤマグルマ	天然記念物	武川町	柳沢1488	S53.11.1
41	柳沢天満宮の大スギ	ヤナギサワテンマングウノオオスギ	天然記念物	武川町	柳沢2351-1	S53.11.1
42	高龍寺のカヤ	コウリュウジノカヤ	天然記念物	武川町	山高2480	S53.11.1
43	ヒイラギの古雄木	ヒイラギノコユウボク	天然記念物	明野町	浅尾新田4082	S54.9.21
44	伊勢大神社のケヤキ	イセダイジンジャノケヤキ	天然記念物	高根町	村山東割959-1	S56.8.27

北杜市指定文化財一覧表

	名称	ヨミガナ（全角カタカナ）	種別	所在地		指定年月日
45	熱那神社のサクラ	アツナジンジャノサクラ	天然記念物	高根町	村山西割1714	S56.8.27
46	日吉神社のスギ群	ヒヨシジンジャノスギグン	天然記念物	高根町	清里1756	S56.8.27
47	清里東原のナラ	キヨサトヒガシハラノナラ	天然記念物	高根町	清里599	S56.8.27
48	東漸寺のシラカシ	トウゼンジノシラカシ	天然記念物	須玉町	若神子2108	S63.3.18
49	紅葉橋のトゲナシサイカチ	モミジバシノトゲナシサイカチ	天然記念物	須玉町	江草横引10664	S63.3.18
50	黒沢圓通院跡のイチョウ	クロサワエンヅウインアトノイチョウ	天然記念物	武川町	黒沢1503	H1.12.11
51	龍岸寺のシラカシ	リュウガンジノシラカシ	天然記念物	長坂町	長坂上条1666	H2.1.23
52	中丸のボダイジュ	ナカマルノボダイジュ	天然記念物	長坂町	中丸1778	H2.1.23
53	遠照寺のオハツキイチョウ	オンショウジノオハツキイチョウ	天然記念物	須玉町	穴平2625	H3.7.29
54	井富溜池（西出口）のヒメバラモミ	イトミタメイケ（ニシデグチ）ノヒメバラモミ	天然記念物	大泉町	西井出7365-2	H6.9.27
55	井富溜池（西出口）のハリギリ	イトミタメイケ（ニシデグチ）ノハリギリ	天然記念物	大泉町	西井出7365-2	H6.9.27
56	井富溜池（西出口）のホオノキ	イトミタメイケ（ニシデグチ）ノホオノキ	天然記念物	大泉町	西井出7365-2	H6.9.27
57	町屋のオハツキイチョウ	マチヤノオハツキイチョウ	天然記念物	大泉町	谷戸2018	H6.9.27
58	北野天神社のトチノキ	キタノテンジンシャノトチノキ	天然記念物	小淵沢町	小淵沢3349	H7.9.28
59	八ケ岳権現社のマツ	ヤツガタケゴンゲンシャノマツ	天然記念物	高根町	清里2887-11	H9.9.22
60	高龍寺のサルスベリ	コウリュウジノサルスベリ	天然記念物	武川町	山高2480	H14.11.22
61	宮脇のイロハモミジ	ミヤノワキノイロハモミジ	天然記念物	武川町	宮脇1989－1	H14.11.22
62	萬休院のツバキの生垣	バンキュウインノツバキノイケガキ	天然記念物	武川町	三吹2915	H14.11.22
63	高野八幡神社の廻り舞台	コウヤハチマンジンジャノマワリブタイ	建造物	小淵沢町	小淵沢8702	S41.6.10
64	義光山矢の堂	ギコウザンヤノドウ	建造物	小淵沢町	小淵沢2139	S43.6.10
65	小笠原長清の墓	オガサワラナガキヨノハカ	建造物	明野町	小笠原1205	S47.3.1
66	平岡勘三郎の墓	ヒラオカカンザブロウノハカ	建造物	明野町	浅尾新田1497	S47.3.1
67	海岸寺の観音堂	カイガンジノカンノンドウ	建造物	須玉町	上津金1222	S48.3.8
68	山口諏訪神社本殿並びに拝殿	ヤマグチスワジンジャホンデンナラビニハイデン	建造物	白州町	上教来石202	S48.12.1
69	石尊神社本殿並びに拝殿	セキソンジンジャホンデンナラビニハイデン	建造物	白州町	鳥原3107	S48.12.1
70	清泰寺の六地蔵幢	セイタイジノロクジゾウトウ	建造物	白州町	花水1462	S48.12.1
71	和田の五輪塔	ワダノゴリントウ	建造物	須玉町	小尾6944	S50.3.8
72	三嶋神社本殿	ミシマジンジャホンデン	建造物	明野町	上手3109	S51.1.20
73	上神取の庚申塔	カミカンドリノコウシントウ	建造物	明野町	上神取689	S51.1.20
74	屋代勝永の墓	ヤシロカツナガノハカ	建造物	明野町	上神取1091	S51.1.20
75	穂見諏訪十五所神社本殿	ホミスワジュウゴショジンジャホンデン	建造物	長坂町	長坂上条1461	S51.2.10
76	道明の六地蔵幢	ドウミョウノロクジゾウトウ	建造物	大泉町	西井出2206	S52.4.11
77	二日市場の六角石幢	フツカイチバノロッカクセキドウ	建造物	須玉町	穴平80	S48.3.8
78	勝永寺の門	ショウエイジノモン	建造物	明野町	上神取1080	S53.8.30
79	山高氏代々の墓	ヤマタカシダイダイノハカ	建造物	武川町	山高2483	S53.11.1
80	柳澤寺の六地蔵幢	リュウタクジノロクジゾウトウ	建造物	武川町	柳沢1539	S53.11.1
81	原屋敷の六地蔵幢	ハラヤシキノロクジゾウトウ	建造物	高根町	村山東割1402	S58.2.26
82	養福寺の五智六尊佛	ヨウフクジノゴチロクソンブツ	建造物	高根町	箕輪991	S58.2.26
83	真田隠岐守信尹の墓	サナダオキノカミノブタダノハカ	建造物	長坂町	長坂上条1666	S60.9.20
84	蔦木氏代々の墓と石廟群	ツタキシダイダイノハカトセキビョウグン	建造物	武川町	山高2762	S60.11.1
85	熱那神社本殿 附　棟札２枚	アツナジンジャホンデン　ツケタリムナフダ２マイ	建造物	高根町	村山西割1714	S62.4.14
86	下原道祖神の石祠	シモハラドウソジンノセキシ	建造物	須玉町	下津金1764	S63.3.18
87	海岸寺の百体観音	カイガンジノヒャクタイカンノン	建造物	須玉町	上津金1222	S63.3.18

北杜市指定文化財一覧表

	名称	ヨミガナ（全角カタカナ）	種別	所在地		指定年月日
88	原山神社本殿	ハラヤマジンジャホンデン	建造物	高根町	下黒沢2799	H1.3.4
89	五町田の梵字名号塔	ゴチョウダノボンジミョウゴウトウ	建造物	高根町	五町田49-4	H1.3.4
90	箕輪新町の道標	ミノワシンマチノドウヒョウ	建造物	高根町	村山東割2312-35	H1.3.4
91	下黒沢の五輪塔	シモクロサワノゴリントウ	建造物	高根町	下黒沢964-1	H1.3.4
92	中丸の六地蔵幢	ナカマルノロクジゾウトウ	建造物	長坂町	中丸1778	H2.1.23
93	村山西割の聖観音堂	ムラヤマニシノワリノショウカンノンドウ	建造物	高根町	村山西割1243	H2.12.26
94	八ツ牛の六地蔵幢	ヤツウジノロクジゾウトウ	建造物	高根町	村山北割3090	H2.12.26
95	米倉左大夫豊継の墓	ヨネクラサダユウトヨツグノハカ	建造物	武川町	宮脇2168	H3.7.17
96	清光寺の総門　附　棟札	セイコウジノソウモン　ツケタリムナフダ	建造物	長坂町	大八田6600	H6.2.7
97	清泰寺の馬頭観音	セイタイジノバトウカンノン	建造物	白州町	花水1405-1	H8.6.4
98	台原家住宅	ダイハラケジュウタク	建造物	白州町	台ケ原2294	H10.3.13
99	高野八幡神社の文字道祖神	コウヤハチマンジンジャノモジドウソジン	建造物	小淵沢町	小淵沢8702	H10.7.23
100	馬場の旧口留番所	バンバノキュウクチドメバンショ	建造物	須玉町	江草9533	H10.9.10
101	矢の堂の宝篋印塔	ヤノドウノホウキョウインントウ	建造物	小淵沢町	小淵沢2139	H12.3.23
102	北野天神社の双体道祖神	キタノテンジンシャノソウタイドウソジン	建造物	小淵沢町	小淵沢3349	H12.3.23
103	水上写真館　附　写真用具一式	ミズカミシャシンカン　ツケタリシャシンヨウグイッシキ	建造物	須玉町	藤田412	H15.6.12
104	安楽寺の天井竜の図	アンラクジノテンジョウリュウノズ	絵画	大泉町	谷戸2118	S52.4.11
105	狩野派筆龍虎の図双幅	カノウハヒツリュウコノズソウフク	絵画	武川町	三吹2915	S53.11.1
106	繁昌寺木造薬師如来座像	ハンショウジモクゾウヤクシニョライザゾウ	彫刻	明野町	小笠原5858	S47.3.1
107	福性院木造薬師如来座像	フクショウインモクゾウヤクシニョライザゾウ	彫刻	明野町	小笠原1238	S47.3.1
108	山口諏訪神社の鰐口	ヤマグチスワジンノワニグチ	工芸品	白州町	上教来石202	S48.12.1
109	建岡神社の御染筆の額	タテオカジンジャノゴセンピツノガク	工芸品	長坂町	大八田6822	S50.3.7
110	上行寺の銅鐘	ジョウギョウジノドウショウ	工芸品	大泉町	西井出266	S52.4.11
111	平岡勘三郎親子像	ヒラオカカンザブロウオヤコゾウ	工芸品	明野町	浅尾新田132	S53.8.30
112	實相寺の梵鐘	ジッソウジノボンショウ	工芸品	武川町	山高2763	S53.11.1
113	六所神社の鰐口	ロクショジンジャノワニグチ	工芸品	長坂町	小荒間1742	H2.1.23
114	十五所神社の元禄太鼓	ジュウゴショジンジャノゲンロクダイコ	工芸品	須玉町	江草11280	H8.12.26
115	高野八幡神社の太鼓	コウヤハチマンジンジャノタイコ	工芸品	小淵沢町	小淵沢8702	H10.7.23
116	矢の堂の太鼓	ヤノドウノタイコ	工芸品	小淵沢町	小淵沢2139	H17.10.21
117	建岡神社の法楽百首	タテオカジンジャノホウラクヒャクシュ	書跡	長坂町	大八田6822	S50.3.7
118	良純法親王の色紙	リョウジュンホッシンノウノシキシ	書跡	武川町	山高2480	S53.11.1
119	山高信賢自詠自筆の和歌集	ヤマタカノブタカジエイジヒツノワカシュウ	書跡	武川町	山高2642-1	S53.11.1
120	大蔵寺の名号板碑	ダイゾウジノミョウゴウイタビ	考古資料	高根町	箕輪新町959	S58.2.26
121	津金御所前遺跡出土土器	ツガネゴショマエイセキシュツドキ	考古資料	須玉町	大豆生田961-1	S63.3.18
122	村山西割の名号板碑	ムラヤマニシノワリノミョウゴウイタビ	考古資料	高根町	村山西割2858-2	H1.3.4
123	海岸寺の六地蔵板碑	カイガンジノロクジゾウイタビ	考古資料	須玉町	上津金1222	H10.3.5
124	上北田遺跡出土品	カミキタダイセキシュツドヒン	考古資料	須玉町	大豆生田961-1	H10.3.13
125	山高孫兵衛信保の証文(覚)	ヤマタカマゴベエノブヤスノショウモン（オボエ）	歴史資料	武川町	山高2480	S53.11.1
126	山高信俊・信保兄弟の手簡折紙状	ヤマタカノブトシ・ノブヤスキョウダイのシュカンオリガミジョウ	歴史資料	武川町	山高2480	S53.11.1
127	山高八左衛門尉信禮奉納の矢額	ヤマタカハチザエモンノジョウノブイヤホウノウノヤガク	歴史資料	武川町	山高2529	S53.11.1
128	熱那神社の算額	アツナジンジャノサンガク	歴史資料	高根町	村山西割1714	S62.4.14
129	武田勝頼印判状「黒澤山大堺之事」	タケダカツヨリインパンジョウ「クロサワヤマオオサカイノコト」	歴史資料	武川町	黒沢1468	H1.12.11

北杜市指定文化財一覧表

	名称	ヨミガナ（全角カタカナ）	種別	所在地		指定年月日
130	浅野忠吉の証文「定」書	アサノタダヨシノショウモン「サダメ」ガキ	歴史資料	武川町	黒沢1468	H1.12.11
131	清光寺の制札	セイコウジノセイサツ	歴史資料	長坂町	大八田6600	H2.1.23
132	天国梵九より山高三左衛門・同五郎左衛門宛書簡	テンゴクボンキュウヨリヤマタカサンザエモン・ドウゴロウザエモンアテショカン	歴史資料	武川町	宮脇2179	H3.7.17
133	蔵原の経筒　附　銭11枚炭化物２点	クラバラノキョウヅツ　ツケタリゼニ１１マイタンカブツ２テン	歴史資料	高根町	蔵原1922	H8.4.25
134	今川氏朱印過書	イマガワシシュインカソ	歴史資料	高根町	村山北割1128	H8.4.25
135	坂本清三郎宛書簡	サカモトセイザブロウアテショカン	歴史資料	高根町	村山北割1965	H8.4.25
136	十五所神社の棟札	ジュウゴショジンジャノムナフダ	歴史資料	須玉町	江草11280	H8.12.26
137	「甲斐国巨摩郡芦倉村と同国同郡黒澤山高柳澤三ヶ村山論裁許の事」及び関連文書	「カイノクニコマグンアシクラムラトドウコクドウグンクロサワヤマタカヤナギサワサンカソンサンロンサイキョノコト」オヨビカンレンモンジョニテン	歴史資料	武川町	山高2642-1	H9.3.5
138	五社神社の御正躰	ゴシャジンジャノミショウタイ	歴史資料	明野町	小笠原1242	H14.6.17
139	おかま地蔵	オカマジゾウ	有形民俗	明野町	小笠原3998	S51.1.20
140	かさ守地蔵尊	カサモリジゾウソン	有形民俗	明野町	上手7867	S51.1.20
141	諏訪大神社の奉納絵馬	スワダイジンジャノホウノウエマ	有形民俗	明野町	浅尾新田1230	S51.1.20
142	柳沢信尹朝臣娘奉納絵馬	ヤナギサワノブタダアソンムスメホウノウエマ	有形民俗	武川町	山高2529	S53.11.1
143	北野天神社の大和神楽	キタノテンジンシャノヤマトカグラ	無形民俗	小淵沢町	小淵沢3349	S41.6.10
144	穂見諏訪十五所神社の筒粥の行事	ホミスワジュウゴショジンジャノツツガユノギョウジ	無形民俗	長坂町	長坂上条1461	S45.10.1
145	若宮神社の稚児の舞	ワカミヤジンジャノチゴノマイ	無形民俗	長坂町	長坂下条1048	S48.2.10
146	下教来石の獅子舞と道祖神祭り	シモキョウライシノシシマイトドウソジンマツリ	無形民俗	白州町	下教来石	S53.1.14
147	逸見神社の大和神楽	ヘミジンジャノヤマトカグラ	無形民俗	大泉町	谷戸1128	S52.4.11
148	八嶽神社の大和神楽	ヤツガタケジンジャノヤマトカグラ	無形民俗	大泉町	西井出1878-1	S52.4.11
149	甲斐駒ヶ嶽神社の代太神楽	カイコマガタケジンジャノダイダイカグラ	無形民俗	白州町	横手3804-2	S55.4.1
150	馬八節	ウマハチブシ	無形民俗	白州町	大坊	S56.8.3
151	三島神社のお筒粥の神事	ミシマジンジャノオツツガユノシンジ	無形民俗	明野町	浅尾745	S59.7.7
152	日吉神社の筒粥の神事　附　桝・筒粥日誌	ヒヨシジンジャノツツガユノシンジツケタリ　マス・ツツガユニッシ	無形民俗	高根町	清里1756	S62.4.14
153	荒田・松原の大般若会	アラタマツバラノダイハンニャエ	無形民俗	白州町	荒田・松原地区	H2.11.1
154	熱那神社の太々神楽	アツナジンジャノダイダイカグラ	無形民俗	高根町	村山西割1714	H2.12.26
155	箕輪海道の道祖神祭り	ミノワカイドウノドウシジンマツリ	無形民俗	高根町	箕輪972-2	H2.12.26
156	小池船形神社の茅輪くぐり	コイケフナガタジンジャノチノワクグリ	無形民俗	高根町	小池280	H4.2.18
157	長沢長沢寺の数珠廻し	ナガサワチョウタクジノジュズマワシ	無形民俗	高根町	長沢266	H4.2.18

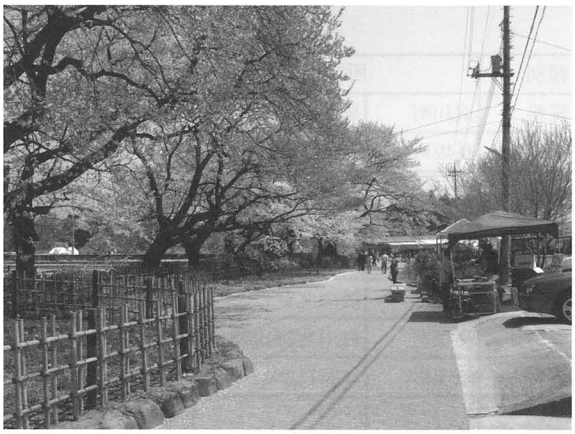
次頁写真

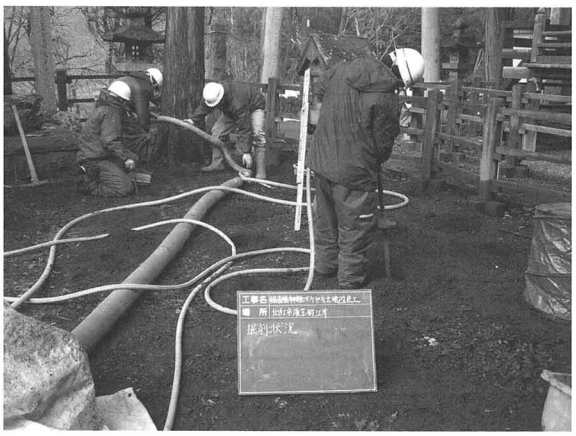
左列最上段：山高神代ザクラ西側の遊歩道　右列最上段：根古屋神社の大ケヤキ施工状況

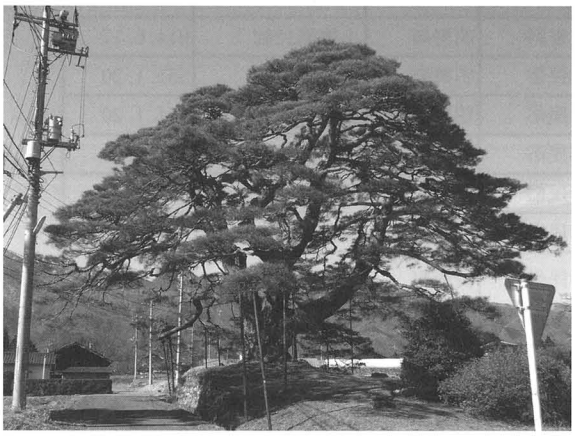
左列上二段：駒のマツ　右列上二段：八ヶ岳権現社のマツ処置状況

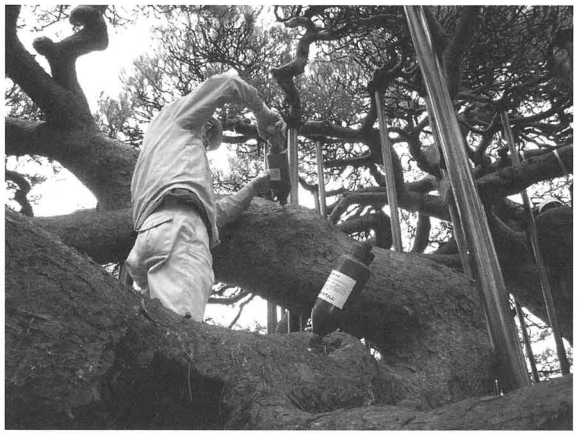
左列下二段：萬休院のアカマツ治療状況　右列下二段：比志神社の大スギ　大枝伐採状況

左列最下段：遠照寺のアカマツ　右列最下段：高龍寺のシダレクロマツ




工事名
場所
施工状況





第２章　北杜市郷土資料館

北杜市郷土資料館の活動、各施設での活動は以下のとおりである。なお、合併前から指定管理者制度が導入されていた明野歴史民俗資料館に加え、新たに須玉歴史資料館が本年度当初より指定管理者制度が導入されるに至っている。ただし、両施設とも本市資料館施設としての位置付けによりその活動内容も合わせて報告することとする。

第１節　展示活動

ａ）　常設展示

資料館名	常設展示内容
高根郷土資料館	①高根の遺跡　②民間信仰と石造物　③江戸時代の俳諧 ④20世紀の高根
浅川伯教・巧兄弟資料館	①兄伯教の功績　②弟巧の功績　③兄弟と日韓友好親善
長坂郷土資料館	①長坂の遺跡　②中央線・小海線３駅ができた頃、できるまで　③信玄公旗掛松事件　④東山魁夷画にみる80年前の八ヶ岳南麓生活 ⑤長坂の民家　⑥植松波雄ギャラリー
大泉歴史民俗資料館	①史跡金生遺跡 ②大泉の歴史 ③生産の道具・くらしの道具
小淵沢郷土資料館	①小淵沢地域の水田耕作用具、畑耕作用具　②蚕糸用具 ③機織り用具　④職人用具　④小淵沢の歴史　⑤小淵沢の民家
白州郷土資料展示室	①白州町の出土品　②生業のくらし　③暮らしの道具 ④昔の学校
武川民俗資料館	①武川米の歴史と稲作　②畑仕事　③山仕事　④労作と民謡⑤暮らしの道具
明野歴史民俗資料館	①中世の茅ヶ岳山麓　②江戸時代の茅ヶ岳山麓　１検地と御廻米　２入会山論争　３堰と新田開発　４馬の生産　５年中行事と生活文化 ③御岳信仰（中世～江戸時代）④養蚕のはじまり　⑤浅尾大根　⑥茅ヶ岳山麓の変貌　⑦郷土出身の画家たち　⑧昭和初期の民家（復元）
須玉歴史資料館	①復元教室　②須玉町の出土品　③須玉町と「のろし」 ④近代教育の曙　⑤津金学校の思い出（卒業写真ほか） ⑥昔の学校体験コーナー

ｂ）　企画展示

［長坂郷土資料館］

企画展名	会期	内容	入館者数
第14回企画展奥山さんの仕事と民家写真～消えゆく日本のかやぶき民家～	4/8（土）～5/28（日）	北杜市長坂町の茅葺き職人奥山哲夫氏の仕事をとおして、北杜および山梨の民家の歴史・形態をさぐる	1,501名
第15回企画展北杜の旧石器～この地に初めて暮らした人びと～	7/15（土）～9/24（日）	北杜市旧８町村の旧石器時代出土物を紹介することにより、北杜市全体を展観する	1,323名
第16回企画展縄文の夜神楽～縄文遺産写真展～	10/21（土）～12/24（日）	写真家滋澤雅人氏による北杜市遺物撮り下ろし作品展。北杜市出土品の品質の高さに迫る	1,147名
縄文王国ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰ共催／山梨県立考古博物館ほか５施設	平成18年3/1（水）～5/31（水）	石原田北遺跡・酒呑場遺跡・段道遺跡・上条宮久保遺跡・小屋敷遺跡などの土器、石器	当館への応募カード提出者12名

［明野歴史民俗資料館］

企画展名	会期	内容	入館者数
ふるさと再発見～太陽と緑と文化の里～	平成17年10/15（月）～18年9/30（土）	朝神村・小笠原村・上手村が合併し明野村が誕生した頃の歴史と当時活躍した道具達の展示。現在までの明野の文化財や観光施設の紹介	3,348名

［須玉歴史資料館］

企画展名	会期	内容	入館者数
近代建築史への旅スケッチ展	7/29（土）～ 8/31（木）	全国の近代建築を描いたスケッチを公募した作品を展示	

第２節　教育普及活動

ａ）　講演会・講座・上映会・体験教室など

［長坂郷土資料館］

事業名	開催月日	内容	参加人数
ほくと歴史の杜ふるさと講座	5/13（土） 9/16（土） 10/28（土）	北杜のかやぶき民家をたずねる 北杜の口留番所をたずねる 北杜のかやぶき民家講演会	24名 25名 50名 計99名
講演会保坂康夫氏	7/29（土） 13:30～	企画展「北杜の旧石器時代」関連 演題「目からウロコの旧石器時代」	44名
講演会小林公明氏	11/11（土） 13:30～	企画展「縄文の夜神楽」関連 演題「土器図像のコスモロジー」	49名
コンサート＆ギャラリートーク 柴田毅氏・滋澤雅人氏	11/25（土） 13:30～	企画展「縄文の夜神楽」関連	55名

［武川民俗資料館］

事業名	開催月日	内容	参加人数
体験教室 縄文土器作り	8/19（土）	子ども達が縄文時代に身近に触れる機会を提供するために、武川町内で出土した土器を見本に土器作りに挑戦	14名

［明野民俗歴史資料館］

事業名	開催月日	内容	参加人数
山梨の方言でことば遊び	4/18（火）～ 11/8（水）の 計７回	甲州弁かるたを使って甲州弁の使い方と標準語での意味を解説。７回めの最終日はかるた取りにも挑戦。	計30名
囲碁教室	4/20（木） 5/11（木） 5/18（木） 5/25（木） 6/1（木） 6/8（木）	初心者から分かりやく教える囲碁教室	計24名
大おばあちゃんのほうとう作り	4/22（土） 7/27（木） 7/30（日）	①伝統的農法でほうとうに使う野菜の種まき②野菜の収穫③収穫した野菜を使い、製麺から行い薪を使ってほうとうを作る。	計28名
ミニチュア縄文土器作り	7/23（土）	明野で出土した土器を見本に、小型の縄文土器を作る。	25名
縄文狩猟具作り	8/6（土）	黒曜石を使って、鏃などの石器を作る。	7名

茶道教室	① 9/7（木） ② 10/12（木） ③ 11/9（木） ④ 1/11（木） ⑤ 2/15（木） ⑥ 3/8（木）	抹茶やお菓子をいただきながら、楽しくおもてなしの作法を覚える。	計 32 名
おしゃれな縄文人に変身	9/10（日）	縄文土器の紋様の型を切り抜き、T シャツにローラーでプリントする。	20 名
遺跡のお仕事体験	10/6（金）	土器片を洗う、土器片に注記する、土器片の接合するものをさがす。という一連の作業を体験する。	8 名
遺跡で縄文人に変身	11/5（日）	梅之木遺跡で連結土坑を作り野生肉の燻製作り。林の探索（食べられる植物と食べられない植物）	17 名
伝統技術わら細工に挑戦 ①わらぞうり	11/18（土）	わらを使ってぞうり作りに挑戦 自分の足に合わせて、左右一足分作る。	11 名
伝統技術わら細工に挑戦 ②正月飾り	12/16（土）	わら縄をつかってお正月の注連飾り作りに挑戦。	8 名
つくって遊ぼう！昔遊び	① 12/18（月） ② 1/19（金） ③ 1/23（火） ④ 2/14（水） ⑤ 2/22（木） ⑥ 3/13（火）	福笑いやすごろく、紙飛行機などを作ってそれで遊ぼう。	計 29 名

［須玉歴史資料館］

事 業 名	開催月日	内　　容	参加人数
ギャラリートーク南雄三・宮本和義・鈴木喜一各氏	7/29（土）	企画展「近代建築史への旅スケッチ展」関連のギャラリートーク	約 50 名
体験教室	8/22（火）	古民家の壁塗り体験	約 20 名

ｂ） 学校教育・社会教育との連携

［長坂郷土資料館］

事 業 名	実施月日	内　　容	参加人数
小中学校受入授業	① 5/10（水） 長坂中１年 ② 5/18（木） 甲陵中２年 ③ 6/30（金） 小泉小３年 ④ 7/19（水） 小泉小６年 ⑤ 10/11（水） 日野春小６年 ⑥ 10/24（火） 竜王北小３年 ⑦ 11/17（金） 高根西小４年 ⑧ 11/17（金） 北杜高校１年 ⑨ 2/21（水） 日野春小 4.5 年生 ⑩ 10/3（火） 須玉保育園 ⑪ 10/6（金） 小泉保育園	資料館所蔵資料を使った、農具の変遷・人の知恵の歴史を探るプログラムの実践授業。 復元民家・民具（石臼など）・農具（千歯扱き・足踏み脱穀機など）・昔話の語りなど、季節・学年・人数に相応の体験学習	① 100 名 ② 39 名 ③ 27 名 ④ 23 名 ⑤ 21 名 ⑥ 61 名 ⑦ 47 名 ⑧ 4 名 ⑨ 33 名 ⑩ 92 名 ⑪ 48 名 計 495 名
講師派遣 山梨地下水調査連絡会	5/28（日）	ふるさとの水を語ろう	約 100 名

講師派遣 甲陵中３年	6/8（水）	南麓の歴史・文化について	40 名
講師派遣山梨ことぶき勧学院北巨摩学園１年生	6/23（金）	地域を創る・地域に学ぶ「信玄公旗掛け松事件」	34 名
講師派遣 中北教育事務所	9/20（水）	教育情報誌作成技術研究会「文章を相手に伝えるためのテクニック」	12 名

［大泉歴史民俗資料館］

事業名	実施月日	内容	参加人数
小学校受入授業	5/17（水） 忍野小学校	春期校外学習。史跡金生遺跡と資料館での解説。	92 名
小学校受入授業	6/6（火）小平第六小学校	総合的な学習の時間「八ヶ岳マイチャレンジ」歴史コースの体験学習。史跡金生遺跡と資料館での解説、縄文土器作り。	5 名
小学校受入授業	7/19（水） 小泉小学校	社会科見学。史跡金生遺跡での解説。	21 名
講師派遣大泉教育センター	6/11（日）	第２回大泉町歩け歩け大会。大泉町内の文化財について解説。	—
講師派遣白州教育センター	11/12（日）	第２回市内文化財巡り。市内の文化財について解説。	17 名

［小淵沢郷土資料館］

事業名	実施月日	内容	参加人数
講師派遣須玉町穂足地区研修	8 月 25 日（金）	郷土資料館・旧平田家住宅について	60 名
講師派遣小淵沢教育センター	10 月 19 日（木）	高齢者学級北杜市の高遠石工作品めぐり	50 名
講師派遣須玉町穂足地区研修	10 月 27 日（金）	郷土資料館・旧平田家住宅について	40 名
講師派遣白州教育センター	11 月 12 日（日）	郷土資料館・旧平田家住宅・笹尾墨跡について	40 名
講師派遣長野県千曲市立更埴西中学校研修	12 月 15 日	郷土資料館・旧平田家住宅について	10 名
講師派遣中央市高齢者学園豊富学級	2 月 23 日（金）	郷土資料館・旧平田家住宅について	31 名

［武川民俗資料館］

事業名	実施月日	内容	参加人数
中学校受入授業	8/11（金） 武川中１年	武川町内の遺跡とその保護について解説。町内で出土した土器を見本に土器作りに挑戦	16 名
講師派遣ふれあい大学講座	10/19（木）	武川町内の縄文遺跡について解説。町内で出土した土器を見本に土器作りに挑戦	5 名
講師派遣むかわ図書館講座	10/28（金）	武川町内の縄文遺跡と土器について解説。拓本しおり作り。プロジェクタを用いて縄文絵本の読み聞かせ	7 名

［明野歴史民俗資料館］

事業名	実施月日	内容	参加人数
小学校受入授業	① 5/22（月） 明野小４年 ② 10/27（金） 明野小２年 ③ 11/17（金） 明野小４年 ④ 11/21（火） 須玉小４年 ⑤ 11/24（金） 明野小６年 ⑥ 1/30（火） 明野小５年	①浄居寺・朝穂堰・平岡勘三郎の墓について解説。②２年生生活科。土器や石器等の見学。③４年生社会科見学。四世代に渡り道具の移り変わりを調べ、世代毎の道具の使い方を体験させる。④４年生社会科「朝穂せぎの学習」。⑤６年生総合学習。梅之木遺跡・馬検場跡等について解説。⑥５年生総合学習。「米」についての総合学習。農具について解説。	① 39 名 ② 21 名 ③ 38 名 ④ 49 名 ⑤ 48 名 ⑥ 13 名 計 208 名

講師派遣明野小６年	12/7（木）	６年生総合学習。第二次世界大戦についての学習に併せて、戦争に関する収蔵品について解説。	49 名

［須玉歴史資料館］

事 業 名	実施月日	内　　容	参加人数
小学校受入授業	① 5/26（金）高根北小 41 名② 6/1（木） 須玉小 60 名③ 6/12（月）小平学園東小 20 名④ 6/19（月）小平第 15 小 86 名⑤ 6/28（水）小平第 4 小 53 名⑥ 8/21（月）目黒第 3 中 60 名⑦ 9/8（金）調布市滝坂小 68 名⑧ 9/12（火）聖心女学院 85 名⑨ 3/12（月）白州小 3 年	スライドを使って三代校舎の歴史、藤村式建築の説明を行った後館内の見学	計 131 名

ｃ）　調査研究活動

資料館名	テーマ	概要
北杜市郷土資料館	北杜の民具	北杜市内８館の民具資料調査

第３節　資料収集・保管活動

［寄託資料］

資料館名	寄託資料数	資料名
北杜市郷土資料館	１点	信玄公旗掛け松事件訴訟資料関係文書一式

［寄贈資料］

資料館名	寄贈資料数	資料名
北杜市郷土資料館	64 点	火縄銃・槍・鐙・戦争引揚者関係書類・村山西小授業案・敷布団・綜割・糸操・マント（軍事用）・学生服２着・モーニングコート・焼き印・俵鉤・雛人形（板雛）など

第４節　その他の活動

［刊行物］

資料館名	書籍名	発行部数	発行日
長坂郷土資料館	ながさか、もっと知りたい booklet ⑦『北杜の旧石器時代』	1,000 部	７月

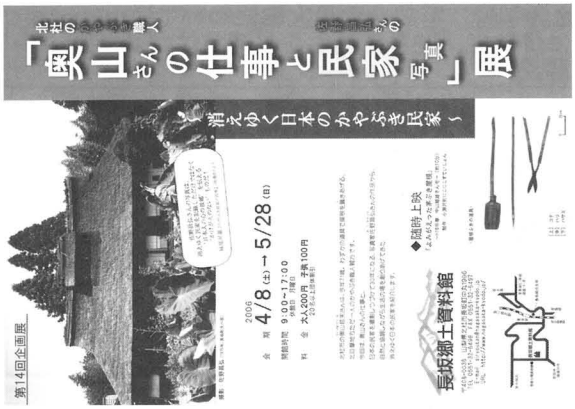
［博物館実習生受入］

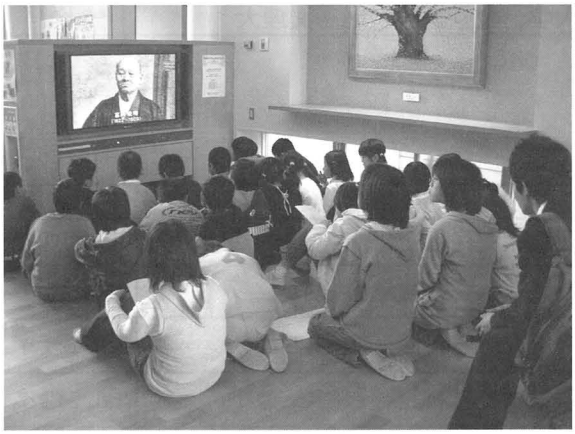
資料館名	期間	大学名	受入人数
長坂郷土資料館	7/27（木）～ 8/3（木）	山梨英和大学、帝京大学、徳島文理大	３名

第５節　資料館利用状況

［年間入館者状況］　　３月 31 日現在

資料館名	入館者数	資料館名	入館者数
小淵沢郷土資料館	1,646 名	大泉歴史民俗資料館	493 名
高根郷土資料館／浅川伯教・巧兄弟資料館	30,174 名	白州郷土資料展示室	—
長坂郷土資料館	5,740 名	武川民俗資料館	131 名
明野歴史民俗資料館	3,376 名	須玉歴史資料館	6,212 名



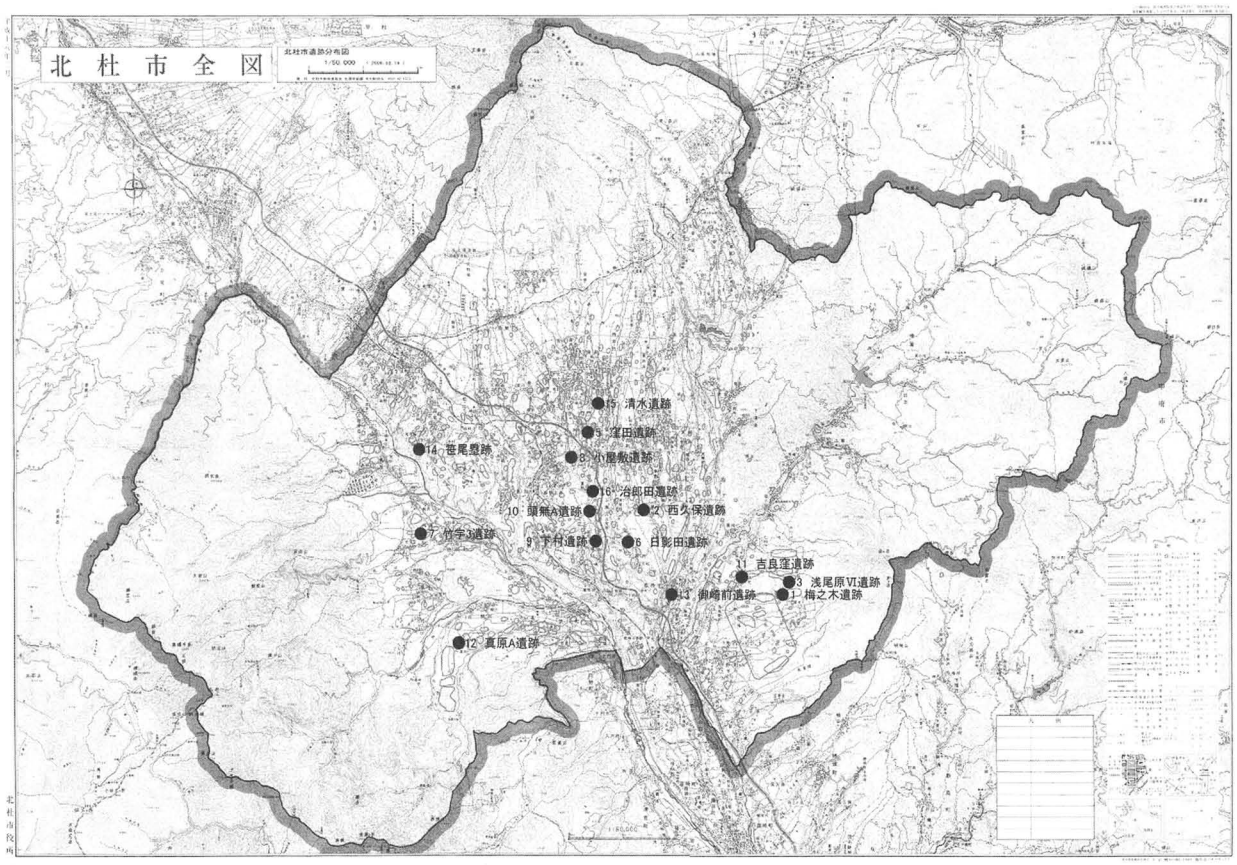


左列最上段：企画展「奥山さんの仕事と民家写真」チラシ
右列最上段：企画展「奥山さんの仕事と民家写真」
左列上二段：企画展「北杜の旧石器」保坂氏講演会
右列上二段：企画展「縄文の夜神楽」
左列下二段：ほくと歴史の杜ふるさと講座
右列下二段：ほくと歴史の杜ふるさと講座
左列最下段：小学校受入授業の様子

第 3 章 埋蔵文化財の保護と発掘調査速報

平成 18 年度は、県営圃場整備事業等の開発行為に伴い 76 件の試掘等の調査を実施した。そのうち 1 件は遺跡保存を目的とした確認調査で、15 件で記録保存のための発掘調査に至った。以下にそれらの調査成果を報告する。

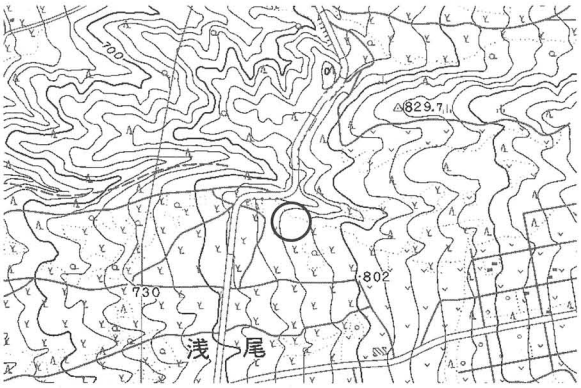
発掘調査を実施した 16 地点は下図のとおりである。なお、調査に係る調査記録、出土品は北杜市埋蔵文化財センターが保管している。



平成 18 年度の発掘調査対象遺跡位置図

1 梅之木遺跡	重要遺跡確認緊急調査	2 西久保遺跡	個人住宅建設
3 浅尾原VI遺跡	廃棄物最終処分場建設	4 西久保遺跡	個人住宅（2 と同一遺跡）
5 窪田遺跡	駐車場造成工事	6 日影田遺跡	市道改良工事
7 竹宇 3 遺跡	県営農道整備事業	8 小屋敷遺跡	個人住宅建設
9 下村遺跡	県営農道整備事業	10 頭無 A 遺跡	県営農道整備事業
11 吉良窪遺跡	宅地造成	12 真原 A 遺跡	個人営農（転作）
13 御崎前遺跡	県代行市道建設	14 笹尾墓跡	農村公園整備事業
15 清水遺跡	個人住宅建設	16 治郎田遺跡	太陽光発電施設

1　梅之木遺跡



調査地点：北杜市明野町浅尾地内
調査原因：重要遺跡確認緊急調査
調査面積：1,467 ㎡
調査担当：佐野隆
調査期間：平成18年4月3日～平成19年3月30日

発掘調査の経過と成果

梅之木遺跡は縄文時代中期末葉、曽利式期の環状集落跡である。平成15年度の県営中山間地域総合整備事業茅ヶ岳北西地区梅之木工区の施工に先立つ記録保存のための発掘調査で、環状集落のほぼ全体が良好に保存されていることが判明し、文化財的価値が高いと判断されたことから、土地改良事業を一時中断して、平成16年度から国庫補助事業による重要遺跡確認緊急調査に切り替え、遺跡の範囲、遺跡を構成する遺構、遺跡の時期を確認する発掘調査を実施することとした。平成18年度は確認調査の3年目となる。

平成18年度の調査内容と成果の詳細は、『梅之木遺跡Ⅵ　平成18年度確認調査概要報告書』に報告したので、ここではその概要を記すにとどめる。

平成18年度調査の重点の第一は、遺跡の北側に隣接する湯沢川にそった河岸段丘状の平坦地において平成17年度調査で確認された敷石遺構などの実態を明らかにすることにあった。第二は、住居跡が分布する台地上の居住域から湯沢川に下る斜面において確認された帯状硬化面が縄文時代の道路跡と認定しうるか否かを確認することにあった。

河岸段丘状の平坦地においては、敷石遺構が検出された試掘溝を拡張し、敷石遺構の全体像を検出した。その結果、板状節理の安山岩（いわゆる鉄平石）を敷き並べた敷石住居であることが判明した。湯沢川に面した北半分は氾濫によるものか敷石が失われていたが、石囲炉と埋甕を検出し、敷石住居と認定することができた。埋甕は遺構保存のため検出にとどめ発掘せずにそのまま埋め戻して保存した。敷石直上から曽利Ⅳ式土器のまとまった破片が出土し、これで敷石住居の時期が特定できた。台地上の居住域には同時期の通常の竪穴住居が営まれていたなかで、日当たりが悪く湿度も高い湯沢川沿いの低地に敷石住居を営んだ理由が興味深いところである。出現期の敷石住居の性格論にも一石を投じる発見である。

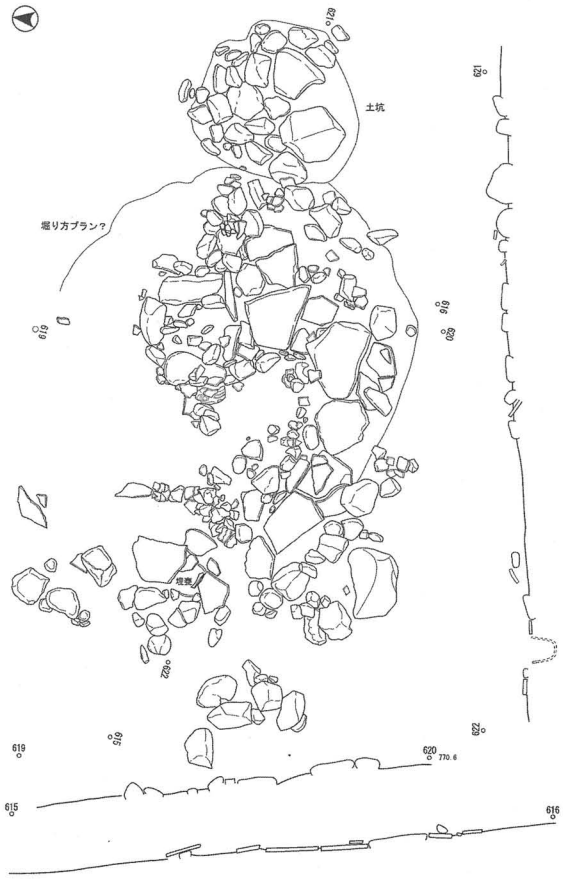
居住域と湯沢川低地をつなぐ斜面では、部分的に発掘した試掘坑を、帯状硬化面の延長線上に拡張して連結し、帯状硬化面の分布を確認した。その結果、帯状硬化面どうしが一筋に連結し、道路跡とみなしうる遺構であることを確認した。この道路跡の時期決定には十分な決め手となる遺物の出土が必要だが、道路跡という遺構の性格上、遺物量は期待できず、実際、土器破片が少量出土したのみであった。

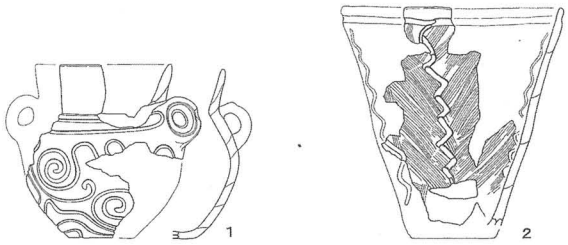
道路跡の性格と時期の認定には、次の要素を勘案した。第一に道路跡が台地上の居住域の北西端に発し、直線的に湯沢川低地の敷石住居付近に延びるという遺構の配置上の特徴、第二に斜度の強い斜面を段切り造成し幅1mほどの平坦面をつくり、そこに硬化面が確認される構造上の特徴、第三に斜面での調査において道路跡付近にのみ少量だが曽利式土器の破片が出土すること、第四に近世以降の土地利用の結果である現在の地籍境界と道路跡はまったく相関しないこと、の4点である。これらの要素の検討から梅之木遺跡確認調査指導委員会において、この遺構が縄文時代中期の環状集落に伴う道路跡であるとの評価がくだされた。

平成18年度の確認調査に要した調査経費は19,446,063円で、発掘調査の作業員賃金、遺構埋土から炭化物等を回収するための水洗選別の作業員賃金、概要報告書作成のための作業員賃金、概要報告書印刷製本費などに支出した。財源は国庫補助金、県費補助金、市一般財源である。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

文化財保護法第 99 条による報告	平成 17 年 7 月 29 日付け北杜生学第 650 号（継続）
発掘調査終了報告	平成 19 年 3 月 30 日付け北杜生学第 1349-1 号
埋蔵物保管請証	平成 19 年 3 月 30 日付け北杜生学第 1349-2 号
埋蔵文化財保管証	平成 19 年 3 月 30 日付け北杜生学第 1349-3 号
埋蔵物発見届	平成 19 年 3 月 30 日付け北杜生学第 1349-4 号

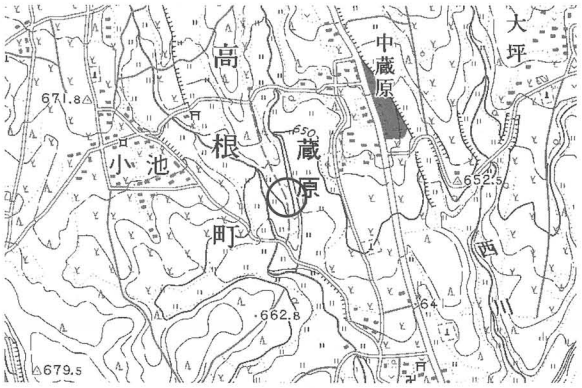




上図：敷石住居跡　　右上図：敷石住居出土土器

右上段　敷石住居跡
右中段　敷石住居炉跡
右下段　敷石住居埋甕検出状況
左下段　集石土坑

2　西久保遺跡



調査地点：北杜市高根町蔵原字西久保 2408-39 番地
調査原因：専用住宅
調査面積：30 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 4 月 25 日～平成 18 年 5 月 8 日

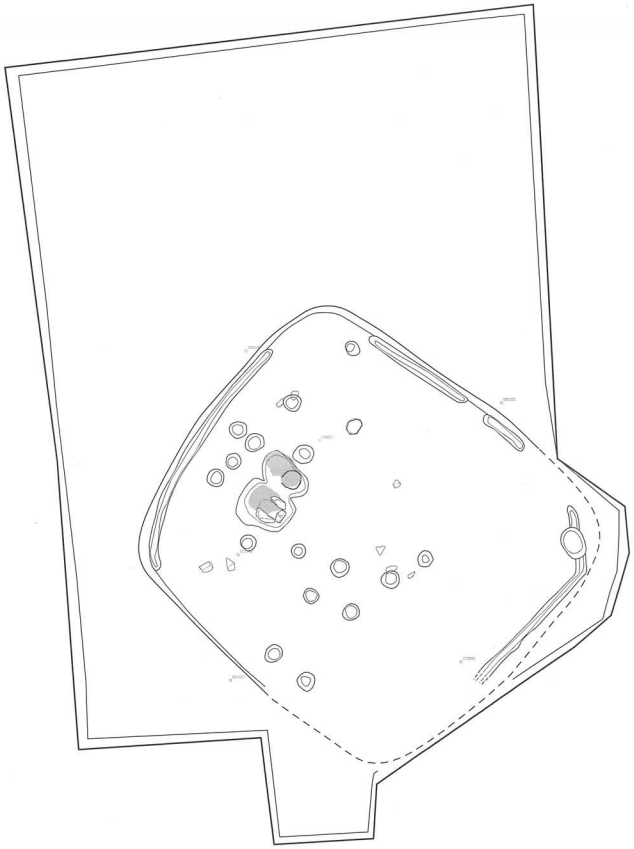
発掘調査の経過と成果

周知の埋蔵文化財包蔵地「西久保遺跡」で専用住宅建設の計画があったため試掘調査を実施したところ弥生時代の遺構と遺物を検出したため、敷地面積 409 ㎡のうち建築面積 30 ㎡において発掘調査を実施した。調査に係る公文書は以下のとおりである。

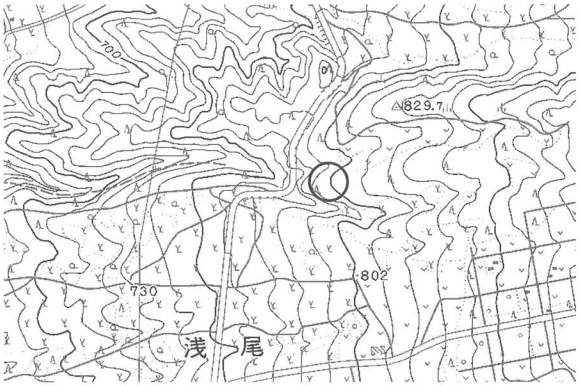
平成 18 年 4 月 14 日		埋蔵文化財発掘の届出について
平成 18 年 4 月 26 日	北杜生学第 73-3 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 5 月 8 日	北杜生学第 73-4 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 5 月 8 日	北杜生学第 73-5 号	埋蔵文化財保管請証
平成 18 年 5 月 8 日	北杜生学第 73-6 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 5 月 8 日	北杜生学第 73-7 号	埋蔵物発見届

調査の結果、弥生時代の住居跡 1 軒を検出し、弥生時代の土器および石器テンバコ 1 箱分が出土した。

左下図　遺構全体図（1/100）・右上段：住居完掘状況　　右下段：炉跡検出状況



3　浅尾原Ⅵ遺跡



調査地点：北杜市明野町浅尾番地 5260-28 番地ほか
調査原因：産業廃棄物最終処分場
調査面積：52,040 ㎡
調査担当：佐野隆・坂口広太
調査期間：平成 18 年 4 月 26 日～
　　平成 19 年 3 月 30 日（平成 19 年度へ継続）

発掘調査の経過と成果

財団法人山梨県環境整備事業団（以下「事業団」）が北杜市明野町浅尾地内の山林 58,358 ㎡に産業廃棄物最終処分場（以下「処分場」）の建設を計画したことから、北杜市教育委員会では試掘調査を実施し、広範囲にわたり縄文時代後期、弥生時代前期、古墳時代前期、平安時代の遺構と遺物が分布することを確認した。確認された遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったことから、遺跡発見通知を提出し、遺跡の名称を遺跡所在地の小字から浅尾原Ⅵ遺跡とした。

北杜市教育委員会では、事業計画地における試掘調査の結果、埋蔵文化財が確認されたことから、事業団と事業実施と埋蔵文化財の保護について協議を重ね、事業実施に先立ち、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。処分場は大規模な土地改変が広範囲に及ぶため、埋蔵文化財の現状での保存は困難であったためである。

事業団は、平成 18 年 4 月 24 日付で北杜市長に対し、埋蔵文化財の発掘調査を北杜市に委託する依頼書を提出した。北杜市は、事業団事業の公共性が高いことなどの観点からこれを受託することとし、平成 18 年 4 月 26 日付で埋蔵文化財発掘調査費に関する協定書を事業団と締結し、発掘調査に着手した。

発掘調査は、土木工事計画上、必要な地点から順次着手した。調査範囲が広範に及ぶため、市教育委員会のみで全域を発掘調査することは困難であることから、民間調査事業者による調査支援業務を導入し、発掘調査体制の充実を図った。調査経費は 26,428,012 千円で事業団が 26,323,000 円、北杜市が 105,012 円を負担した。これに事業団が直接契約で導入した調査支援業務委託費が加わる。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

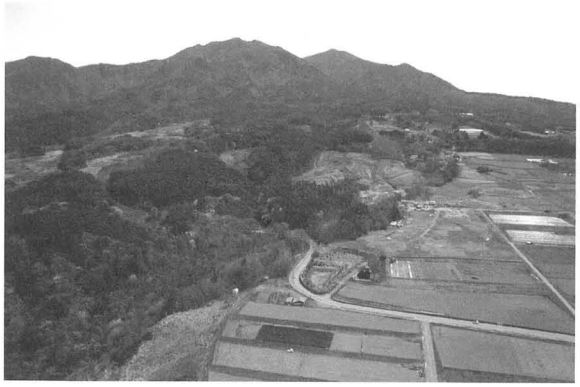
平成 18 年 2 月 22 日	財山環第 2-7 号	埋蔵文化財発掘の届出について（ボーリング調査）
平成 18 年 4 月 10 日	北杜生学第 47-2 号	遺跡発見の通知
平成 18 年 4 月 11 日	教学文第 129 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 4 月 17 日	財山環第 4-5 号	埋蔵文化財発掘の届出について（事業用地全体）
平成 18 年 4 月 21 日	教学文第 276 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 5 月 1 日	北杜生学第 96-5 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 9 月 14 日	財山環第 9-6 号	埋蔵文化財発掘の届出について（追加用地）
平成 18 年 9 月 21 日	教学文第 1716 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 12 月 8 日	財山環第 12-1 号	埋蔵文化財発掘の届出について（追加用地）
平成 18 年 12 月 20 日	教学文第 2605 号 -2	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について

発見された遺構は、縄文時代早期の遺物集中、縄文時代中期末葉の配石遺構、後期の土坑数基、弥生時代前期の住居跡 1 軒と土坑 20 基、古墳時代前期の住居 1 軒、平安時代の住居跡 38 軒、掘立柱建物跡 6 棟、炭焼施設 3 基などである。

調査成果で特に注目されるのは隣接する梅之木遺跡との関連である。湯沢川をはさんでいるものの両者の継続時期、構成遺構などを比較すると一体の集落跡と理解すべきであることが分かる。さらに浅尾原Ⅵ遺跡では梅之木遺跡以上に鍛冶関連遺構が多く、炭焼窯も発見されていることから、小笠原牧の現地経営に関わる集団のうち、とくに鉄製品の生産に従事した人々の集落と推測される。炭焼窯は、出土した炭化材を炭素年代法により年代測定したところ、平安時代の年代観にほぼ合致する値が得られた。

梅之木遺跡と浅尾原Ⅵ遺跡の関連性は、墨書土器からも裏付けられそうである。「目」の墨書土器は県内でもあまり出土例をみない希少文字であるが、これが梅之木遺跡と浅尾原Ⅵ遺跡の両遺跡で出土している。

なお、浅尾原Ⅵ遺跡の発掘調査報告書は平成19年度刊行予定である。詳細については、報告書を参照いただきたい。



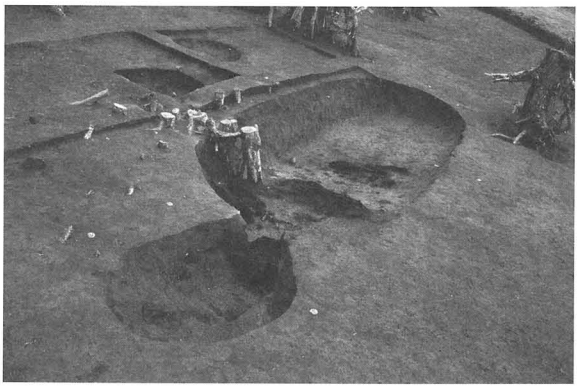
浅尾原Ⅵ遺跡遠景

浅尾原Ⅵ遺跡近景

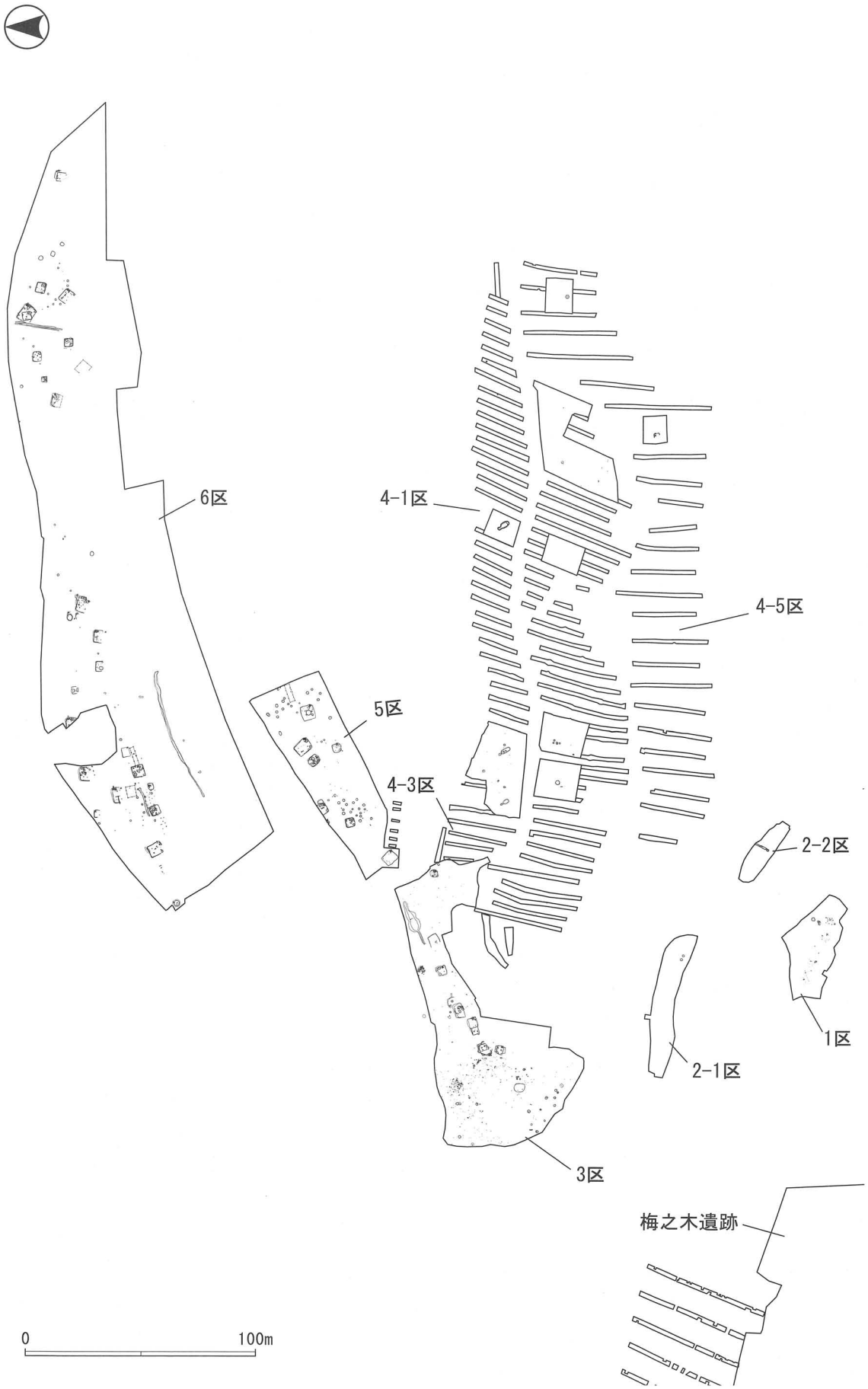
鍛冶遺構を伴う平安時代の住居跡

鍛冶遺構の検出状況

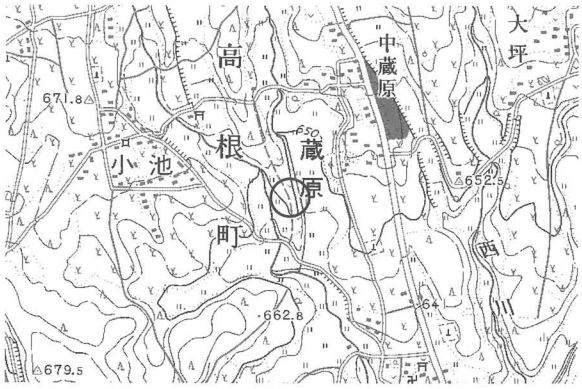
住居跡の土師器埋納遺構



平安時代の炭焼窯跡


6区
4-1区
4-5区
5区
4-3区
2-2区
1区
2-1区
3区
梅之木遺跡
0
100m

4　西久保遺跡



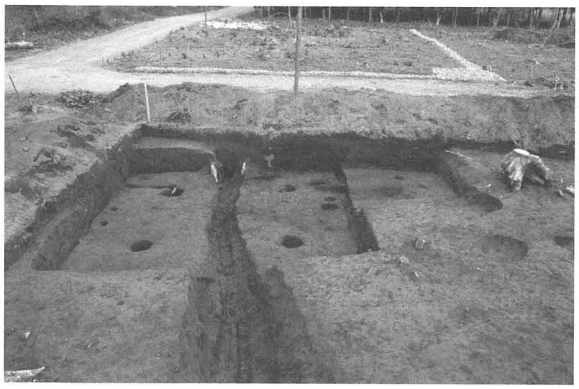
調査地点：北杜市高根町蔵原字西久保 2403-3 番地
調査原因：専用住宅
調査面積：134.4 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 5 月 9 日～平成 18 年 5 月 22 日

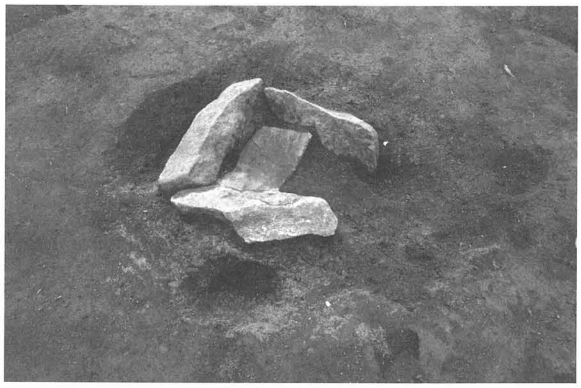
発掘調査の経過と成果

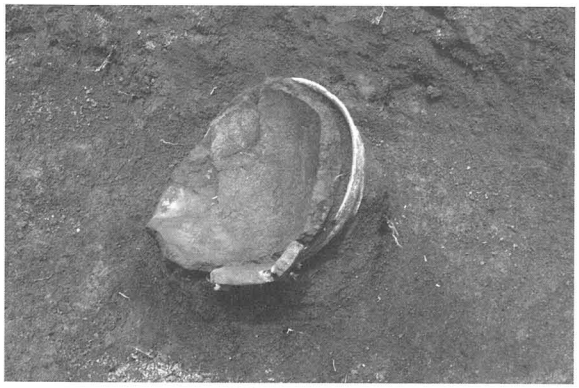
周知の埋蔵文化財包蔵地「西久保遺跡」で専用住宅建設の計画があったため試掘調査を実施したところ縄文時代と古墳時代の遺構と遺物を検出したため、敷地面積 660 ㎡のうち建築面積 30 ㎡において発掘調査を実施した。調査に係る公文書は以下のとおりである。

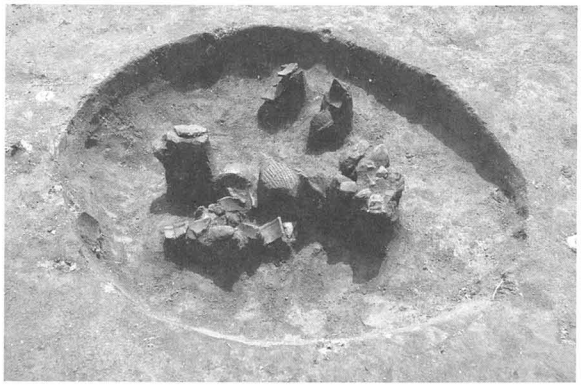
平成 18 年 5 月 10 日	北杜生学第 66-3 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 5 月 22 日	北杜生学第 66-4 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 5 月 22 日	北杜生学第 66-5 号	埋蔵文化財保管請証
平成 18 年 5 月 22 日	北杜生学第 66-6 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 5 月 22 日	北杜生学第 66-7 号	埋蔵物発見届

調査の結果、縄文時代中期の住居跡 1 軒、古墳時代後期の住居跡 1 軒、土坑 5 基を検出し、縄文時代と古墳時代の土器および石器テンバコ 3 箱分が出土した。

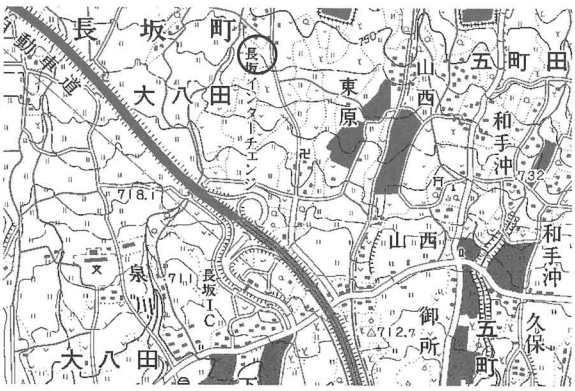

住居完掘状況


炉跡検出状況


遺物出土状況


土坑検出状況

5　窪田遺跡



調査地点：北杜市長坂町大八田 1749-1 番地・1750-1 番地・1752 番地・1754-2 番地
調査原因：駐車場造成
調査面積：200 ㎡
調査担当：村松佳幸
調査期間：平成 18 年 5 月 16 日～平成 18 年 5 月 30 日

発掘調査の経過と成果

長坂町大八田に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地「窪田遺跡」は、縄文時代から平安時代の集落跡である。周囲には縄文時代から平安時代の集落跡である柳坪遺跡、中世の小和田館跡、小屋敷遺跡などが知られる。平成 17 年度末に東京都に本部を置く宗教法人が窪田遺跡の一角で 3,849 ㎡の駐車場造成を計画したことから、市教育委員会が試掘調査を実施したところ、平安時代の遺構と遺物を検出した。そこで事業者と市教委とが協議し、駐車場の大半を盛土造成して遺構を保存したまま駐車場を造成することとしたが、雨水排水溝は遺構確認面を超えて掘削する必要があったため、排水溝部分 200 ㎡で発掘調査を実施した。

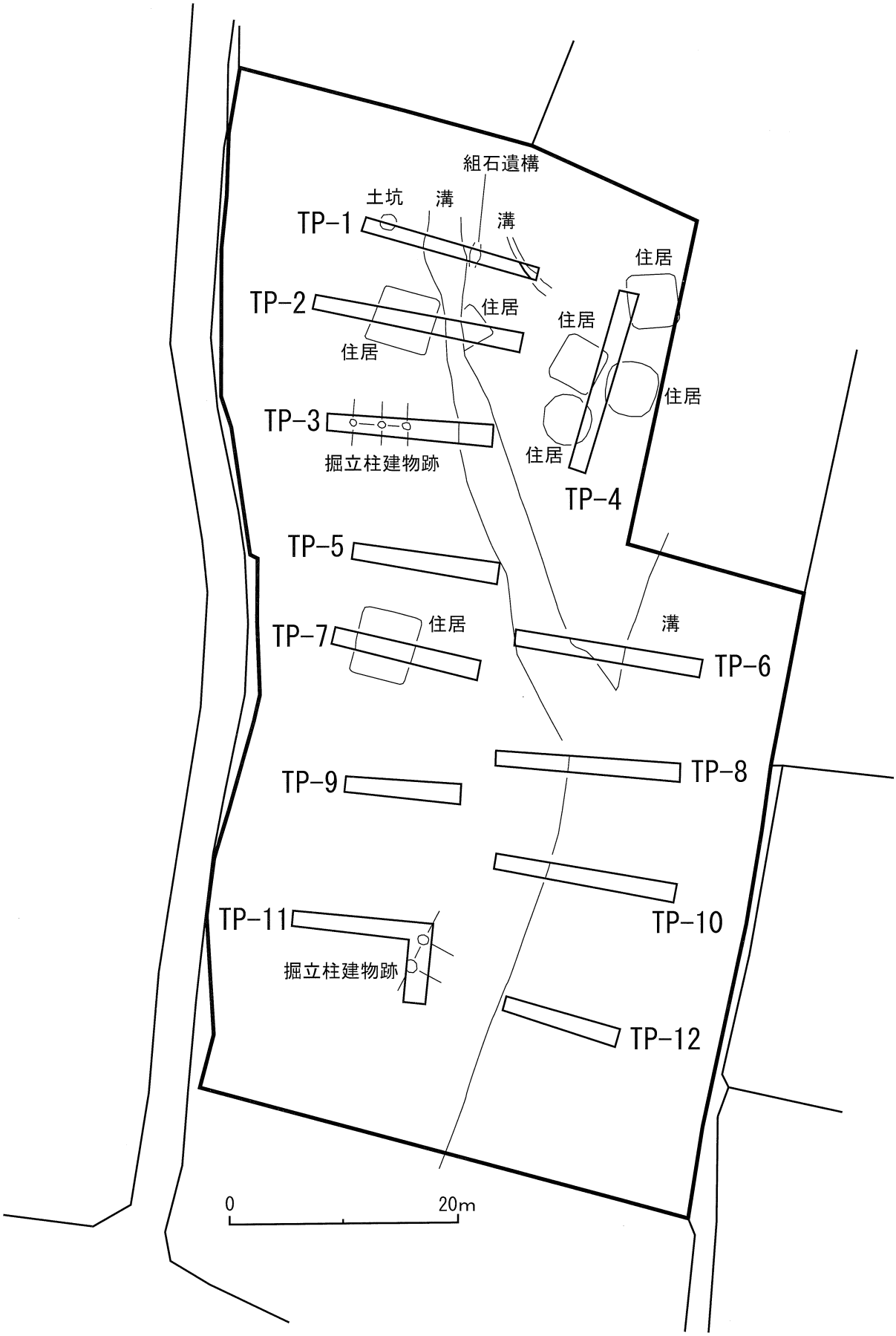
調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 18 年 3 月 17 日		埋蔵文化財発掘の届出について
平成 18 年 3 月 24 日	教学文第 3036 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 5 月 16 日	北杜生学第 237 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 5 月 31 日	北杜生学第 237-1 号	埋蔵物発見届
平成 18 年 5 月 31 日	北杜生学第 237-2 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 5 月 31 日	北杜生学第 237-3 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 5 月 31 日	北杜生学第 237-4 号	埋蔵文化財保管請証

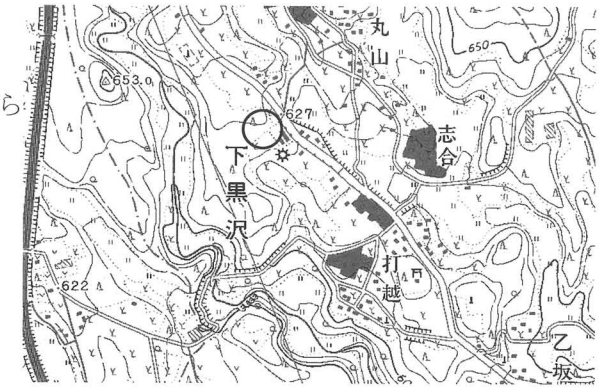
試掘調査で検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡 7 軒、掘立柱建物跡 2 棟で、排水溝により破壊される平安時代住居 1 軒の一部のみを発掘調査した。出土遺物は試掘調査、発掘調査と合わせて平安時代の土器テンバコ 1 箱分である。

調査地点近景

住居跡検出状況


組石遺構
土坑
溝
溝
TP-1
住居
TP-2
住居
住居
住居
住居
住居
TP-3
掘立柱建物跡
TP-4
TP-5
TP-7
住居
溝
TP-6
TP-8
TP-9
TP-10
TP-11
掘立柱建物跡
TP-12
0
20m

6　日影田遺跡



調査地点：北杜市高根町下黒沢字日影田 2303-4 番地から 2262 番地
調査原因：市道下黒沢穴道打越線改良舗装工事
調査面積：533.4 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 7 月 5 日～7 月 31 日

発掘調査の経過と成果

北杜市役所道路河川課は、地域住民の通行の便を図るため、市道下黒沢穴道打越線の幅員を拡張しアスファルト舗装する工事を計画した。従前の市道は幅が狭く砂利舗装であったが、付近に県営住宅高根南団地が建設されたために交通量が増加し、道路改良の必要が生じた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「日影田遺跡」に該当するため、道路河川課と市教育委員会とで協議し、工事着手前に試掘調査を実施することとした。文化財保護法による公文書は以下のとおりである。なお本調査では出土品がなかったため埋蔵物発見届、埋蔵文化財保管証等は提出していない。

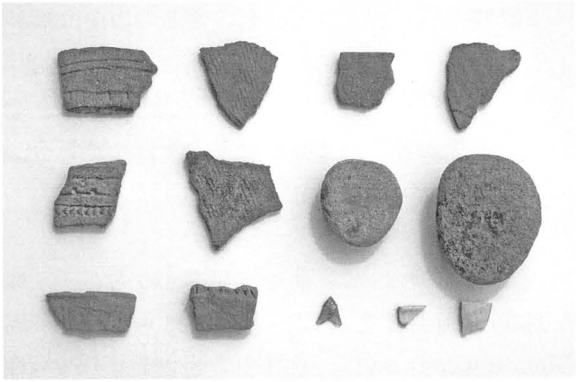
平成 18 年 5 月 22 日	北杜道河第 436 号	埋蔵文化財発掘の通知について
平成 18 年 6 月 1 日	教学文第 723 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 7 月 6 日	北杜生学第 277-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 8 月 1 日	北杜生学第 277-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について

細長い道路改良用地にほぼ併行して延長 84m におよぶ堀 1 条が発見され、発掘調査した。溝は上端に開く V 字状の薬研堀で、上端の幅約 2m、深さは約 1m である。写真に示すとおりかなりの規模の堀で、根切溝、用水溝などではなく、中世居館等に伴う堀跡である可能性がある。調査地点の東側には南北 125m、東西 120m の方形地割が認められる。地域の伝承に、この付近の在地豪族居館跡は伝えられておらず、調査地点の東側に甲斐国志が記する米倉酒造之丞宅跡が知られているのみである。

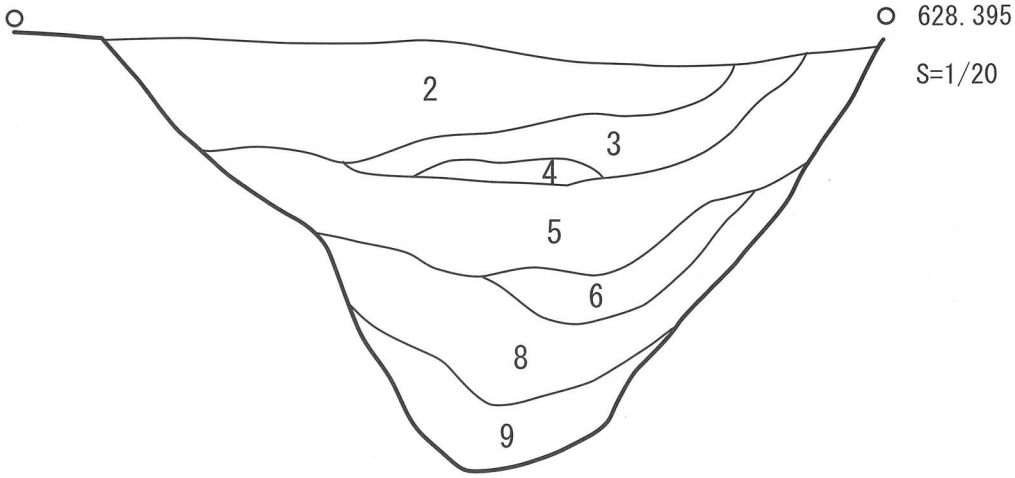
堀跡の検出状況

堀跡の検出状況

堀跡断面

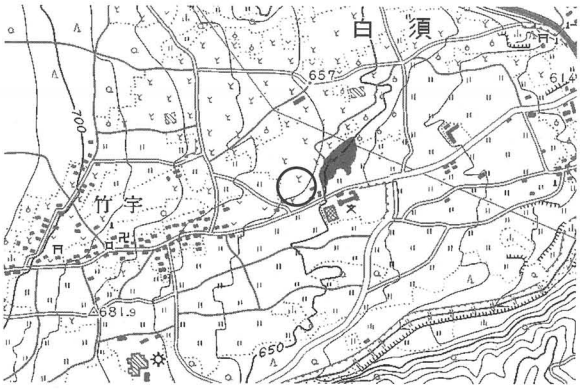


出土遺物



溝 I
1層 Hue10YR4/4(褐)にHue10YR3/4(暗褐)が10%混じる、ローム粒子5mm～1mm土質細い、しまり非常に固い。炭化物1%。
2層 Hue10YR3/4(暗褐)にHue10YR4/4(褐)が10%混じる、ローム粒子5mm～2mm。土質細い、しまり非常に固い。炭化物1%。
3層 Hue10YR3/3(暗褐)にHue10YR4/4(褐)が5%混じる、ローム粒子1mm。土質細い、しまり固い。炭化物1%。
4層 Hue10YR4/6(褐)にHue10YR3/3(暗褐)が10%混じる、土質細い、しまり非常に固い。炭化物1%、。
5層 Hue10YR3/2(黒褐)にHue10YR3/3(暗褐)が5%混じる、土質細い、しまり固い。炭化物1%。
6層 Hue10YR3/3(暗褐)にHue10YR4/4(褐)が5%混じる、ローム粒子10mm～3mm土質細い、しまり非常に固い。炭化物1%。
7層 Hue10YR3/2(黒褐)にHue10YR3/3(暗褐)が7%混じる、ローム粒子2mm～1mm。土質細い、しまり固い。炭化物0%。
8層 Hue10YR4/3(にぶい黄褐)にHue10YR3/4(暗褐)が10%混じる、土質細い、しまりしまる。炭化物1%。
9層 Hue10YR4/4(褐)にHue10YR3/4(暗褐)が7%混じる、土質細い、しまりしまる。炭化物1%。
地山 Hue10YR2/3(黒褐)にHue10YR3/4(暗褐)が10%混じる、土質細い、しまり非常に固い。炭化物0%

7　竹宇３遺跡



調査地点：北杜市白州町白須字竹宇 3039-2 番地ほか
調査原因：広域営農団地農道整備事業甲斐駒ケ岳地区
　　白州 3-1 工区
調査面積：1,873 ㎡
調査担当：佐野隆
調査期間：平成 18 年 9 月 15 日～平成 18 年 10 月 3 日

発掘調査の経過と成果

山梨県中北農務事務所は営農活動支援のために北杜市内で農道整備事業を展開している。平成 18 年度には白州町白須地内で農道工事が計画された。工事計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地「竹宇３遺跡」に該当することから、試掘調査を実施したところ縄文時代の遺構と遺物が確認された。そこで中北農務事務所と市教育委員会とで協議し、記録保存のための発掘調査を実施することとした。

発掘調査は、農道工事の事業主体である山梨県が経費を負担し、北杜市教育委員会が調査を実施することを定めた調査経費負担協定を締結したうえで、平成 18 年 9 月 15 日から 10 月 3 日まで、1,873 ㎡において実施した。調査記録、出土品の整理、発掘調査報告書の作成は、現地調査終了後に実施し、平成 19 年 3 月 30 日までに完了した。調査経費は、3,151,967 円で、山梨県が 2,835 千円、北杜市が 316,967 円を負担した。

文化財保護法、調査経費等に係わる事務手続きは、以下のとおりである。

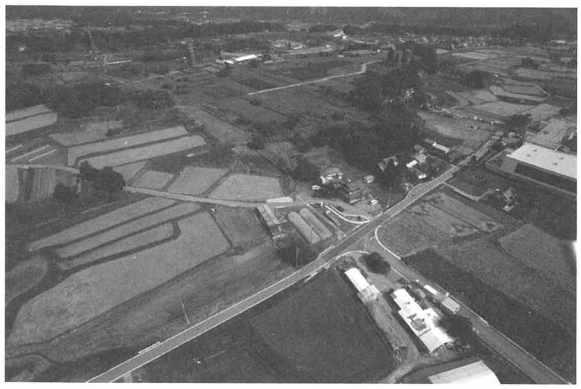
埋蔵文化財の試掘調査の実施について	平成 18 年 6 月 20 日	中北農第 876 号
試掘調査結果報告書	平成 18 年 8 月 1 日	北杜生学第 455-1 号
遺跡発見届	平成 18 年 8 月 4 日	北杜生学第 633 号
遺跡の発見について（通知）	平成 18 年 8 月 10 日	教学文第 1327 号
文化財保護法第 94 条による通知	平成 18 年 8 月 28 日	中北農第 876-2 号
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について	平成 18 年 9 月 1 日	教学文第 1642 号
文化財保護法第 99 条による報告	平成 18 年 9 月 5 日	北杜生学第 710-4 号
埋蔵文化財発掘調査経費負担協定	平成 18 年 8 月 28 日	中北農第 1431 号
埋蔵文化財発掘調査実施計画書	平成 18 年 8 月 28 日	北杜生学第 702-2 号
埋蔵文化財調査終了報告	平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 710-5 号
埋蔵物発見届	平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 710-6 号
埋蔵物保管請証	平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 710-8 号
埋蔵文化財保管証	平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 710-7 号
発掘調査実施結果報告書	平成 19 年 4 月 17 日	北杜生学第 702-3 号（見込）

発掘調査の結果、縄文時代中期末葉（曽利式期）の竪穴住居跡 2 軒、前期前葉中越式期の竪穴住居跡 1 軒、縄文時代の土坑 7 基、中世以降の土坑 18 基、時期不明の溝状遺構 4 条を検出した。出土遺物では曽利式期の住居跡から出土し、完形近くまで復元された土偶が注目される。調査の詳細は、北杜市教育委員会 2007 『竹宇３遺跡』北杜市埋蔵文化財調査報告第 24 集に報告したので、参照いただきたい。

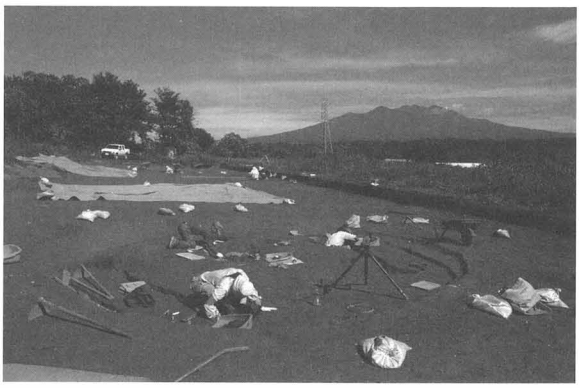
竹宇3遺跡調査区全体図

★検出された遺構

①住居跡	縄文時代	前　期	1軒
	縄文時代中期後半		2軒
②土　坑	縄文時代		7基
	時期不明円形土坑		18基
③　溝			4条

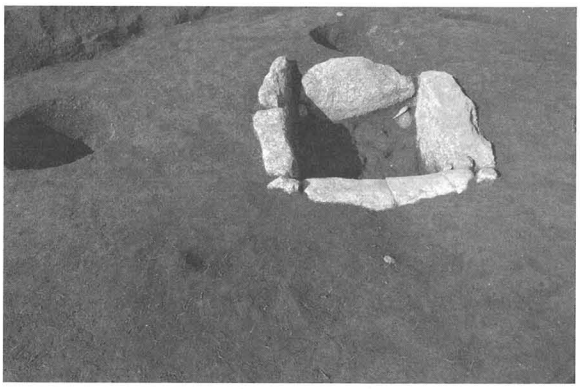


調査地点遠景　南西上空から



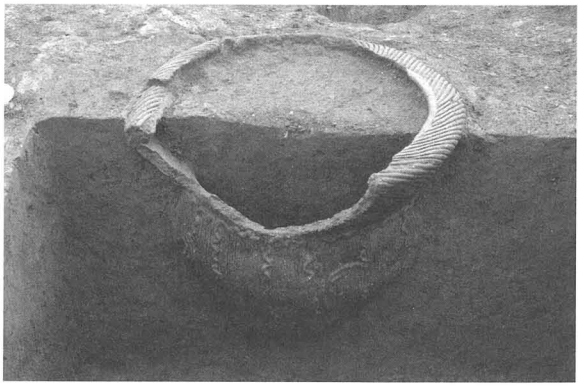
調査地点近景　南西から

1号住居跡完掘状況



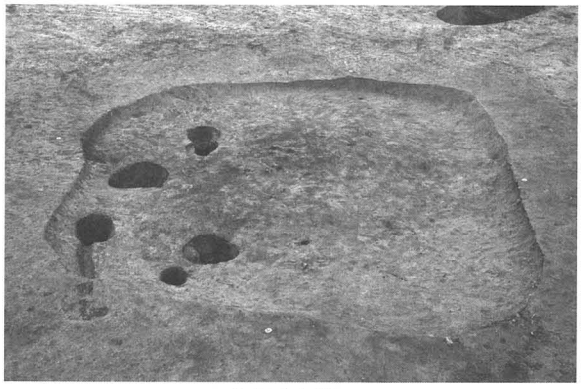
1号住居炉跡

2号住居跡



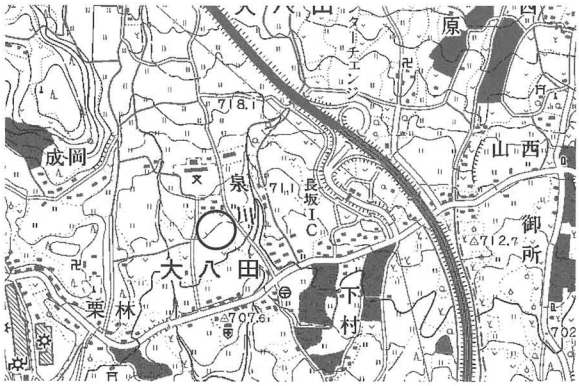
2号住居埋甕

2号住居土偶出土状況



3号住居跡

8　小屋敷遺跡



調査地点：北杜市長坂町大八田字道添 3881 番地および
　　3882 番地
調査原因：専用住宅
調査面積：80 ㎡
調査担当：村松佳幸
調査期間：平成 18 年 9 月 20 日～平成 18 年 10 月 3 日

発掘調査の経過と成果

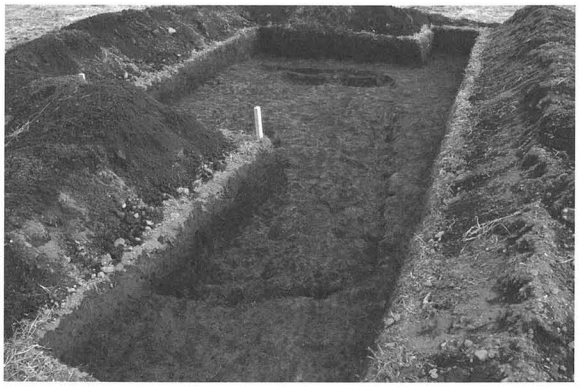
長坂町大八田地内の周知の埋蔵文化財包蔵地「小屋敷遺跡」において専用住宅建設が計画されたことから試掘調査を実施したところ、平安時代の遺構と遺物が確認されたため、着工前に建造物の建築区域のみで記録保存のための発掘調査を実施した。施工業者との協議により布基礎の床堀部分など遺構が破壊される箇所 80 ㎡を調査対象とした。調査経費は国庫補助事業市内遺跡発掘調査において支出した。

本調査に係る公文書は以下のとおりである。

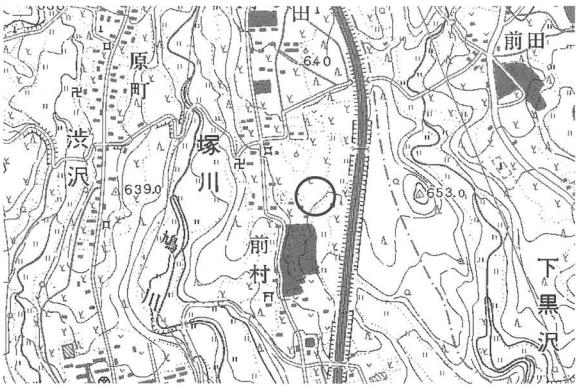
平成 18 年 8 月 28 日		埋蔵文化財発掘の届出について
平成 18 年 9 月 5 日	教学文第 1546 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 694-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 694-6 号	埋蔵物発見届
平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 694-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 10 月 4 日	北杜生学第 694-8 号	埋蔵文化財保管請証

発掘調査の結果、平安時代の住居跡 2 軒を検出し、土器テンバコ 1 箱分が出土した。「和田」と墨書された土師器の出土が注目される。「和田」の地名は、遺跡の北側に「大和田」、「小和田」の地名が残るほか、大泉町西井出に「和田」の地名がみえる。遺跡の北北西 1km に小和田館跡もあるが、それらとの関連があるのだろうか。「和田」の地名は洪水を受けた平地を示すともいわれるが、清光寺の前身にあたる信立寺がかつて小屋敷周辺にあったものが、水害により現在地に移転したとも伝えられるから、こうした歴史にも関係するものかもしれない。

調査地点近景


住居検出状況

9　下村遺跡



調査地点：北杜市長坂町塚川字東前田 1767 他
調査原因：県営中山間地域総合整備事業八ヶ岳西部 2 期
　　地区農道 9 号道路工事
調査面積：1,085 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 10 月 10 日～平成 18 年 11 月 10 日

発掘調査の経過と成果

山梨県中北農務事務所は営農支援のための農道整備事業を長坂町塚川地内で計画した。工事計画地は周知の埋蔵文化財「下村遺跡」に該当するため、事前に試掘調査を実施したところ、遺構が確認された。そこで中北農務事務所と市教育委員会とで協議し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査は上記期間に実施し、調査経費は 1,752,187 円で、山梨県が 1,487,000 円、北杜市が 265,187 円を負担した。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

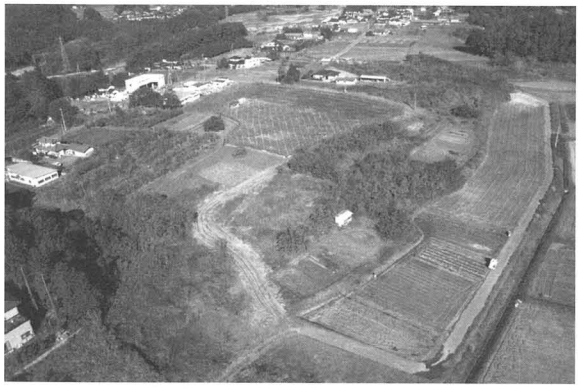
平成 18 年 6 月 26 日	中北農第 927 号	埋蔵文化財発掘の通知について
平成 18 年 6 月 30 日	教学文第 993 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 8 月 28 日	中北農第 1433 号	埋蔵文化財発掘調査費に関する協定書
平成 18 年 10 月 10 日	北杜生学第 476-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 11 月 14 日	北杜生学第 476-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 11 月 14 日	北杜生学第 476-6 号	埋蔵物発見届
平成 18 年 11 月 14 日	北杜生学第 476-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 11 月 14 日	北杜生学第 476-8 号	埋蔵文化財保管請証
平成 19 年 3 月 31 日	北杜生学第 992-2 号	下村遺跡発掘調査実施結果報告書

発掘調査は工事面積 1,222 ㎡のうち遺構、遺物が検出された 1,085 ㎡で実施した。その結果、中世の溝状遺構 9 条、竪穴状遺構 1 基、地下式土坑 1 基、土坑 20 基、火葬施設 1 基を検出し、テンバコ 3 箱分の中世のかわらけ、土製品、石製品が出土した。検出された溝状遺構は浅く小規模なものであるが、屈曲して方形区画を構成するものも認められる。円形土坑、地下式土坑、火葬施設は調査区北側にまとまって検出された。

調査地点の北西 150m には「塚川の土塁」と呼ばれる現存長 100m、基底部幅 3m、高さ 2m ほどの土塁が東西方向に走っている。また南西 150m には在地豪族守屋氏屋敷跡があり、やはり小規模な土塁などの遺構が認められる。調査地点の遺構がこれら中世の遺構と関連する可能性がうかがえるが、幅員 4m の狭い道路幅での調査であったため、遺跡の性格を明らかにするには至らなかった。

出土した遺物はかわらけ、内耳土器、瀬戸産卸皿破片、砥石、石臼などである。かわらけと内耳土器の年代観は 15 世紀代に位置づけられると思われる。瀬戸産卸皿の生産地年代はさらに古い可能性がある。

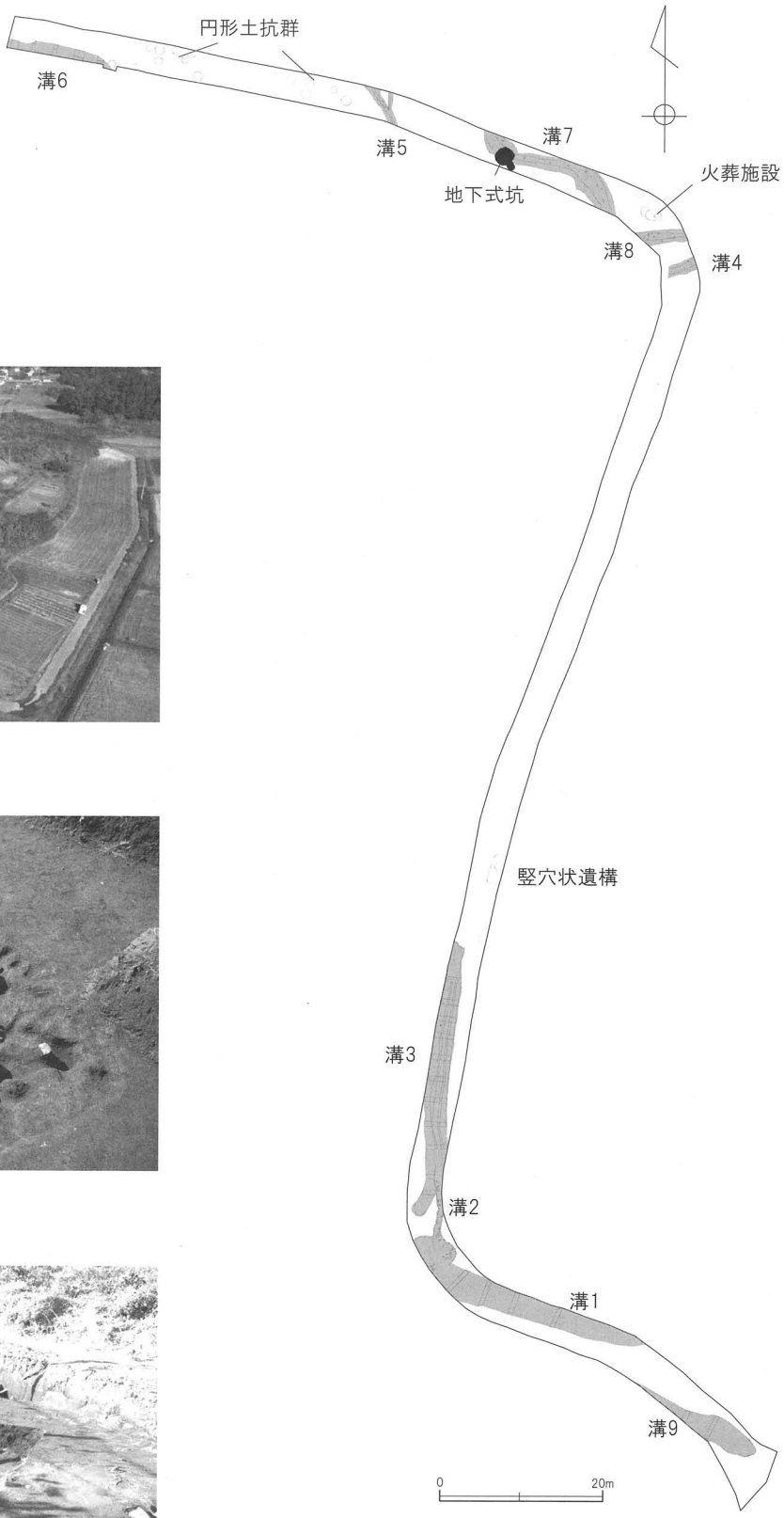
塚川の土塁、守屋氏屋敷跡ともにその実態は明らかでなく、わずかな調査面積とはいえ、これらの遺構を検討するうえで本調査の成果は大きいと思われる。



調査地点遠景

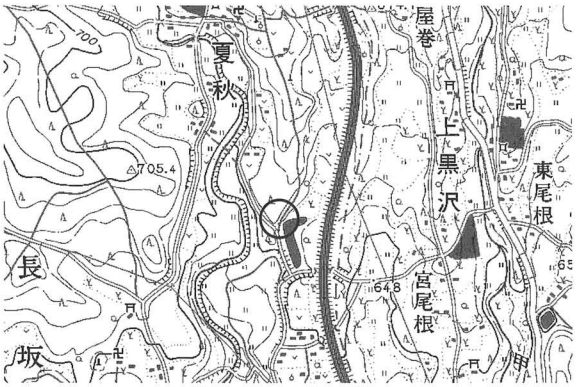
竪穴状遺構

溝跡の状況



遺跡全体図

10　頭無Ａ遺跡



調査地点：北杜市長坂町塚川 1500-1 他
調査原因：中山間活性化ふれあい支援農道整備事業
調査面積：2,600 ㎡
調査担当：村松佳幸
調査期間：平成 18 年 10 月 16 日～平成 19 年 3 月 8 日

発掘調査の経過と成果

中北農務事務所が所管する農道整備事業が周知の埋蔵文化財包蔵地「頭無Ａ遺跡」内で計画された。そこで試掘調査を実施したところ、縄文時代ほかの遺構が確認されたため、着工前に記録保存のための発掘調査を実施することとした。

発掘調査に係る公文書は以下のとおりである。

文化財保護法第 94 条による通知	平成 18 年 9 月 28 日付け	中北農第 1781 号
同通知に係わる指示通知	平成 18 年 10 月 13 日付け	教学文第 1891 号
調査経費負担協定書（発掘）	平成 18 年 10 月 2 日付け	中北農第 1789 号 -1
文化財保護法第 99 条による発掘着手報告	平成 18 年 10 月 23 日付け	北杜生学第 789-4 号
同条による発掘終了報告	平成 19 年 2 月 22 日付け	北杜生学 789-5 号
発掘調査実施結果報告書（発掘）	平成 19 年 4 月 13 日付け	北杜生学第 1058-2 号（見込）
埋蔵物発見届	平成 19 年 2 月 22 日付け	北杜生学 789-6 号
埋蔵物保管請書	平成 19 年 2 月 22 日付け	北杜生学 789-8 号
埋蔵文化財保管証	平成 19 年 2 月 22 日付け	北杜生学 789-7 号

頭無Ａ遺跡は鳩川左岸の舌状台地上にある。周辺には柳坪Ａ・Ｂ遺跡、石原田北遺跡、小和田遺跡などの縄文時代から中世にかけての大規模な遺跡がある。今回の調査で発見された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡５軒、平安時代の竪穴住居跡６軒、弥生時代後期の周溝墓８基、竪穴状遺構１基、溝状遺構７条、組石状遺構１基、土坑 22 基（弥生時代中期の土坑を含む）、ピット 160 基である。出土遺物は旧石器時代の石器、縄文時代の土器・石器・土製品、弥生時代の土器・石器・鉄製品、平安時代の土器・土製品・鉄製品等である。遺構・遺物は、調査区北側のＡ・Ｂ区では少なく、南側のＣ区に集中している。これはＡ・Ｂ区が緩斜面、Ｃ区が平坦面であるためと考えられる。

以下、時代毎に概要を記す。

［旧石器時代］

旧石器時代の遺構は発見されなかったが、ナイフ形石器、石刃、剥片等の石器が出土した。まとまって出土した地点はＢ区の中央付近であり、その周辺で出土した縄文時代の遺物との出土レベルの差はあまりなかった。ナイフ形石器の形態から、丘の公園第１遺跡・丘の公園第２遺跡・天神堂遺跡といった比較的新しい石器群より、横針前久保遺跡のやや古い年代の石器群に近いと考えられる。
旧石器時代の遺跡が少ない山梨県において、比較的まとまった事例となった。

［縄文時代］

縄文時代の竪穴住居跡が５軒発見されている。住居跡の時期は全て中期後半の曽利Ⅳ式期である。住居跡はＣ区の南側に集中している。６号・８号住居跡には埋甕が２個ずつあり、住居の上屋を建て替えたことが確認できた。

［弥生時代］

弥生時代の遺構は、中期の土坑が１基、後期の周溝墓が８基発見されている。それらは、縄文時代の住居跡と同様、Ｃ区の南側に集中している。特に弥生時代後期の周溝墓群は、これまでに八ヶ岳南麓では北村遺跡（北杜市長坂町）でしか発見されておらず、それに次ぐ調査事例となった。北村遺跡の方形周溝墓群は古墳時代前期のものなので、それよりも古い時期に位置付けられ、八ヶ岳南麓では最古の方形周溝墓群となる。

周溝墓は全てＣ区にあり、約70ｍの範囲に展開している。その大きさにより２つのグループに分けられる。方台部（溝より内側の部分）が10～13ｍの大型のものが３基（１・４・５号周溝墓）、方台部が５～６ｍの小型のものが５基（２・３・６・７・８号周溝墓）である。溝の共有は２・３号周溝墓以外なく、大型のものはそれぞれ独立して造られている。１・４号周溝墓の主軸はほぼ同じであるが、５号周溝墓の主軸はずれている。これは、１・４号周溝墓と５号周溝墓とでは築造時期に差があったかもしれない。６・８号周溝墓は全体を調査していないので断定できないが、円形周溝墓になる可能性がある。

１号周溝墓は方台部推定13ｍで、西溝と南溝の一部が調査された。溝の最大幅は約3.5ｍで、深さは約１ｍである。溝から弥生時代の土器はあまり出土していない。南溝が縄文時代の住居である７号住居跡を壊している。

４号周溝墓は方台部約10ｍ、東西のコーナー以外を調査している。溝の最大幅は約２ｍで、深さは約１ｍである。１号周溝墓と同じく、弥生時代の土器の出土は少ない。南のコーナーに幅1.5ｍの陸橋部（ブリッジ）あるが、方台部中央に埋葬主体部は確認されなかった。

５号周溝墓は方台部約13ｍで、東溝以外を調査している。溝の最大幅は約2.5ｍで、深さは約１ｍである。北コーナーから甕が、底部から約20㎝浮いた覆土中から横倒しになった状態で出土した。南溝は重機による撹乱が激しく、一部しか残っていなかった。調査区壁の土層観察から、西のコーナーが陸橋部（ブリッジ）であった可能性ある。方台部中央には埋葬主体部が残存していた。

埋葬主体部は、最大長が約2.7ｍ、幅が約1.2ｍ、深さが約10㎝である。主軸は北東－南西となり、溝の主軸と同じである。そこから副葬品と考えられる鉄剣１振と鉄釧（鉄製の腕輪）１点が出土した。周溝墓に埋葬主体部が残っていることも珍しく、なおかつ、副葬品が出土したことは非常に稀で、貴重な調査事例といえる。

鉄剣が埋葬主体部の中央やや南寄りにあり、鉄釧は埋葬主体部の中央から出土した。鉄剣は、全長が約65㎝、最大幅が４㎝である。茎の長さは約３㎝で、茎の幅は約２㎝である。関（まち）に２つの孔があり（刃関双孔）、刀身の一部に鞘の残骸と思われる木質部が付着している。方形周溝墓の埋葬主体部から出土した鉄剣は、宮ノ上遺跡（甲府市・旧中道町）に次ぐ２例目の発見である。

鉄釧は、長さが約11㎝、最大幅が約８㎝で、片方がやや狭い円柱形をしている。狭いほうの幅が約６㎝である。本来は断面形状が円形だが、土圧のため少し押しつぶされていた。細く扁平な鉄の棒を螺旋状に15巻させて作られている。鉄材の幅は約６㎜で、断面形状は三角形をしている。表面の一部に繊維痕が確認でき、布のようなものでくるまれていた可能性がある。螺旋型の鉄釧は県内初の出土例である。（古墳からの環状の釧の出土があり、金の尾遺跡から銅釧が出土している。）

鉄剣と鉄釧の出土状況から埋葬姿勢が推定できる。鉄剣は遺体が北枕・仰向けに埋葬されたら左腰付近にあたる場所から出土した。鉄釧は幅の細い方が北側を向いていた。北枕・仰向けで右腕を胸の上に曲げ、手首に装着されていたと想定すると、このような出土状況になると考えられる。よって、北枕・仰向けで埋葬

された可能性が高いといえる。

鉄釧は長野県（特に北信地域）と東東京から千葉東部にかけての地域に分布が集中する。今回の発見例は、その間の空白地域を埋めることになる。地理的条件や共伴土器をみると、頭無Ａ遺跡の周溝墓は、長野県の影響が強いと考えられる。

２号周溝墓は方台部が約６ｍで、西溝以外は調査している。溝の最大幅は約 1.5 ｍ、深さは約 90 ㎝で、弥生時代の土器の出土はほとんどない。３号周溝墓は方台部が約４ｍで、東溝以外は調査している。溝の最大幅は約 1.3 ｍ、深さは約 50 ㎝で、２号周溝墓と同じく、弥生時代の土器はほとんどない。２・３号周溝墓では１辺の溝を共有している。３号周溝墓で東コーナーに幅１ｍのブリッジが確認された。それぞれに埋葬主体部は確認されなかった。

６号周溝墓は、方台部が約６ｍで、東半分を調査している。方形ではなく円形に近いので、円形周溝墓の可能性がある。溝の最大幅は約１ｍ、深さは約 40 ㎝で、弥生時代も含めて出土土器は少ない。

８号周溝墓は全体の 1/5 を調査した。溝の最大幅は 80 ㎝で、深さは約 30 ㎝である。方形ではなく円形に近いので、円形周溝墓の可能性がある。甕が約 10 ㎝浮いた状態で覆土中から出土し、横倒し状態であった。

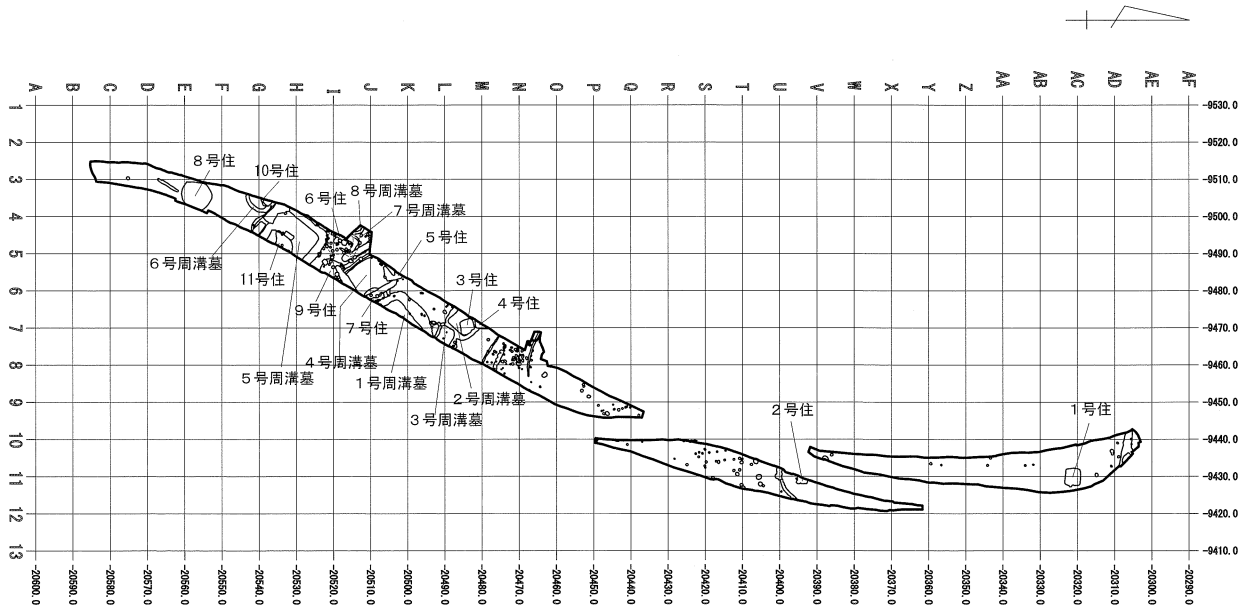
［平安時代］

平安時代の遺構は、竪穴住居跡が６軒発見された。Ａ～Ｃ区にかけて分布している。出土土器から全部の住居跡は 10 世紀前半に位置付けられる。10 号住居跡以外は、全て東壁にカマドが構築されていた。

今回の調査の最大の成果は、弥生時代後期の周溝墓群が発見され、その１つから鉄剣・鉄釧が出土したことである。それらは山梨県でも発見例が少なく、八ヶ岳南麓においては２例目や初めてのことであった。八ヶ岳南麓における弥生時代の社会形態を解明する上で欠かせない調査事例となった。

［その他の時代］

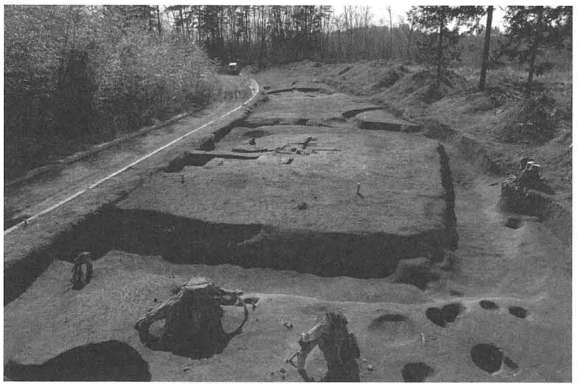
調査区の北端で幅 1m ほどの溝が検出された。わずかに検出されたのみであるが、ちょうど、この溝を境に大字夏秋と大字塚川とに分かれる。単に土地所有者と土地の境界を示す溝に過ぎない可能性もあるが、念のため、ここに記しておく。



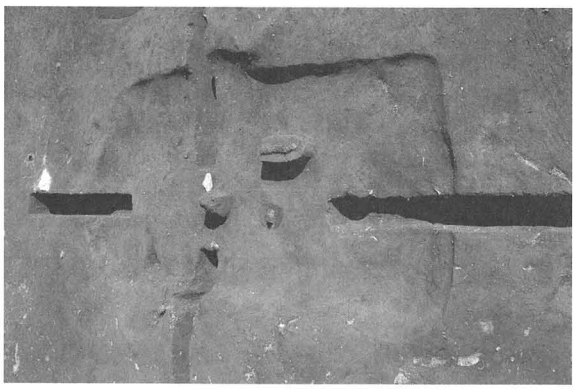
遺跡全体図

調査地点遠景　南上空から

調査地点遠景　上空から



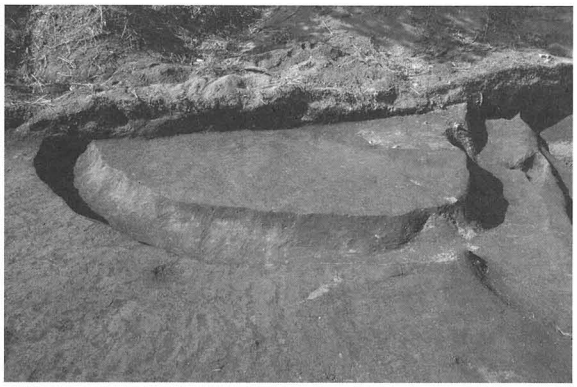
5号方形周溝墓



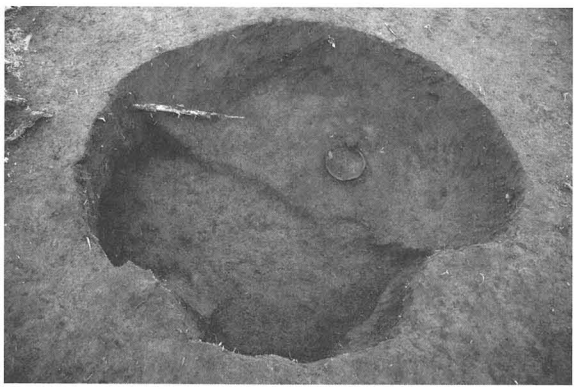
5号方形周溝墓主体部

5号方形周溝墓　鉄剣と鉄釧路の出土状況

5号方形周溝墓遺物出土状況

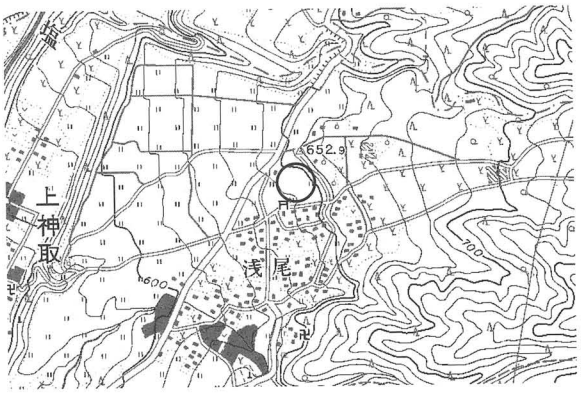


6号方形周溝墓



弥生時代中期の土坑

11　吉良窪遺跡



調査地点：北杜市明野町浅尾字吉良窪 3639-1 番地
調査原因：宅地造成
調査面積：570 ㎡
調査担当：佐野隆
調査期間：平成 18 年 10 月 17 日～平成 18 年 10 月 26 日

発掘調査の経過と成果

吉良窪遺跡は浅尾地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地で、縄文時代と平安時代の集落跡である。平成 18 年にこの遺跡内で 2,990 ㎡の宅地造成が計画されたため、全域に試掘溝を発掘したところ、縄文時代中期曽利式期と平安時代の遺構と遺物を検出した。宅地造成を計画した事業者と市教育委員会とで遺跡の取り扱いについて協議し、当面、住宅建設が予定されている区画のみで造成工事を行い、ほかの用地は現状のままとして遺跡を保存すること、造成工事を行う区画は事業者の負担で記録保存のための発掘調査を実施し施工することとした。調査に要した経費は 249,237 円で 248,000 円を事業者が負担した。

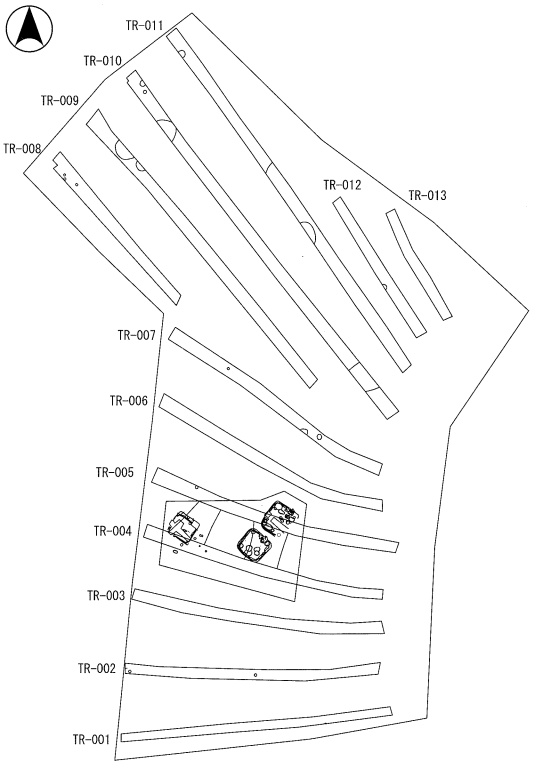
調査に係る公文書は以下のとおりである。

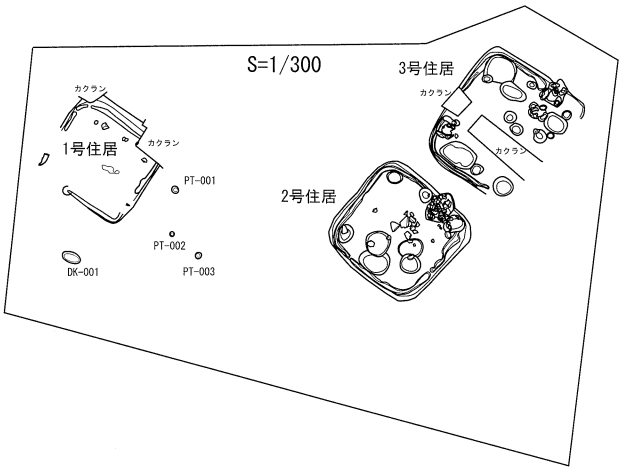
平成 18 年 7 月 18 日		埋蔵文化財発掘の届出について
平成 18 年 7 月 26 日	教学文第 1200 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 10 月 17 日	北杜生学第 569-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 10 月 27 日	北杜生学第 569-5 号	埋蔵物発見届
平成 18 年 10 月 27 日	北杜生学第 569-6 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 10 月 27 日	北杜生学第 569-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 10 月 27 日	北杜生学第 569-8 号	埋蔵文化財保管請証

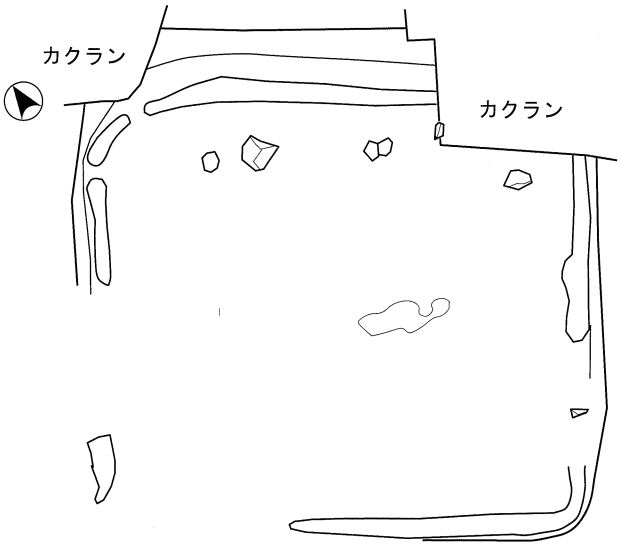
発掘調査は、事業用地のうち比較的軽微な発掘調査で済む見込みの区画 570 ㎡で実施した。この区画は平安時代の住居跡が確認されていたが、他の区域は縄文時代の遺構が分布し、調査経費がかさみ調査期間も長期化すると予測された。

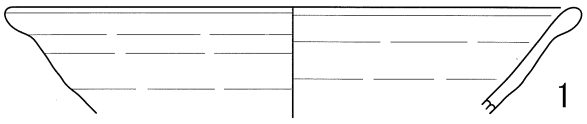
発掘調査の結果、平安時代の竪穴住居跡 3 軒を検出し、これを全面的に発掘調査した。1 号、3 号住居は耕作による撹乱が多く保存状態は不良であった。2 号住居は南壁に水道管が通り破壊されていたが、全体に保存状態が良好であった。東壁南寄りに設けられたカマドは、袖石がよく残り、原形を留めているようにみえる。しかし、カマド手前の住居床面には、カマドの構築材とみられる扁平礫が散乱し、廃棄時に解体されているものと思われる。17 号ピットは 2 号住居の貯蔵穴である。出土した平安時代の土師器から、これらの住居跡は 9 世紀後半に位置づけられると思われる。

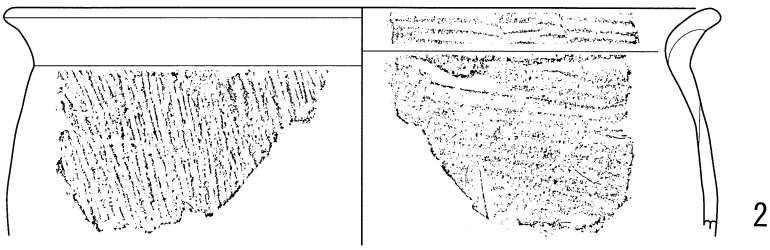
吉良窪遺跡の南西には平成 2 年度に県営圃場整備事業に伴い発掘調査された平安時代の集落跡、宮後遺跡があり、さらに中村道祖神遺跡へと連続している。北西には北原遺跡があり、やはり平安時代の遺構が確認されている。浅尾集落のなかでもやや小高い丘状の地形にこれらの遺跡が分布し、一体として理解すべき平安時代集落跡である。浅尾集落の東には小笠原牧に関連すると思われる梅之木遺跡、浅尾原Ⅵ遺跡が知られていて、これらの遺跡と吉良窪遺跡周辺の平安時代集落群との関連性も興味深いところである。

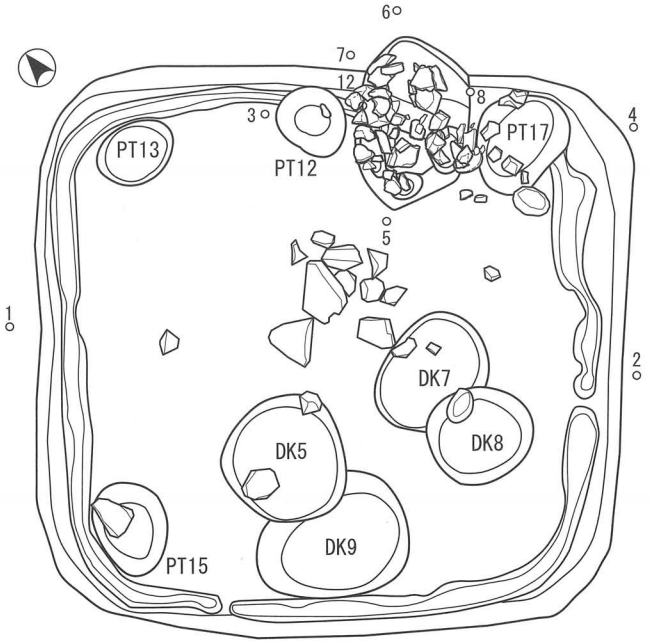

TR-011
TR-010
TR-009
TR-008
TR-012
TR-013
TR-007
TR-006
TR-005
TR-004
TR-003
TR-002
TR-001


S=1/300
3号住居
カクラン
カクラン
カクラン
1号住居
カクラン
PT-001
2号住居
PT-002
DK-001
PT-003

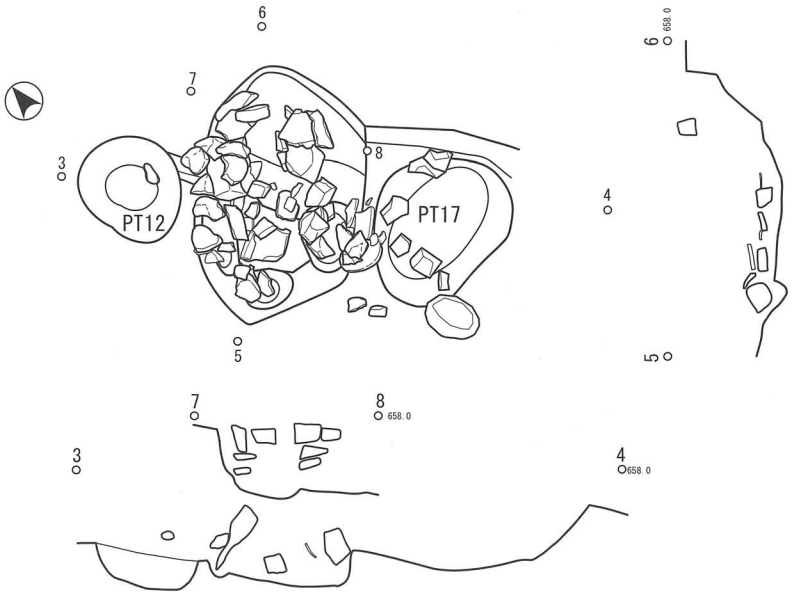

カクラン
カクラン

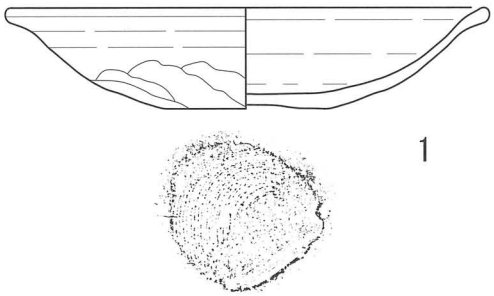

1


2

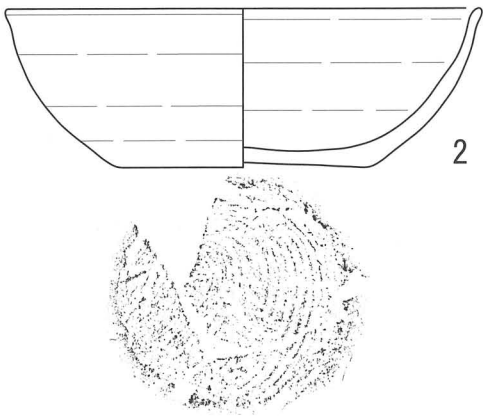


1層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、10YR4/6(褐)シルト粒土が20%、炭化物5%、焼土1%混じる。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が40%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が30%混じる。ややしまる。
4層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%混じる。ややしまる。
5層　7.5YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%混じる。ややしまる。
6層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が30%、10YR4/6(褐)シルト粒土20%、炭化物5%、焼土3%混じる。しまる。
7層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
8層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が20%、10YR4/6(褐)シルト粒土が10%炭化物1%、焼土3%混じる。しまる。
9層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%、炭化物1%、焼土1%混じる。しまる。
10層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
11層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
壁　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が40%混じる。しまる。
地山　10YR4/6(褐)シルト粒土。固くしまる。

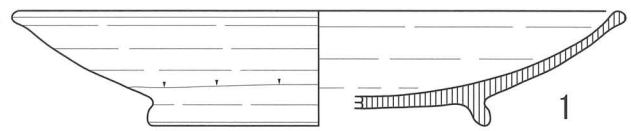


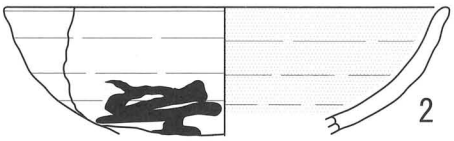


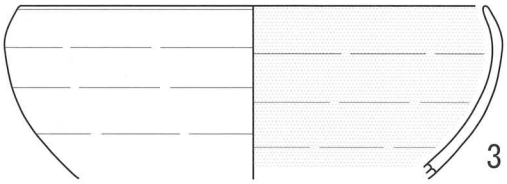
1

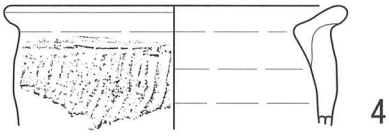


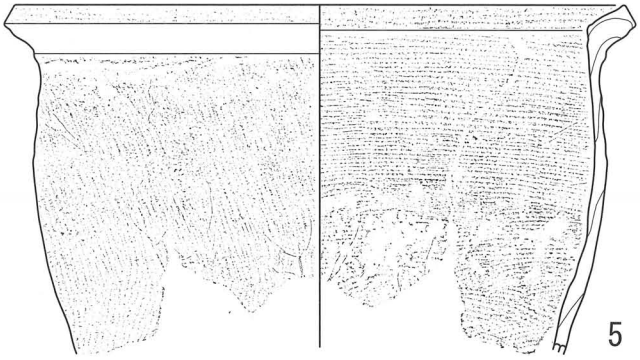
2


1


2

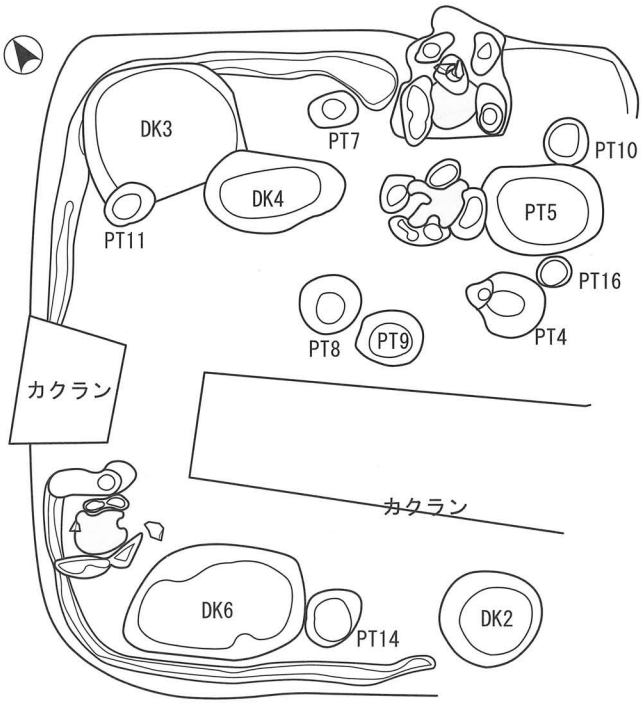

3

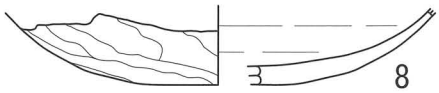

4

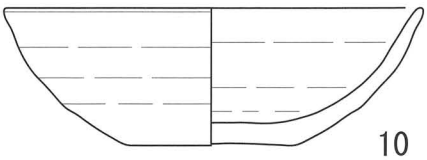

5

6

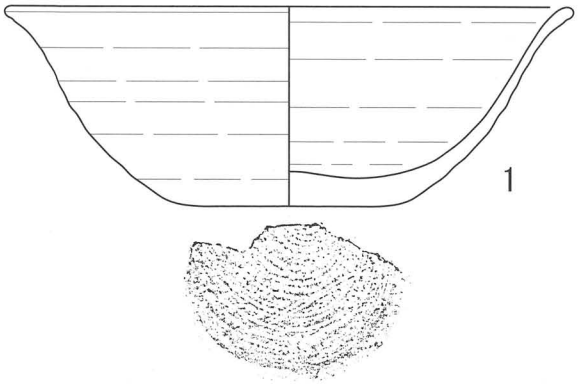
7

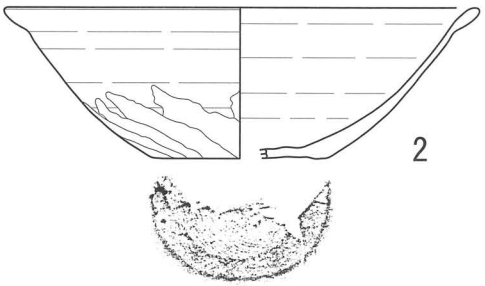

DK3
PT7
PT10
DK4
PT5
PT11
PT16
PT8
PT9
PT4
カクラン
カクラン
DK6
PT14
DK2

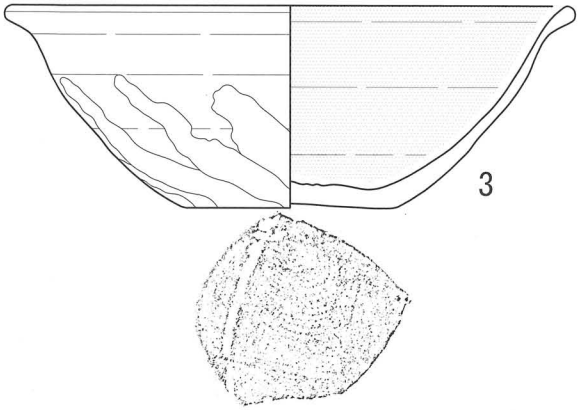

8

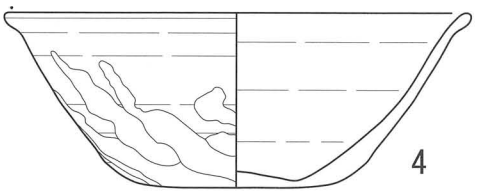

10

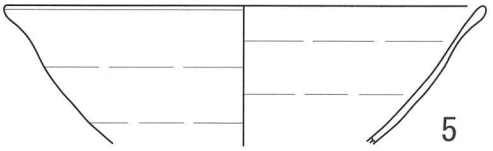
9

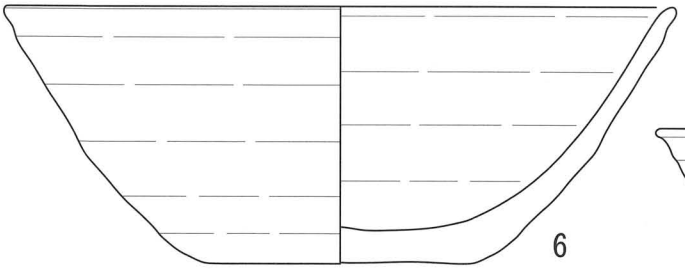

1

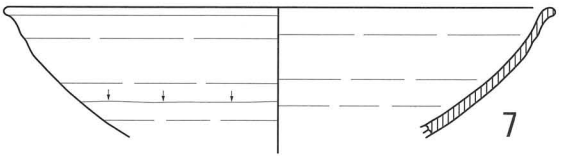

2

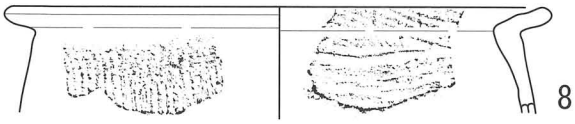

3

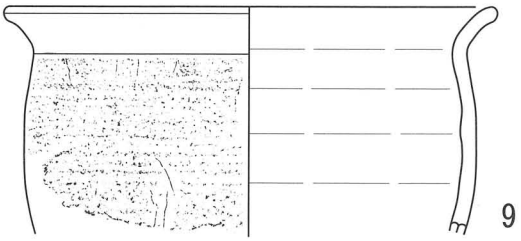

4

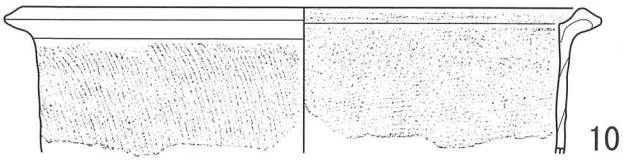

5

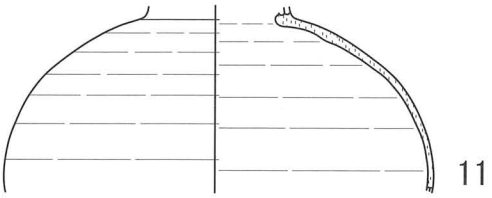

6

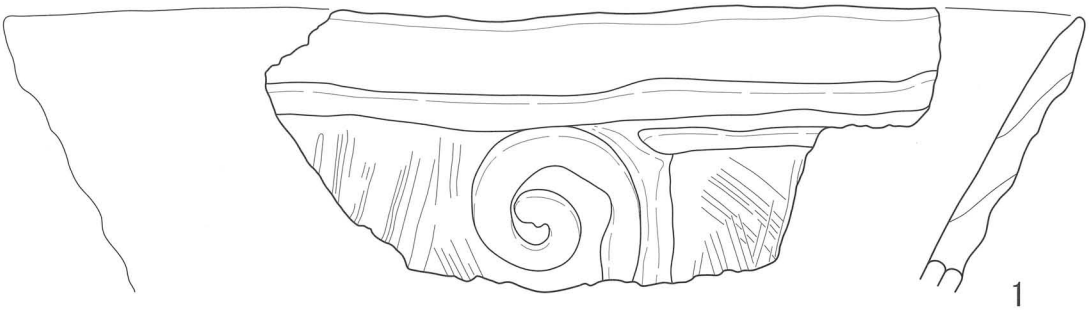

7

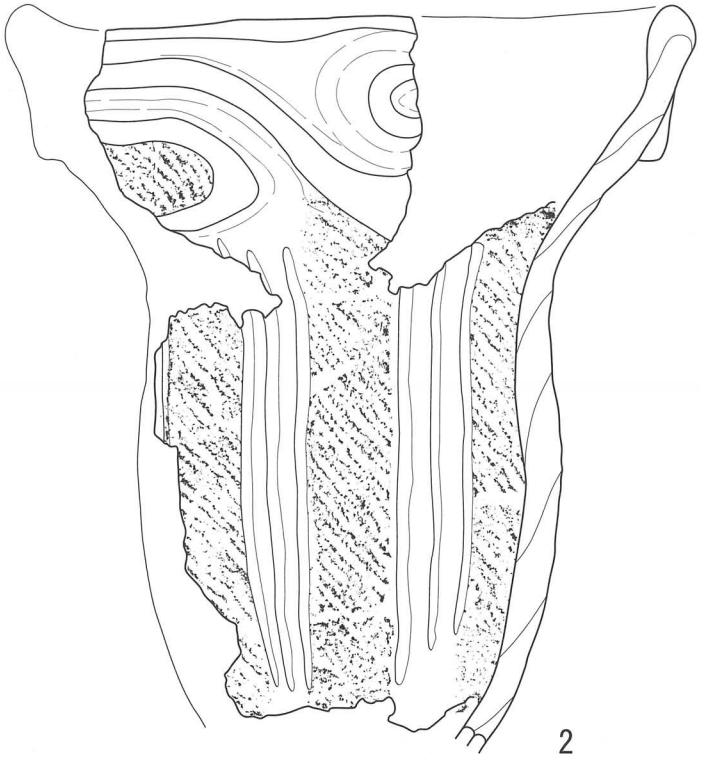

8

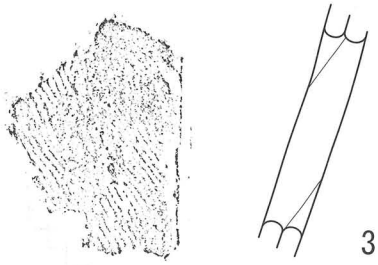

9

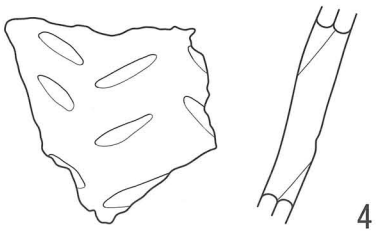

10

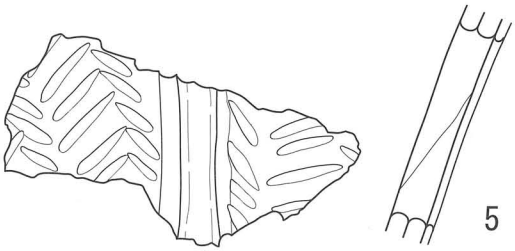

11


1


2

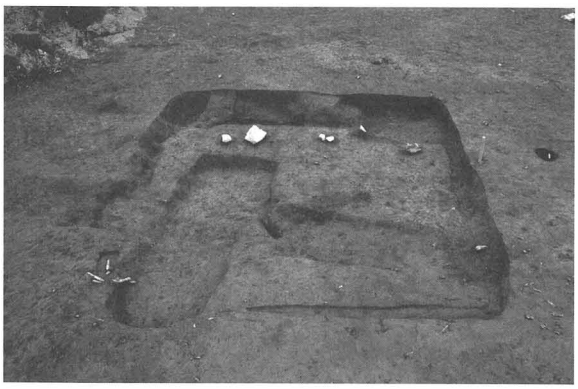

3


4


5

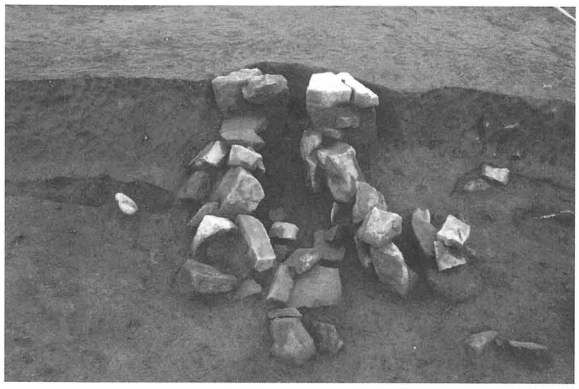
吉良窪遺跡近景　南東より

吉良窪遺跡近景　北西より



1号住居跡

2号住居跡



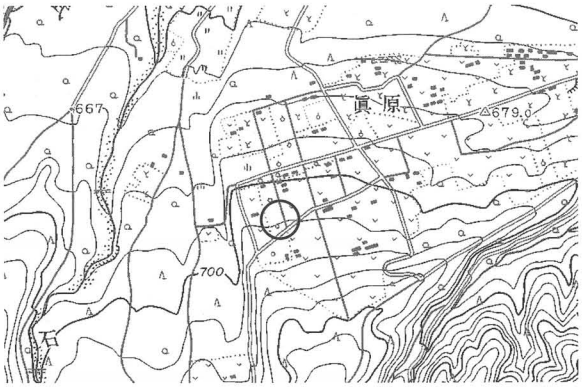
2号住居跡カマド

2号住居17号ピット

3号住居跡

3号住居カマド

12　真原Ａ遺跡



調査地点：北杜市武川町山高字真原 3567-4 番地
調査原因：個人営農活動（果樹抜根・普通畑転作）
調査面積：1,400 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 11 月 20 日～平成 19 年 1 月 26 日

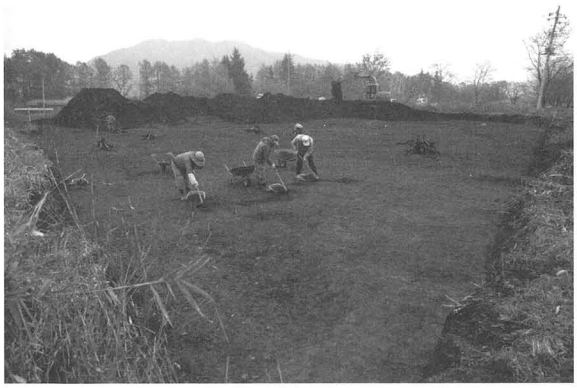
発掘調査の経過と成果

調査地点は果樹用の栗林であったが地権者が栗を伐採、抜根して普通畑に転作したいと希望した。この栗畑周辺は、周知の埋蔵文化財包蔵地内であることから、平成 18 年度以前の転作事業に伴い試掘調査等を実施し、遺構確認が浅く、重機を用いた抜根作業で遺構が破壊されることが確認されていた。そのため、地権者と協議のうえ、地権者が伐採の後、遺構確認のための発掘調査を実施し、この調査の過程で栗根を遺構を破壊しないよう抜根し、その後、遺構を発掘せずに砂と客土をもって埋め戻し、地表面を普通畑として耕作してもらうこととした。この際、遺跡の保存協定を地権者と市教育委員会の間で締結した。ゴボウ、ヤマイモといった深耕作物が作付けできないなどの不便さを受忍し、遺構の保存に理解と協力を示された地権者に深く感謝したい。なお平成 18 年度の当該調査は、真原 A 遺跡における第 9 次調査となる。

1,400 ㎡を対象とした確認調査で縄文時代中期末葉、曽利式期の住居跡 5 軒と多数の土坑を検出した。埋め戻しには遺構確認面上に川砂 10cm、客土の赤土 20cm を敷き、さらに耕作土 15cm ほどを埋め戻した。これにより遺構確認面と地表面との間に 45cm の盛土層を設けた。通常の畑作物の耕作であれば遺構確認面まで耕作深度は達しないと判断した。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 18 年 11 月 17 日	北杜生学第 930-1 号	埋蔵文化財発掘の通知について
平成 18 年 12 月 4 日	教学文第 2448 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 12 月 18 日	北杜生学第 930-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 18 年 12 月 22 日	北杜生学第 930-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 18 年 12 月 22 日	北杜生学第 930-6 号	埋蔵物発見届
平成 18 年 12 月 22 日	北杜生学第 930-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 18 年 12 月 22 日	北杜生学第 930-8 号	埋蔵文化財保管請証

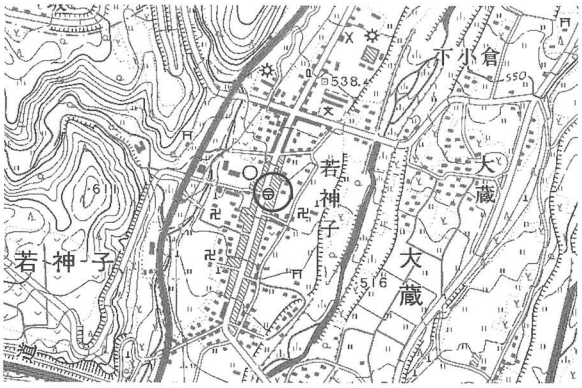

作業状況

埋め戻し

平成16年度
保存協定区域（1429㎡）
平成17年度
保存協定区域（792㎡）
平成18年度
調査区域（約1,400㎡）
平成9～15年度調査地点
平成16年度調査地点
平成17年度調査地点
平成18年度調査地点
…竪穴住居跡（縄文時代中期後半）
…土　坑
…攪　乱
0
10m
(1:600)

真原A遺跡遺構配置図

13　御崎前遺跡



調査地点：北杜市須玉町若神子字御崎前 1473-6 番地
調査原因：県代行市道若神子大蔵線工事
調査面積：216 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 18 年 12 月 6 日～平成 19 年 1 月 12 日

発掘調査の経過と成果

須玉町若神子は近世には佐久往還沿いの宿場町であった。中世後半には武田氏の信濃攻略の拠点となり、中世前半にも若神子古城が築かれ、また時宗寺院長泉寺が建立されるなど、北杜市内では数少ない都市的空間として繁栄した土地柄で、現在でも北杜市役所須玉総合支所が置かれている。街中には南北に旧佐久往還が通り、道路の東西には宿場町ならではの短冊状地割が並び往時の面影を今に伝えている。

歴史的町並みが感じられる若神子地区であるが、町村合併と北杜市発足に前後して、図書館、文化ホールなどの複合公共施設が建設され、現在の国道 141 号線からの交通アクセスの利便性を確保するため市道若神子大蔵線工事が計画された。工事計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地「御崎前遺跡」に該当することから、平成 15 年度から記録保存のための発掘調査が実施されてきた。市道新設工事であるが県代行事業として認定され、山梨県中北建設事務所が事業主体となっている。

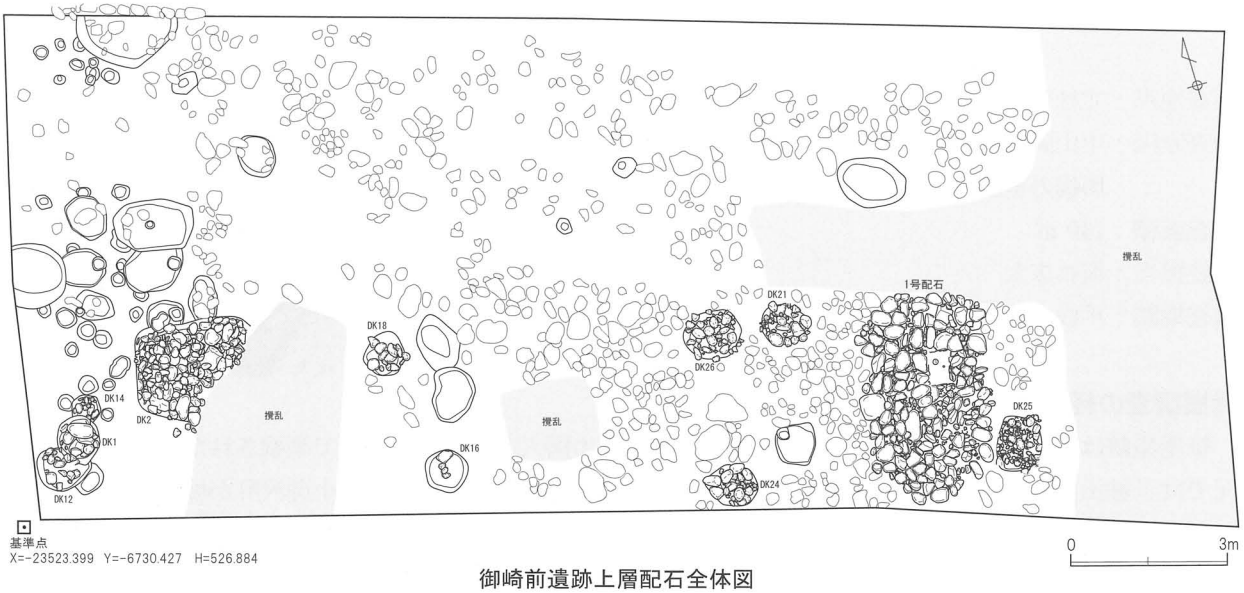
当該道路は、若神子市街地を東西に横断する形で建設される計画で、住民と家屋等の立ち退きにあわせて複数年度にわたり発掘調査と工事が繰り返されてきた。平成 18 年度は旧佐久往還沿いで工事が計画されたため発掘調査を実施した。平成 18 年度発掘調査の経費は 1,234,848 円で、山梨県が 1,220,000 円、14,848 円を北杜市が負担した。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

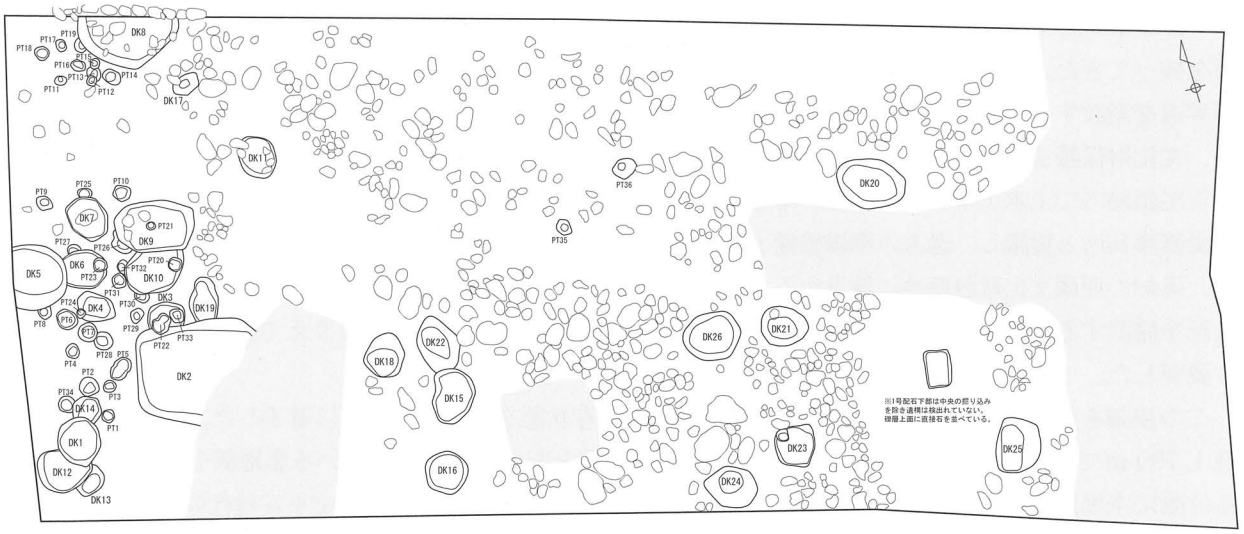
平成 18 年 12 月 4 日	中北建第 10302 号	埋蔵文化財発掘の通知について
平成 18 年 12 月 19 日	教学文第 2632 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 18 年 12 月 25 日	北杜生学第 990-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 19 年 1 月 17 日	北杜生学第 990-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 19 年 1 月 17 日	北杜生学第 990-6 号	埋蔵物発見届
平成 19 年 1 月 17 日	北杜生学第 990-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 19 年 1 月 17 日	北杜生学第 990-8 号	埋蔵文化財保管請証

発掘調査は、工事面積 289 ㎡のうちの 216 ㎡で実施した。中世から現代に至るまで営々と土地利用されてきた宿場町だけに地表下には近現代の造成層が堆積し、平成 17 年度に東の隣接地で確認された中世以前の遺構はほとんど検出できなかった。それでも 15 ～ 16 世紀代と思われる配石遺構 1 基、土坑 26 基、柱穴 35 基を検出し、中世陶磁器類、石器、金属製品などテンバコ 2 箱分が出土した。検出された遺構には、平成 17 年度調査地点のような中世墓に関連する遺構はなく、狭い範囲ながらも中世若神子の土地利用の状況が垣間見える。

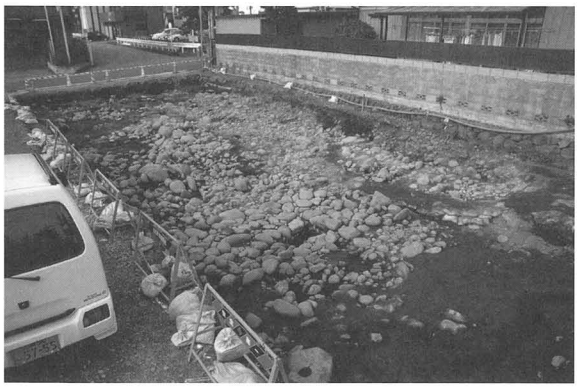
北杜市教育委員会　2006 『御崎前遺跡 I 』北杜市埋蔵文化財調査報告第 14 集



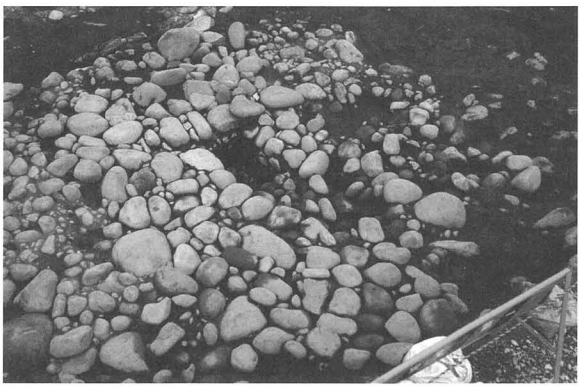
御崎前遺跡上層配石全体図



御崎前遺跡下層土坑全体図

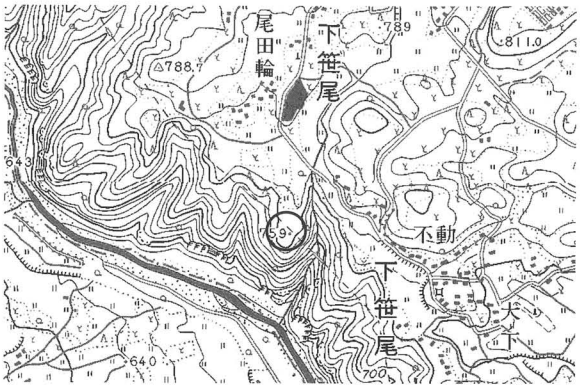


調査地点近景　東から



検出された配石遺構

14　笹尾塁跡



調査地点：北杜市小淵沢町下笹尾 754-1 番地ほか
調査原因：中山間地域総合整備事業八ヶ岳西部 2 期
　　馬場の里農村公園整備工事
調査面積：140 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 19 年 2 月 8 日～平成 19 年 2 月 26 日

発掘調査の経過と成果

笹尾塁跡は享禄六年（1531）、甲斐国守護武田氏と有力国人との抗争の過程で築城された山城である。地元では「城山」と呼ばれて往古の歴史を偲ぶよすがとされ、昭和 41 年には旧小淵沢町が城域のうちの主郭部分を史跡指定している。その後も昭和 50 年に城山公園として遊歩道、あずまやなどを整備した。平成 18 年度には城山公園の設備の老朽化、駐車場がない不便さなどから、県営土地改良事業の一環で、山梨県中北農務事務所が事業主体となり農村公園整備を実施することとなった。

笹尾塁跡は昭和 53 年には学術調査が実施されるなど、古くから著名な山城であったにもかかわらず、その一部が農地として利用されていたため、昭和 50 年代には調査を経ずして圃場整備工事が行われるなど破壊を被ってきた。平成 18 年度の農村公園整備工事は、史跡指定地外の圃場整備された農地を駐車場に整備し、遊歩道を新設するものであったため、すでに遺跡は消滅したと誤認され、開発行為と埋蔵文化財包蔵地の照会、文化財保護法による通知などの手続きを経ずして着工された。

笹尾塁跡内で土木工事が行われているとの情報を得た市教育委員会は、直ちに現地を確認するとともに中北農務事務所と協議し、過去の圃場整備工事で遺跡が完全消滅していることは必ずしも確認されていないこと、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することの理由により、文化財保護法による手続きをとり、遺構の保存状況を確認するための調査を実施し、必要な場合には遺構の保護措置を講じたうえで整備工事を施工するよう要望した。

この協議を受けて、平成 19 年 2 月 8 日より遺構の保存状態を確認する調査に着手した。まず駐車場予定地 1,790 ㎡で地中レーダー探査を実施し、従来、三の郭と四の郭と呼ばれている農地部分の両郭を区画する位置に空堀が存在する可能性があることを確認した。また工事用地の北東角で平安時代の住居跡 1 軒を確認した。このため記録保存のための発掘調査を実施して平安時代の住居跡を調査するとともに、空堀には試掘溝 1 ヶ所を発掘し、断面形状を確認した。これらの調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 19 年 1 月 19 日	中北農第 2699 号	埋蔵文化財発掘の通知について
平成 19 年 1 月 30 日	教学文第 2966 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 19 年 2 月 21 日	北杜生学第 1109-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 19 年 2 月 27 日	北杜生学第 1109-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 19 年 2 月 27 日	北杜生学第 1109-6 号	埋蔵物発見届
平成 19 年 2 月 27 日	北杜生学第 1109-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 19 年 2 月 27 日	北杜生学第 1109-8 号	埋蔵文化財保管請証

検出された遺構は平安時代の住居跡 1 軒、堀跡（空堀）1 条、溝状遺構 1 条、ピット 2 基で、縄文時代の土器および石器、平安時代の土器テンバコ 1 箱分が出土した。

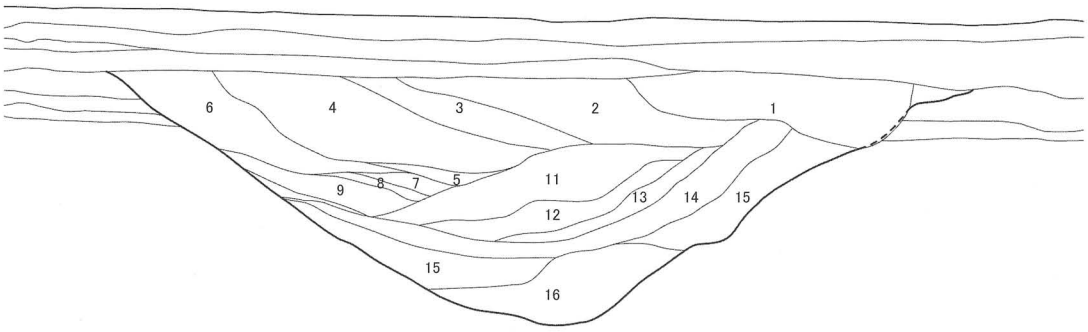
空堀は上端幅 9m、深さ 2.7m ほどの薬研堀で、黒褐色の地山層を掘り抜き、堀底は下層の硬くしまった黄

褐色層に達している。三の郭と四の郭を区画する位置にあり、東側は山腹斜面になお埋まりきらない堀跡に連続している。西側の山腹斜面にはそうした堀跡は視認できないが地中レーダー探査によると現状の平坦面の西端にまで堀が延び、かつ堀の中央部分には土橋が設けられているらしい。

堀は地山由来の黒褐色土と黄褐色土が交互に薄い層状となって堆積した埋土で埋められている。この埋土の堆積状況から推測すると、堀の南北両側には堀を掘った際に生じた土砂をもって版築された土塁があり、まず三の郭側で土塁を突き崩して堀を南から埋め立て、その後、四の郭側で同様に土塁を崩して堀を埋めている。堀を埋めた時期は特定できないが、堀底には自然堆積によると思われる黒褐色土が70cmほど堆積しているから、築城直後ではないと思われる。

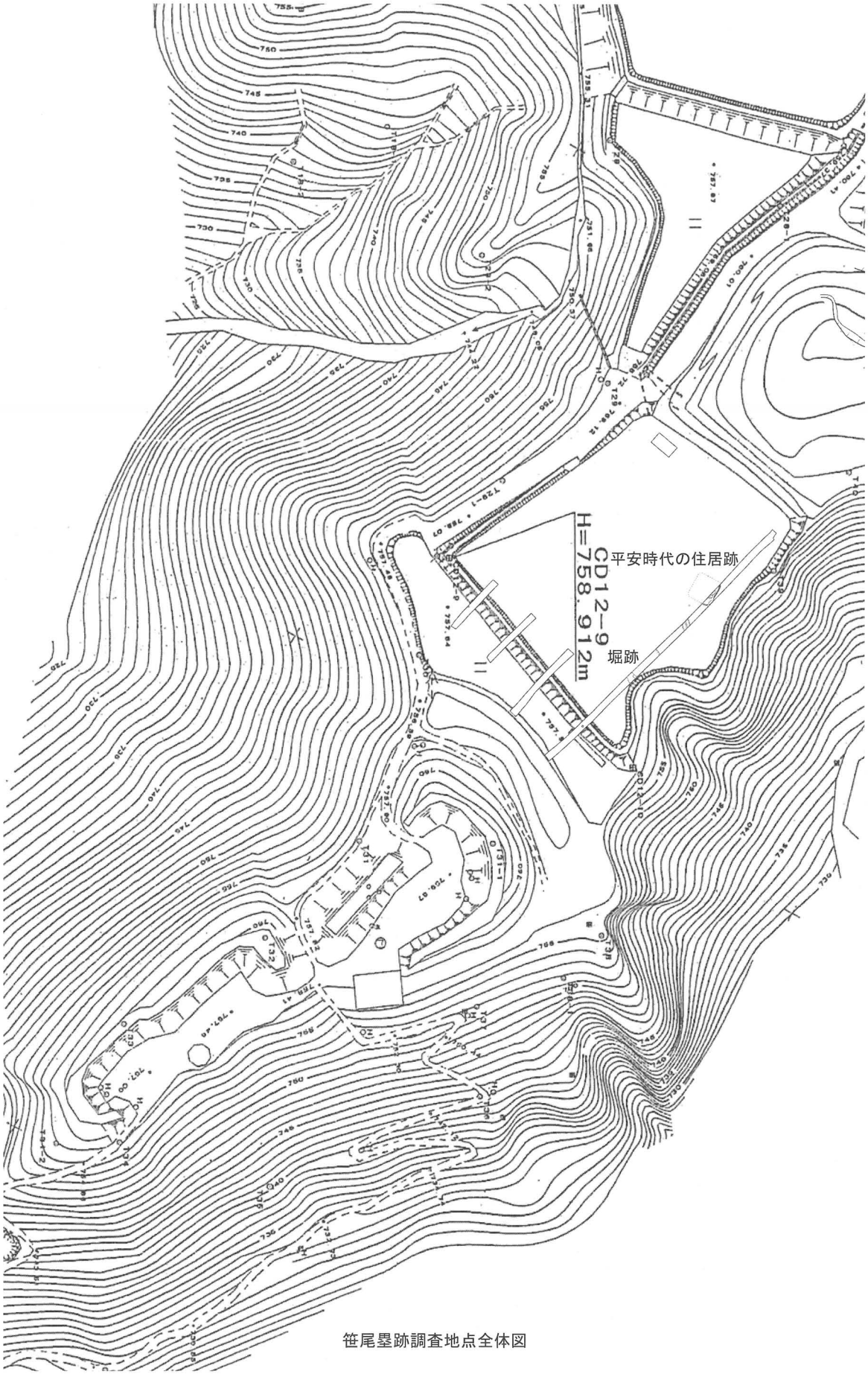
空堀は、以上のように規模が大きいものであるが、幸い、堀の検出面は駐車場整備工事の掘削深度より深いことが確認できたため、試掘溝を砂で以って埋め戻し、空堀全体を駐車場地下に現状のまま保存することとして調査を終了した。農村公園整備事業のために事業者側が笹尾塁跡全体と周辺の現況地形図を作製していた。この地形図を提供してもらい、山城遺構を追記して笹尾塁跡の現況図面を作成することができたことは幸いであった。

空堀断面の状況



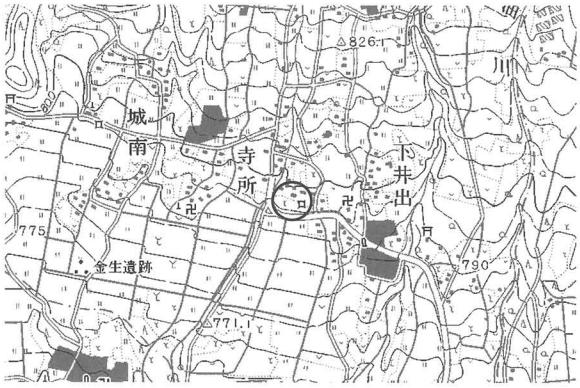
1層　Hue10YR5/4（にぶい黄褐）にHue10YR3/3（暗褐）が5%混入。しまりなし。粘性なし。攪乱。
2層　Hue10YR2/3（黒褐）にφ10～60mmのロームブロックが20%混入。ややしまる。粘性ややあり。
3層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～50mmのロームブロックが35%混入。ややしまる。粘性なし。
4層　Hue10YR3/4（暗褐）にφ10～30mmのロームブロックが7%、炭化物が2%混入。ややしまる。粘性ややあり。
5層　Hue10YR2/3（黒褐）にφ10～30mmのロームブロックが20%混入。ややしまる。粘性ややあり。
6層　Hue10YR4/2（灰黄褐）に炭化物が3%混入。しまる。粘性ややあり。
7層　Hue10YR2/3（黒褐）にφ10～40mmのロームブロックが7%、炭化物が2%混入。ややしまる。粘性ややあり。
8層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～50mmのロームブロックが35%混入。ややしまる。粘性なし。
9層　Hue10YR2/3（黒褐）に炭化物が3%混入。ややしまる。粘性ややあり。
10層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～50mmのロームブロックが30%混入。ややしまる。粘性なし。
11層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～80mmのロームブロックが35%混入。ややしまる。粘性なし。
12層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～30mmのロームブロックが15%、炭化物が2%混入。ややしまる。粘性ややあり。
13層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～50mmのロームブロックが35%混入。しまる。粘性なし。
14層　Hue10YR3/3（暗褐）にφ10～30mmのロームブロックが10%、炭化物が2%混入。しまる。粘性ややあり。
15層　Hue10YR4/2（灰黄褐）にHue10YR3/4（暗褐）が15%混入。しまる。粘性なし。
16層　Hue10YR4/2（灰黄褐）。しまる。粘性ややあり。

空堀断面図



笹尾墨跡調査地点全体図

15　清水遺跡



調査地点：北杜市大泉町西井出字蟹林 694-7 番地
調査原因：専用住宅
調査面積：193 ㎡
調査担当：坂口広太
調査期間：平成 19 年 2 月 13 日～平成 19 年 2 月 17 日

発掘調査の経過と成果

周知の埋蔵文化財包蔵地「清水遺跡」において専用住宅建設の計画があり、試掘調査を実施したところ平安時代の遺構が検出されたため、敷地面積 500 ㎡のうち住宅建築面積 193 ㎡で記録保存のための発掘調査を実施した。

調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 19 年 1 月 16 日		埋蔵文化財発掘の届出について
平成 19 年 1 月 30 日	教学文第 2880 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 19 年 2 月 13 日	北杜生学第 1098-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 19 年 2 月 20 日	北杜生学第 1098-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 19 年 2 月 20 日	北杜生学第 1098-8 号	埋蔵文化財保管請証
平成 19 年 2 月 20 日	北杜生学第 1098-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 19 年 2 月 20 日	北杜生学第 1098-6 号	埋蔵物発見届

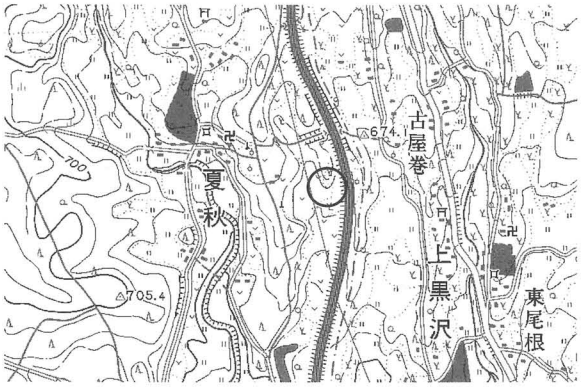
調査の結果、平安時代の住居跡 1 軒、縄文時代と平安時代の土坑 16 基、ピット 3 基を検出し、縄文時代と平安時代の土器テンバコ 1 箱分が出土した。

本遺跡の南側には平安時代の原田第 2 遺跡、原田遺跡、木ノ下・大坪遺跡があり、泉川の対岸には寺所遺跡が知られる。これらは一体の集落跡とみることもできる。さらに南側、長坂町分には窪田遺跡、石原田北遺跡、柳坪遺跡と平安時代集落が連続する。八ヶ岳南麓の緩斜面と泉川など水利に恵まれた大八田の地理条件ゆえの遺跡分布とみられ、逸見荘、中世大八田庄の一端が垣間みえるように思われる。

調査地点近景

遺構検出状況

16　治郎田遺跡



調査地点：長坂町夏秋字大大神 346 番地ほか 34 筆
調査原因：大規模太陽光発電実証研究施設
調査面積：2,068 ㎡
調査担当：村松佳幸
調査期間：平成 19 年 2 月 16 日～平成 19 年 3 月 30 日

発掘調査の経過と成果

独立行政法人新エネルギー・は次世代エネルギーとして期待されている太陽光発電の実証研究のため、実証研究施設建設地を公募した。日照時間日本一を謳う北杜市では民間通信業者と協同でこれに応募し、事業地として選定を受けた。市で当該事業を所管する環境課が埋蔵文化財の有無について市教育委員会に照会し、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地「治郎田遺跡」に該当することを確認した。事業予定地の絞込みが終わった段階で、試掘調査を実施したところ、平安時代の遺構が確認されたため、着工前に記録保存のための発掘調査を実施することとなった。大型の太陽光発電施設を設置するためには相当程度に基礎工事をともない、かつ研究施設であるため平坦面を造成する必要があり、遺跡の現地保存は困難であったためである。調査に係る公文書は以下のとおりである。

平成 18 年 11 月 14 日	北杜環境第 1168 号	埋蔵文化財発掘の通知
平成 18 年 11 月 27 日	教学文第 2368 号	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
平成 19 年 2 月 21 日	北杜生学第 922-4 号	埋蔵文化財発掘調査の報告について
平成 19 年 3 月 30 日	北杜生学第 922-5 号	埋蔵文化財調査終了報告について
平成 19 年 3 月 30 日	北杜生学第 922-6 号	埋蔵物発見届
平成 19 年 3 月 30 日	北杜生学第 922-7 号	埋蔵文化財保管証
平成 19 年 3 月 30 日	北杜生学第 922-8 号	埋蔵文化財保管請証

調査の結果、平安時代竪穴住居跡 3 軒、掘立柱建物跡 2 棟、溝状遺構 3 条、竪穴状遺構 3 基、土坑 10 基、ピット 44 基を検出した。出土遺物は、旧石器時代の石器 1 点、平安時代の土器テンバコ 2 箱分が出土した。当該事業は平成 19 年度にも継続して実施され、あわせて発掘調査も地点を変えて実施する計画である。

調査地点近景

住居跡完掘状況

平成18年度刊行の北杜市埋蔵文化財調査報告書一覧

書名		発行年月	主な遺構等
北杜市埋蔵文化財調査報告第22集	湯沢遺跡	2007.3	平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・官衙的遺跡か
北杜市埋蔵文化財調査報告第23集	丘の公園第1遺跡	2007.3	後期旧石器時代・ナイフ形石器終末期・ナイフ形石器・彫器・楔形石器・石刃・石核・黒曜石・チャート・水晶
北杜市埋蔵文化財調査報告第24集	竹宇3遺跡	2007.3	縄文時代前期・中期の住居跡3軒
北杜市埋蔵文化財調査報告第25集	平成18年度年報	2007.3	

平成18年度文化財保護法第93条届出一覧

届出日	町名	所在地	面積	遺跡の名称	工事の目的	指示事項	調査日	調査面積	顛末	備考
12月8日	須玉	東向字中屋敷2588	933	三枝土佐守屋敷	個人住宅	立会	5/25-5/26	10		
1月25日	高根	村山東割字石田前754	577	石田前遺跡	個人住宅	試掘	5月10日	20	遺構なし	
3月17日	長坂	大八田字窪田1749-1ほか	3,849	窪田遺跡	駐車場	試掘	5/16-5/30	200	一部記録保存	現状保存措置
3月28日	高根	東井出字上手原4986-496	822	泉・上手原遺跡	個人住宅	試掘	4/11-4/12	12		
4月3日	大泉	西井出字辻2100	999	宮地第1遺跡	個人住宅	試掘	4月24日	10	遺構なし	
4月10日	大泉	西井出字石堂8240-7890	663	若林第2遺跡	個人住宅	試掘	5月10日	20	遺構なし	
4月13日	高根	蔵原字西久保2403-3		西久保遺跡	個人住宅	試掘	5/9-5/22	134	記録保存	縄文・古墳住居2軒
4月14日	高根	蔵原字西久保2408-39	409	西久保遺跡	個人住宅	試掘	4/25-5/8	30	記録保存	弥生時代住居1軒
4月17日	明野	浅尾5259-586ほか	58,358	浅尾原Ⅵ遺跡	廃棄物最終処分場	発掘	4/26-8/31	58,358	記録保存	処分場本体用地
4月20日	小淵沢	下久保6313-1	1,369	下久保遺跡	個人住宅	試掘				
4月21日	長坂	大八田字渋田1112-1ほか	286	渋田北遺跡	個人住宅	試掘	5月15日	30	遺構なし	
4月25日	長坂	白井沢字横手989-2	499	横手遺跡	個人住宅	試掘	10/5-10/6	5		
4月27日	大泉	西井出字石堂8240-914	383	石堂遺跡	個人住宅	立会	5月15日	10	遺構なし	
4月28日	長坂	大八田205	800	石原田北遺跡	個人住宅	立会	6月28日	10	遺構なし	
4月28日	小淵沢	上笹尾字中村987	370	中林遺跡	個人住宅	試掘	6月28日	10	遺構なし	
5月1日	小淵沢	西上庄1135-2	300	天神森遺跡	個人住宅	試掘	5月18日	10	遺構なし	
5月8日	長坂	小荒間字信玄原2077	1,016	桜畑遺跡	個人住宅	試掘	6月15日	10	遺構なし	
5月8日	高根	小池字中原37-10ほか	686	中原遺跡	個人住宅	試掘	5月23日	40	遺構なし	
5月11日	明野	上手8259-9ほか	330	平林・平林南遺跡	個人住宅兼店舗	立会	6月5日	10	遺構なし	H2年宅地造成調査済
5月15日	大泉	谷戸字富谷3966	872	下新居遺跡	社員寮	立会	5月24日	10	遺構なし	
5月15日	須玉	若神子字御所村北2245-1	930	若神子御所遺跡	個人住宅	立会	6月2日	10	遺構なし	
5月19日	長坂	白井沢字小泉3036-2ほか	984	芋干平遺跡	個人住宅	試掘				
5月22日	武川	黒沢字北小路1648-1	1,288	北小路遺跡	個人住宅	立会	5月30日	10	遺構なし	
5月22日	高根	東井出字野添1208-1	251	野添遺跡	個人住宅	試掘	6月27日	10	遺構なし	
5月22日	須玉	大豆生田字大免690-1	228	多屋前遺跡	個人住宅	立会	10/18-10/19	10		
5月25日	大泉	西井出8240-101	643	油川第2遺跡	個人住宅	立会	6月12日	10	遺構なし	
5月29日	大泉	西井出字石堂8240-7875ほか	359	若林第3遺跡	個人住宅	立会				
6月1日	高根	五町田字御所720-1	645	御所遺跡	個人住宅	試掘	6/26-6/30	60		
6月5日	長坂	大井ヶ森813	88	横山平南遺跡	個人住宅	立会	6月16日	10	遺構なし	
6月23日	小淵沢	竹原3507	982	竹原遺跡	個人住宅	立会	7月31日	10	遺構なし	
6月27日	高根	村山北割3259-5ほか	253	当町B遺跡	個人住宅	立会	7月10日	10	遺構なし	
6月27日	高根	村山北割字社口20-3	498	社口遺跡	個人住宅	試掘	7月7日	10	遺構なし	
6月28日	須玉	穴平字源長2399	842	夏目原遺跡	個人住宅	立会	7月5日	10	遺構なし	
6月29日	小淵沢	上笹尾2892	288	滝の前遺跡	個人住宅	立会	8月28日	5	遺構なし	
7月12日	大泉	西井出1542-1ほか	438	下井出遺跡	個人住宅	立会	7月24日	10	遺構なし	
7月13日	高根	下黒沢字日影田2422-1ほか	928	日影田遺跡	個人住宅	立会	8月3日	20	遺構なし	
7月13日	高根	下黒沢字打越2821	1,016	次郎構遺跡	宅地造成	立会	7月28日	20	遺構なし	
7月18日	明野	浅尾字吉良窪3639-1	2,990	吉良窪遺跡	宅地造成	発掘	10/17-10/26	570	一部保存	平安時代住居3軒
7月18日	高根	堤字西の入39	6,592	西の入遺跡	宅地造成	試掘	3/20-3/22	300		
7月20日	高根	清里字念場原3466-459	992	長原A遺跡	個人住宅	立会				
7月21日	武川	宮脇字郷原930	374	三貫目遺跡	個人住宅	立会				
7月21日	小淵沢	中原3062-4	29	中原遺跡	個人住宅	試掘	9月4日	10	遺構なし	
7月25日	高根	村山北割1380-1	330	旭西久保B遺跡	個人住宅	立会	8月17日	5	遺構なし	

7月26日	白州	白須字大原8592-15	329	大原1遺跡	個人住宅	立会	8月30日	20	遺構なし	
7月31日	小淵沢	上笹尾187-69	787	西堀込北遺跡	個人住宅	立会	9月28日	20	遺構なし	
8月22日	武川	黒沢字下原1742-4	436	黒沢遺跡	個人住宅	立会	10/23-10/24	20		
8月28日	高根	蔵原字藤代388-1	480	藤代遺跡	個人住宅	試掘	11/6-11/7	20		
8月28日	長坂	大八田字道添3881ほか	878	小屋敷遺跡	個人住宅	試掘	9/20-10/3	80	記録保存	平安住居2軒
9月4日	明野	小笠原字机腰3830	130	中原遺跡	個人住宅	立会	10月3日	10	遺構なし	
9月5日	長坂	大八田字古屋敷4980-3	437	小屋敷遺跡	個人住宅	立会	9月27日	70	遺構なし	
9月11日	長坂	日野字姥久保2316ほか	851	上日野B遺跡	事務所	立会				
9月11日	長坂	小荒間字信玄原1968-4ほか	522	信玄原遺跡	個人住宅	立会	9月25日	29	遺構なし	
9月14日	明野	浅尾5260-37	2,348	浅尾原Ⅵ遺跡	廃棄物最終処分場	発掘	10/11-11/15	2,348	記録保存	作業ヤード用地
9月19日	白州	花水278-8	306	花水大平遺跡	個人住宅	立会	10月3日	10	遺構なし	
9月22日	大泉	谷戸字豆生田588-1	124	豆生田第Ⅲ遺跡	個人住宅	試掘	11/27-11/28	10		
10月16日	小淵沢	竹原3516-1	948	竹原遺跡	無線基地局	立会				
10月26日	高根	村山西割字高内982	1,287	高内A遺跡	集合住宅	試掘	12/5-12/12	70		
10月26日	高根	村山東割字上の反508-1	355	上の反遺跡	農業用倉庫	立会	11/20-11/21	10		
10月27日	高根	村山西割419-4	106	老ヶ森B遺跡	個人住宅	試掘	12/4-12/5	20		
10月30日	大泉	西井出字和田9107-1	43	甲ッ原遺跡	個人住宅	立会	1/16-1/17	10		
11月8日	武川	山高字真原3567-222	330	真原B遺跡	個人住宅	試掘	11/27-11/28	10		
11月8日	武川	黒沢字向原1775-4	738	向原遺跡	土砂採取	試掘			現状保存	平安時代住居跡等を検出・現地保存措置
11月13日	白州	白須字大除3227	739	大除4遺跡	個人住宅	立会	1/10-1/11	30		
11月14日	須玉	東向字中屋敷2745-1	655	中屋敷北遺跡	個人住宅	立会	12/13-12/14	10		
11月17日	武川	山高3567-3ほか	1,400	真原A遺跡	農業関係事業	発掘	12/5-12/18	1,400	現状保存	縄文時代住居等を検出・現地保存措置
11月27日	明野	浅尾字天王原3560-6	631	天王原遺跡	個人住宅	試掘				
11月27日	小淵沢	6670-6番地	34	加室遺跡	個人住宅	立会				
12月1日	長坂	大八田4989-1	63	小屋敷遺跡	個人住宅	試掘	1/10-1/11	10		
12月6日	高根	蔵原字西久保2408-5ほか	1,893	西久保遺跡	個人住宅兼工場	試掘	12/14-12/15	20		
12月8日	明野	浅尾5260-35ほか	18,412	浅尾原Ⅵ遺跡	廃棄物最終処分場	発掘			記録保存	残土仮置場用地
12月11日	高根	五町田43-1	340	菖蒲原A遺跡	個人住宅	立会	12/25-12/26	10		
12月20日	高根	下黒沢447-6ほか	985	斜遺跡	宿舎兼倉庫	立会				
1月9日	高根	五町田字大坪448-2	662	大坪遺跡	個人住宅	立会	1/24-1/25	10		
1月12日	高根	堤字南反482	165	西の入遺跡	無線基地局	立会				
1月12日	大泉	西井出字和田9073-1	348	甲ッ原遺跡	無線基地局	立会	2月19日	1	記録保存	縄文土坑1基
1月12日	高根	小池字中原37-6	330	中原遺跡	個人住宅	立会				
1月15日	須玉	若神子1476-1	297	御崎前遺跡	郵便局	発掘	2/26-3/2	25	現状保存	中世の遺構を検出、現地保存措置
1月16日	大泉	西井出字蟹林694-7	500	清水遺跡	個人住宅	発掘	2/13-2/17	193	記録保存	平安住居1軒
1月19日	高根	上黒沢字宮尾根749-1ほか	664	宮尾根D遺跡	個人住宅	立会				
1月22日	高根	下黒沢2817-4ほか	2,267	次郎構遺跡	宅地分譲	試掘	2/22-2/23	40		
1月22日	高根	村山北割字山の神4035	198	大久保遺跡	無線基地局	立会				
1月25日	長坂	長坂上条字向田891-2	973	長坂上条遺跡	無線基地局	立会				
1月30日	小淵沢	上前後沢4263-1ほか	128	上前後沢遺跡	個人住宅	立会				
2月2日	武川	牧原字西原961-5ほか	565	西原A遺跡	個人住宅	立会				
2月7日	長坂	白井沢字山ノ腰1855-2	326	横針中山遺跡	個人住宅	立会				
2月7日	須玉	大豆生田字多屋前505-11ほか	77	藤巻伊予守屋敷	個人住宅	立会				
2月26日	大泉	西井出字寺所207-6ほか	546	寺所第2遺跡	個人住宅	慎重工事				
3月1日	白州	横手2071-6	402	古御所遺跡	個人住宅	試掘				

3月6日	大泉	西井出字石堂8240-1774ほか	637	油川第2遺跡	個人住宅	立会				
3月6日	小淵沢	上笹尾字滝之前2827-2ほか	194	滝の前遺跡	その他建物	試掘				
3月9日	高根	村山北割字当り町5100	727	藤林寺遺跡	個人住宅	立会				
3月22日	長坂	小荒間字桜畑50-5ほか	2,996	桜畑南遺跡	宅地造成	試掘				
3月22日	大泉	西井出字石堂8240-2233	2,185	石堂遺跡	無線基地局	立会				
3月28日	大泉	西井出字泉下6189-1ほか	1,190	泉下遺跡	個人住宅	立会				
3月28日	須玉	若神子字御崎前723-2ほか	430	御崎前遺跡	個人住宅	試掘	H19/4/6予定			
3月29日	武川	山高2523-1	1,022	寺久保遺跡	個人住宅	立会				

平成18年度文化財保護法第94条通知一覧

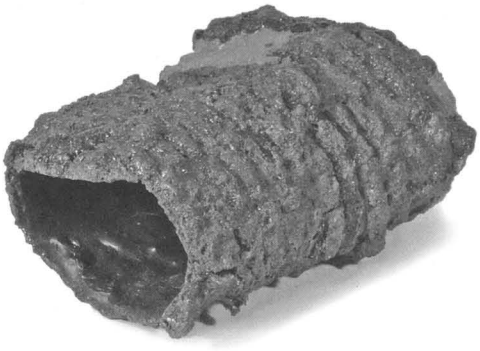
届出日	町名	所在地	面積	遺跡の名称	工事の目的	指示事項	調査日	調査面積	顛末	備考
5月22日	高根	下黒沢2303-4ほか	533	日影田遺跡	道路	試掘	7/5-7/31	533	記録保存	中世堀跡
5月15日	高根	上黒沢字中久保1284-2ほか	549	宮尾根A遺跡	道路	立会	8月1日	10	遺構なし	
6月26日	高根	村山西割1887-1	50	西ノ原B遺跡	防火水槽	立会	9月5日	10	遺構なし	
6月13日	高根	五町田849ほか	1,000	御所遺跡	道路	試掘	9月8日	20	遺構なし	
8月28日	白州	白須字竹宇2881-2ほか	6,475	竹宇3遺跡	農業基盤整備	発掘	9·5-10·3	1,873	記録保存	縄文住居3軒
6月26日	長坂	塚川字東前田1767ほか	1,222	下村遺跡	農道整備	発掘	10/10-11/10	1,085	記録保存	中世遺構
9月20日	長坂	長坂上条字大林2051-1ほか	3,919	大林遺跡	郵便局	立会	10/10-2/28	390		
9月28日	長坂	塚川字頭無1500ほか	2,956	頭無A遺跡	農道整備	発掘	10/23-2/19	2,956	記録保存	弥生末方形周溝墓ほか
6月26日	白州	台ヶ原字中台159-1	50	中台1遺跡	防火水槽	立会	11/9-11/10	10		
11月1日	高根	五町田字久保27ほか	6,480	菖蒲原A遺跡	道路	試掘				
12月4日	須玉	若神子字御崎前1473-6	289	御崎前遺跡	道路	発掘	12/20-1/15	233	記録保存	中世遺構
12月15日	高根	下黒沢字乙坂56-1ほか	3,000	斜遺跡	道路	試掘	1/24-1/30	145		
11月20日	長坂	白井沢字阿原836-2ほか	918	阿原遺跡	道路	試掘	1/24-1/25	30		
11月20日	大泉	西井出字下井出1459ほか	415	下井出墓址	道路	試掘	1/25-1/26	30		
12月15日	大泉	西井出字下井出1638ほか	31	下井出墓址	農業用水路	立会	1/29-1/30	20		
11月14日	長坂	夏秋字大大神346ほか	31,100	治郎田遺跡	太陽光発電施設	発掘	2/16-3/30	2,068	記録保存	平安住居3軒ほか
1月19日	小淵沢	下笹尾754-1ほか	1,790	笹尾墓跡	農村公園	試掘	2/20-2/26	140	一部保存	中世堀跡ほか
12月1日	長坂	大井ヶ森591-1ほか	146	大井ヶ森口留番所跡	道路	試掘	3/12-3/13	146		
12月15日	大泉	谷戸字城下2664ほか	103	城下遺跡	農業用水路	立会				
12月15日	大泉	西井出字寺所269	95	寺所遺跡	農業用水路	立会				
1月25日	高根	五町田字柳田974-1ほか	822	柳田B遺跡	道路	立会				
1月25日	武川	黒沢字向原1762-2	1,000	向原遺跡	残土置場	試掘			一部破壊	無届工事に伴う現況確認調査
3月1日	高根	下黒沢字坂上91-1ほか	2,800	坂上遺跡	道路	発掘	3月23日		記録保存	H19発掘予定
3月27日	長坂	夏秋字大大神322ほか	39,687	頭無A遺跡	太陽光発電施設	発掘				H19発掘予定

試掘実施依頼に基づく調査

依頼日	町名	所在地	面積	遺跡の名称	工事の目的	指示事項	調査日	調査面積	顛末	備考
1月26日	須玉	下津金字中川手4019ほか	85,300	下津金工区遺跡	農業基盤整備		3/22-3/24	1,000	遺構なし	

確認調査・学術調査

報告日	町名	所在地	面積	遺跡の名称	調査の目的		調査日	調査面積	顛末	備考
3月30日	明野	浅尾字浅尾原5259-2282ほか	1,467	梅之木遺跡	重要遺跡確認調査		4/3-3/30	1,467	現地保存	



頭無A遺跡5号方形周溝墓主体部で出土した鉄釧。

出土時点で非常に脆弱であったため、ただちに保存処理した。保存処理後の法量は、長102mm、幅81mm、高50mm、重量159.8g。幅6mm、厚2mmほどの断面三角形の1本の鉄材を螺旋状に巻き上げている。

巻き上げ後は15巻で、上下に端部が確認される。表面には布が付着している。両端部の幅は異なり、それぞれ62mm、78mmとなっている。細い端部が手首側に装着されたのであろう。

北杜市埋蔵文化財調査報告第25集
北杜市文化財年報
－平成18年度－

2007年3月25日印刷
2007年3月31日発行

発行　北杜市教育委員会
山梨県北杜市須玉町大豆生田961－1
TEL（0551）42-1373

印刷　ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5
TEL（026）244-0235